

平成 23 年度

知床国立公園ウトロ海域における海鳥の保護と
持続可能な海域利用検討業務

Protection of sea birds and sustainable use of the marine
environment along the Utoro coast of Shiretoko National Park.

報 告 書

平成 24 年 3 月

環境省釧路自然環境事務所

平成 23 年度
知床国立公園ウトロ海域における海鳥の保護と持続可能な海域利用検討業務
Protection of sea birds and sustainable use of the marine
environment along the Utoro coast of Shiretoko National Park.

目 次

1. 業務概要	1
1-1. 業務の目的	1
1-2. 業務概要	1
1-3. 業務内容	2
2. これまでの経緯	3
2-1. 検討会に至る背景	4
3. 利用者動向調査	7
3-1. 調査目的	7
3-2. 調査方法	7
3-3. アンケート調査結果（基本集計）	12
3-4. アンケート調査結果（前期（6-7月）・後期（8-9月）比較）	25
4. 各事業所における自然情報収集調査	36
4-1. 調査概要	36
4-2. 実施方法	36
4-3. 記録内容および調査範囲	36
4-4. 調査期間	36
4-5. 実施結果	38
5. 専門家を加えた関係者との検討会の開催	43
5-1. 第1回 関係者会議	44
5-2. 第1回 ウトロ海域部会	49
5-3. 第2回 ウトロ海域部会	55
5-4. 第2回 関係者会議	60
6. 広報用ホームページの作成について	65
6-1. 製作までの経緯	65
6-2. Web サイトの作成	65
7. ミニ出前講座の開催	78
7-1. 第1回 ミニ出前講座	79
7-2. 開催概要	79

7-3.	議事概要.....	80
7-4.	第2回 ミニ出前講座.....	88
7-5.	開催概要.....	88
7-6.	議事概要.....	89
8.	知床国立公園における海域適正利用の具体的対策の検討	100
8-1.	ケイマフリをはじめとする海鳥の生態調査	100
8-2.	ケイマフリの生息に関する啓蒙普及の継続	100
8-3.	取り組みの継続のための実施体制の確立.....	101
8-4.	海鳥営巣地保護エリアの設定や自主ルールづくり	102
9.	別途業務との連携協力	102
10.	今後の課題.....	103
10-1.	利用者動向調査	103
10-2.	海域状況観察記録.....	103
10-3.	広報用のホームページ作成について	104
10-4.	ミニ出前講座の開催.....	104

資料編

1.業務中間報告レポート

1. 業務概要

1-1. 業務の目的

知床国立公園の斜里町側の海沿いでは、ウミウやウミネコをはじめとする数多くの海鳥が繁殖している。その中でもレッドリストで絶滅危惧種Ⅱ類に指定され、希少鳥獣でもあるケイマフリについては、知床半島斜里側の断崖が国内で数少ない繁殖地であるとともに、その繁殖地付近の海域において漁業・観光の利用がなされていることから、保護と利用の両立を図ることが求められている。

ケイマフリの減少要因は明らかではないが、生息海域では従来からの生業として営まれてきた漁業に加え、近年では観光船による利用やシーカヤックでの利用など様々な形態での利用がなされており、海鳥等の野生生物を取り巻く環境は変化している。また、平成 21 年 6 月に改正された自然公園法では、新たに海域での自然環境保全のための取組みも強化されている。

このような状況の中、本業務では、ケイマフリ等海鳥の保護と持続可能な海域利用の両立をはかるため、海域の利用動向の調査を行うとともに、海域の利用状況、過去の海鳥の調査結果及び昨年までの検討経緯を踏まえて、海域を利用するすべての関係者と海鳥や自然環境にとって好ましい状態について検討するために、海域利用関係者（事業者等）や関係行政機関に加え、海鳥等に関する学識経験者の参画した検討会を開催する。また、海域の利用やその取組みについて紹介するホームページの作成を行う。

1-2. 業務概要

- 1) 業務名称：平成 23 年度知床国立公園ウトロ海域における海鳥の保護と持続可能な海域利用検討業務
- 2) 業務箇所：斜里町ウトロ
- 3) 業務期間：平成 23 年 4 月 11 日～平成 24 年 3 月 26 日
- 4) 発注者：環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所
- 5) 受注者：ユニオンデータシステム株式会社

1-3. 業務内容

本年度業務における業務項目を以下に示す。

① 利用者動向調査

ウトロ海域のレクリエーション利用の状況・動態を把握するため、大型観光船、小型観光船、シーカヤックの利用者に対してアンケート調査を行う。

② 各事業所における自然情報収集調査

ウトロ海域でレクリエーション利用を行っている各事業所に、海鳥やヒグマなどの情報の収集アンケートを実施してもらうための調整と、収集された情報のとりまとめを行う。(海域状況観察記録の実施依頼)

③ 専門家を加えた関係者との検討会の開催

関係者打合せの開催（1回程度）、現地検討会の開催（2回程度）

④ 広報用ホームページの作成について

ウトロ海域の見どころ（景観、野生生物、海鳥）、観察方法、アクティビティの紹介、利用にあたっての注意や準備すべきもの、ウトロ海域での調査・検討会などの取り組み等について紹介できるホームページの作成を行う。

⑤ ミニ出前講座の開催

ウトロ地域において地元で活動している海鳥の専門家及び地元識者によるミニ出前講座を開催する。(斜里町ウトロ開催、2回程度)

⑥ 知床国立公園における海域適正利用の具体的対策の検討

上記①～④を踏まえ、知床国立公園ウトロ海域における海域の適正利用の具体的対策について検討・提案する。

⑦ 別途業務との連携協力

本業務を進めるにあたり、別途実施している海域の調査業務と随時連携協力を図る。

2. これまでの経緯

本業務は、「知床国立公園ウトロ海域における適正利用検討業務」（平成 21～22 年度）において進められてきた議論に基づき計画されたものであり、取組み体制や取組み方針については、基本的に昨年度までの流れを踏襲するものである。また平成 21 年度以前の海鳥保護に関する取組みとしては、前年の平成 20 年度に環境省、知床海鳥研究会（代表 福田佳弘氏）、地元観光船事業者らとの間で、海鳥の生息と観光船の与える影響について、これまでの調査結果を交え意見交換が交わされている。

海鳥の生態調査に関連しては、平成 9 年度（1997）以降に斜里町（1997-1998）、知床海鳥研究会（1999-2003）、環境省（グリーンワーカー事業「知床半島における海鳥生育状況調査」 2004-2009、マリンワーカー事業「知床国立公園ウトロ海域における海鳥調査業務」 2010-2011）と継続的に生息状況調査が実施されており、中でもケイマフリの繁殖状況については、2002 年から毎年観察が続けられている。

●平成 21 年度 知床国立公園ウトロ海域における適正利用検討業務（環境省）

- ・ 既存データの収集・整理
- ・ 他地域での先進事例の収集
- ・ 地元関係者ヒアリング
- ・ 懇談会の開催
事前打合せ 平成 22 年 2 月 10 日（場所：阿寒湖自然保護官事務所）
懇談会 平成 22 年 3 月 5 日（場所：知床世界遺産センター）
- ・ 知床国立公園における海域適正利用の方向性の検討

●平成 22 年度 知床国立公園ウトロ海域における適正利用検討業務（環境省）

- ・ ケイマフリデコイ設置に関する情報収集と整理
- ・ ケイマフリ等の重要性についての共通認識の確立
関係者ヒアリング、関係者による現地視察および検討
- ・ 観光船利用者動向調査（試験調査）の実施
- ・ 関係者会議・地域検討会の開催
関係者会議（2 回）、地域検討会（2 回）の開催

会議区分	開催日	場所・日時	参加者状況
関係者会議	H22 年 7 月 8 日	札幌（環境省北海道地方環境事務所）	環境省、専門委員ら 6 名
地域検討会	H22 年 7 月 26 日	斜里町（世界遺産センター）	環境省、専門委員、地域関係者ら 21 名
地域検討会	H22 年 11 月 30 日	斜里町（斜里町役場）	環境省、専門委員、地域関係者ら 19 名
関係者会議	H23 年 2 月 17 日	釧路（環境省釧路自然環境事務所）	環境省、専門委員ら 7 名

- ・ ガイドブック（パンフレット）の原版作成
- ・ 次年度実施計画の検討

2-1. 検討会に至る背景

2-1-1. ウトロ海域利用に関する経緯

- ・ 昭和 59 年 2 月に、貴重な植物群落や各種野生鳥獣の生育地である知床岬一帯の自然景観を保護するため、レクリエーション目的の立ち入りを抑制することを目的として、関係行政機関において「**知床岬地区の利用規制指導に関する申し合わせ**」が策定された。
- ・ 平成 16 年 12 月に、知床国立公園利用適正化検討会議において「**知床先端部地区利用適正化基本計画**」が策定され、海鳥・海棲哺乳類や漁業活動へ悪影響が生じないように一定の「利用の心得」の下で利用することが方針として示された。
- ・ 平成 17 年 6 月に知床岬において発生した観光船の座礁事故を発端として、同年 7 月に**知床地区旅客船等安全対策等連絡会議**が組織され、平成 18 年には、主に安全面を勘案し、利用の心得の作成状況等も参考として基準航路が策定された。しかし、基準航路策定時に関係機関が全員一致しての結論には至っていない。当会議は、平成 17 年度以降事故が発生していないことから平成 20 年から活動休止中。
- ・ 平成 20 年 1 月に、地域の関係機関によって知床半島先端部を利用するためのルールとして、「**知床半島先端部地区利用の心得**」が公表された。利用の心得の中では、①観光船では認可を受けている航路から外れて航行しないことや、②海棲哺乳類、海鳥、猛禽類及びヒグマ等の生息行動に影響を与えるような接近行為をしないことなど、動力船による海域利用に関する事項もあげられている。
- ・ 平成 20 年 2 月に開催された知床世界遺産調査報告会において、海鳥の繁殖に関して、観光船による海域利用の影響を受けている可能性が推察されるとの発表を受けて、科学委員会の委員からも、海域の利用について検討が必要である旨の指摘を受けた。
- ・ 知床の世界自然遺産としての価値をより良い形で後世に引き継いでいくに当たり、極めて多様かつ特異な価値を有する遺産地域の自然環境を将来にわたり適正に保全・管理していくことを目的として、平成 21 年 12 月に「**知床世界自然遺産地域管理計画**」が策定された。

- ・ この中で、遺産地域の原生的な自然環境を将来にわたり保全し、人々に大きな感銘をもたらし続けることを前提として、観光、自然探勝、登山、釣り等の利用は、自然環境に支障を及ぼすことのないよう適正に行うことで、原生的な自然環境の保全と、地域の主要な産業である観光を始めとするレクリエーション利用との両立を図ることが基本方針として示されている。

また、遺産地域の海岸部及び海域は、ケイマフリやオオセグロカモメ、ウミウ等の海鳥や海棲哺乳類の生息地・繁殖地となっているため、観光・レジャー目的の船舶や水上バイクの航行、無秩序な餌やりや観察等がこれら海鳥や海棲哺乳類に悪影響を与えることも懸念される。このため、海域のレクリエーション利用が海鳥や海棲哺乳類に悪影響を与えないようルールづくりを行うとともに、普及啓発を行うということが、主要利用形態毎の対応方針として示されている。

2-1-2. 自然公園法の改正（海域公園地区制度の創設）

- ・ 近年、優れた海中の景観の他、海上を含む海域の景観が、ますます自然探勝に供され、また海鳥の休息地等として生物多様性保全の観点からも重要であると評価されるなど、その価値が高まってきている。

また、海洋性レクリエーションの多様化により、優れた景観を間近に眺めることができる海域は、シーカヤックなどを用いた質の高い自然体験の場として利用されることなどにより、その重要性が高まっている。

このように海域における景観の価値は、海中にとどまらず海上についても重要であると認められるようになりつつあり、海域の景観の保護に向けた取組は、海上の景観も含めて総合的に推進していくことが必要となっている。

そのため、海中の景観のみを対象としていた現行の海中公園地区制度を、生物多様性の豊かな干潟や、干潮時に海上に干出する岩礁等の特徴的な地形、海鳥、海獣等の動植物によって構成される海上の景観を含む海域公園地区に改め、陸海域の一体的な保全を図ることが可能となる。

また、観光船により無秩序なウォッチングツアーが野生動物等へ悪影響を与えることが報告されていることから、これまで陸域に限定されていた利用調整地区を海域公園地区にも指定できることとし、海域における公園利用者の立入り人数・期間・方法等を調整することにより、海域の生態系の保全と持続可能な利用を推進することができるようになる。

2-1-3. 検討会の開催と地域参加による取り組みの開始

平成 22 年度より「知床国立公園ウトロ海域における適正利用検討会」の事業実施により、地域の海域利用者（漁業者・観光船事業者）および行政機関、各種団体、研究者らの海域関係者による海域の保護と利用に関する検討と具体的取り組みが本格的に始まった。検討会では生息数の減少が懸念されているケイマフリを中心に、その保護と海域利用に関する検討が行われている。平成 22 年度には検討会の平成 22 年度～平成 24 年度までの 3 カ年計画が立案され、ケイマフリ保護と海域利用の両立を目指した仕組みづくりが進められている。

過去には自然環境の保全、保護を推進したい行政や研究者と、その場所を利用する利用者の関係においては両者の立場の違いから意見のすれ違いも多かったが、検討会の目標とする“保護と利用の両立“という方針により関係者間の相互理解も進み、この取り組みをきっかけに各関係者間の協力体制も構築され始めている。

なお検討会名称は今年度より「適正利用・エコツーリズム検討会議 ウトロ海域部会」に名称変更された。

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
自然観光資源の価値の向上			
ケイマフリ繁殖地の再生実験	デコイ製作	デコイ設置、誘引効果 モニタリング	誘引効果モニタリング
海鳥の生態調査 ・ウトロ～岬の分布 ・生息状況、採食状況	生態調査 ・本調査 ・モニタリング	生態調査 ・追加調査 ・モニタリング	生態調査 － ・モニタリング
利用機会の拡大			
利用動向調査	予備調査 (利用者アンケート)	本格調査 (利用者アンケート)	本格調査 (利用者アンケート)
魅力的な利用形態	－	より好ましい利用形態の検討	より好ましい利用形態への 取り組み実施
各種海域利用者間の調整			
漁業、遊漁、シーカヤック等の 状況把握	関係者ヒアリング 課題整理	実態調査	検討・調整
広報普及啓発			
海域利用の楽しみ方のPR	小冊子作成	パンフレットの活用 インターネットによる情報提供 ミニ出前講座の開催	観察会開催等

図 2-1 検討会年次スケジュール

3. 利用者動向調査

昨年度、試験調査が行われた利用者動向調査に引き続き、今年度は本格的に調査を実施した。実施要領については昨年度の試験調査実施結果を踏まえ昨年度中に検討されている調査実施計画に基づき実施した。

3-1. 調査目的

調査は観光船利用における乗船動機、興味の対象、乗船後の感想、海鳥（特にケイマフリ）の関心度・理解度を調査し、海鳥の保護の為の情報提供のあり方と観光船サービスにおける海鳥生息環境の利用の可能性を検討するための基礎資料を得る事を目的とする。

3-2. 調査方法

調査は観光船利用者（観光客）を対象にアンケートを配布し、返信用封筒で返送された回答を集計し分析を行った。アンケートの配布についてはウトロで営業している観光船事業者の6社およびシーカヤックガイド事業者1社の協力を得た。

3-2-1. 実施期間

調査実施時期は当初海鳥の繁殖期5～6月に1回（前期）、海鳥の非繁殖期8～9月に1回（後期）の計2回を予定していたが、前期は配布体制が整わず6月～7月の配布に変更し実施した。

3-2-2. アンケート票の設問設定

アンケート調査における設問設定は昨年の試験調査と同様に以下のテーマに基づいて設定された。

テーマ1. 観光船利用者の興味対象や満足度の把握

『何に期待しているか？何が面白かったか？満足したか？』

テーマ2. 観光船利用者の海鳥への関心度の把握

『海鳥の事をどれだけ知っているか？興味はあるか？』

設定した設問は昨年度作成したアンケートをもとに、昨年度の検討会の中で出された意見を反映させ若干の変更を加えた設問設定となっている。

（※作成したアンケート票は資料編を参照）

3-2-3. アンケート配布方法

アンケート配布対象は大型観光船、小型クルーザー観光船、シーカヤックの利用者を対象とした。アンケートの配布方法は 表 3-1 のとおり、当初計画していた大型観光船の受付窓口からの手渡し配布のみ、出港時間に合わせて利用者が集中することにより、なかなかそれぞれの利用者にアンケート協力の依頼をすることが難しく負担となったため、大型観光船は全て帰港後の直接手渡しによる配布へ変更した。

表 3-1 船種別配布方法

分類	配布方法（計画）	配布方法（結果）		備考
大型観光船(1)	受付窓口より手渡し	×	出港時間に合わせて利用客の集中する傾向があり配布が難しい。	主に個人利用客を対象
〃 (2)	帰港後に手渡し	○		主に団体ツアー客を対象
小型観光船	受付窓口より手渡し	○		
シーカヤック	帰着後に手渡し	○		



写真 3-1 アンケートの配布体裁



知床世界自然遺産
SHIRANEKI WORLD NATURAL HERITAGE
2010年「知床」が世界自然遺産登録5周年を迎えます

海域レジャー利用についての アンケート調査協力をお願い

環境省では、関係行政機関や地元の関係者と共に、知床世界自然遺産地域における自然環境と人による利用との共存を目指して様々な取り組みを進めています。

その中で、今回海域レジャー利用を体験された皆様に対して、利用形態や利用目的、利用の感想などについて、アンケート調査を行っております。

ご旅行中のお時間が限られる中とは思いますが、知床の自然環境を後世に伝えていくために、アンケート調査へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

環境省 ウトロ自然保護官事務所





- 国営主体/環境省 北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所
- 国営東能登半島/ユニオンデータシステム株式会社

図 3-1 アンケート案内ポスター

3-2-4. アンケート配布時の留意点

アンケート配布時には以下の点に留意した。

- ① 配布対象者の性別や年齢層などに偏りが起こらないよう、万遍なく様々な利用者層に配布されるよう留意する。
- ② 航路別に配布数の偏りが出ないように、なるべく同じ割合で配布する。配布時の天候や海況に偏りが起こらないよう留意する。
- ③ 大型船団体ツアー客への配布では、同一ツアー客への集中配布などが起こらないよう、なるべく多くの様々なツアー客に配布すること。
- ④ 悪天候により航路が短縮された場合は配布しない。

3-2-5. アンケート配布数量

アンケートの配布数量は目標回答数に対する想定回収率を除した数量とした。想定回収率は平成22年度実施の試験調査時の観光船分類毎の回収率を参考に設定し、目標回答数は有識者の意見を元に検討した結果、基本分析単位（観光船分類＋航路別）それぞれで100を目標とした。当初の配布計画数量表を以下に示す。

○ 平成23年度海域利用者動向アンケート調査 - アンケート配布数の試算

			目標 回答数	予想 回収率	必要 配布数	
大型観光船	岬航路		100	30%	333	1,000
	硫黄山航路	団体ツアー客	100	30%	333	
		個人旅行者	100	30%	333	
小型観光船	岬航路		100	25%	400	800
	硫黄山航路		100	25%	400	
シーカヤック			100	25%	400	400
				合計	2,200	2,200

図 3-2 アンケート配布計画

3-2-6. アンケート配布結果（実績数量）

アンケート配布実績数は表 3-2 に示す。6月の配布数が小型観光船を除き低い値となっているが、これは配布が始まった当初、配布方法が確立するまで配布数が伸び悩んだ事が原因である。シーカヤックでは季節的な利用者数の低さも影響していると考えられる。大型観光船では帰港後の手渡しによる配布で受け取り率がなかなか上がらなく、また窓口での事前配布も効果的に行えなかった事によるものである。大型観光船の配布は、7月以降で船内放送によるアンケートへの協力依頼を行ったところ、飛躍的に受け取り率が改善し、その後の配布数のコントロールが可能となった。7月の配布数が伸びているのは6月の未配布分を繰り越して配布した事による上昇である。

また小型観光船では航路別の配布コントロールが困難であった。その理由としては出港時間に合わせて乗船案内所の混雑があり、忙しい窓口での受付業務の中では航路別に配布数をコントロールすることが難しいこと、そのほか事業者別に営業航路の特徴があり航路別の利用者数割合が大きく異なるなど配布コントロールが難しくなった理由として挙げられる。

表 3-2 アンケート配布実績数

カテゴリ	航路	6月	7月	8月	9月	合計
大型観光船	知床岬	100	510	458	343	1,411
	硫黄山	100	430	207	365	1,102
	小計	200	940	665	708	2,513
小型観光船	小計	389	411	400	400	1,600
シーカヤック	小計	33	139	369	203	744
合計		622	1,490	1,434	1,311	4,857

○観光船おーろら号で実施されたアンケート協力依頼船内放送の原文

本日、観光船おーろら号（おーろら2号）に御乗船の皆様へ、環境省からのお願いです。

ただいま環境省では、世界自然遺産地域・知床国立公園における海域レジャー利用に関するアンケート調査を実施しております。豊かな自然の残る知床の海を後世に伝えるため、本日乗船された皆様の御意見や御感想を、是非お聞かせください。

アンケートは切手不要の返信用封筒による回収となりますので、御旅行から御帰宅された後でも構いません、お時間のある時に記入して頂き、お近くのポストへ入れて頂ければ結構です。住所や御名前の記入の必要も御座いません。また今回のアンケート票には、非売品のポストカードが同封されております。

入港後、船を降りられましたら係の者がアンケート票を配布しております。是非お受け取りの上、アンケート調査に御協力をお願い致します。

皆様にとって良い旅になりますように・・・環境省からのお願いでした。

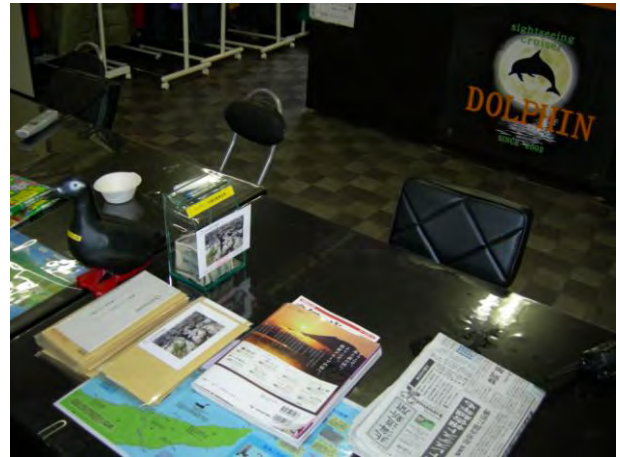


写真 3-2 観光船事業者によるアンケート配布

3-2-7. アンケート回収数

アンケート回収数は表 3-3 に示すとおりである。船種別の傾向としては、大型観光船、小型観光船の回収率はともに 23%弱で、シーカヤックは 26.5%と比較的高い値となっている。また航路別の傾向としては大型観光船の結果にあるように知床岬コースが 27.6%、硫黄山コースが 16.8%と大きな差が見られている。小型観光船については航路別の配布コントロールが正確に出来なかったため。航路別の回収率を求める事が出来ないが、昨年度の試験調査結果から判断すると、大型船と同様に知床岬コースの回収率が高くなっている事が予想される。

全体の回収率は 23.3%となっており、回収数では 1,131 通の回答が寄せられた。

表 3-3 アンケート回答数一覧

カテゴリ	航路	6月	7月	8月	9月	合計	配布数	回収率
大型観光船	岬コース	16	153	108	112	389	1,411	27.6%
	硫黄山コース	5	79	59	42	185	1,102	16.8%
	小計	21	232	167	154	574	2,513	22.8%
小型観光船	小計	26	157	113	64	360	1,600	22.5%
シーカヤック	小計	8	43	88	58	197	744	26.5%
	合計	55	432	368	276	1,131	4,857	23.3%

3-2-8. アンケート集計および評価

アンケートは配布終了後 2 ヶ月程度の回収期間の後集計を行った。集計方法は昨年度の試験調査で行った集計方法（設問ごとの選択肢選択率）を基本とするが、前期・後期別の回答傾向の違いなどのクロス集計もいくつかのパターンで実施した。

なお、集計結果は検討会などで観光船事業者へ報告し、回収されたアンケート回答データは観光船事業者に還元提供の予定である。

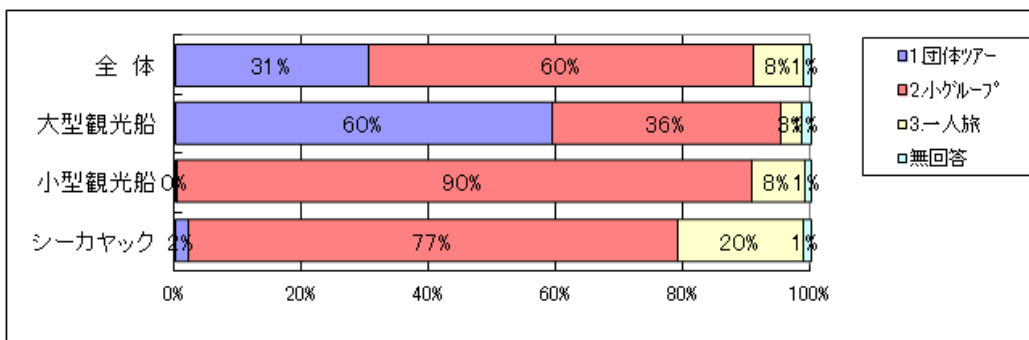
3-3. アンケート調査結果（基本集計）

Q 1. 乗船日および天候 ※省略

Q 2. 今回知床に訪れた旅行のタイプは？

1. 団体旅行・ツアー 2. 小グループ旅行(家族・友人) 3. 一人旅

選択数	1. 団体ツアー	2. 小グループ	3. 一人旅	無回答
全 体	31% (349)	60% (689)	8% (89)	1% (13)
大型観光船	60% (344)	36% (207)	3% (19)	1% (8)
小型観光船	0% (1)	90% (330)	8% (31)	1% (3)
シーカヤック	2% (4)	77% (152)	20% (39)	1% (2)

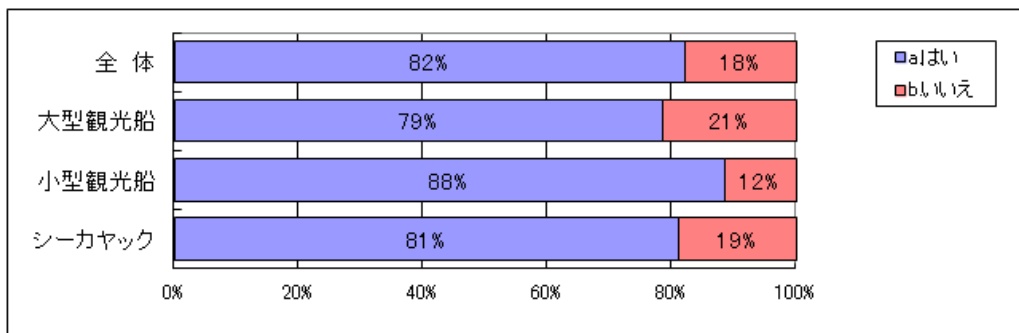


大型船の団体ツアーは半数以上を占めている。

※小型船の団体ツアー利用者への配布が殆んど出来なかったため、結果に表れていない。

ウトロに宿泊されましたか？ → a. はい b. いいえ

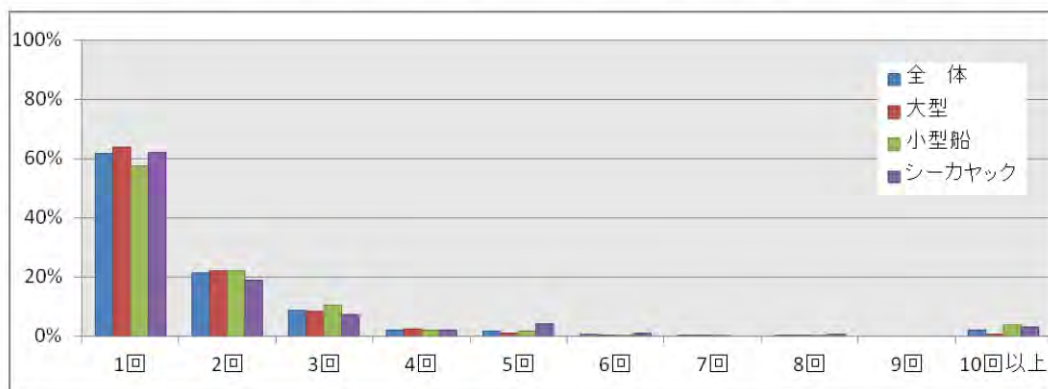
選択数	a. はい	b. いいえ
全 体	82% (938)	18% (202)
大型観光船	79% (455)	21% (123)
小型観光船	88% (323)	12% (42)
シーカヤック	81% (160)	19% (37)



ほとんどの利用者(全体で82%)がウトロに宿泊されている。

Q 3. 知床に旅行されたのは今回で何回目ですか？

	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回以上
全体	61% (701)	21% (244)	8.7% (99)	2.1% (24)	1.7% (19)	0.4% (5)	0.2% (2)	0.3% (3)	0.0% (0)	2.0% (23)
大型観光船	64% (369)	22% (127)	8.1% (47)	2.2% (13)	0.9% (5)	0.3% (2)	0.2% (1)	0.2% (1)	0.0% (0)	0.7% (4)
小型観光船	58% (210)	22% (80)	10% (38)	1.9% (7)	1.6% (6)	0.3% (1)	0.3% (1)	0.3% (1)	0.0% (0)	3.6% (13)
シーカヤック	62% (122)	19% (37)	7.1% (14)	2.0% (4)	4.1% (8)	1.0% (2)	0.0% (0)	0.5% (1)	0.0% (0)	3.0% (6)



ほとんどの利用者(全体の61%)が初めての知床観光である。

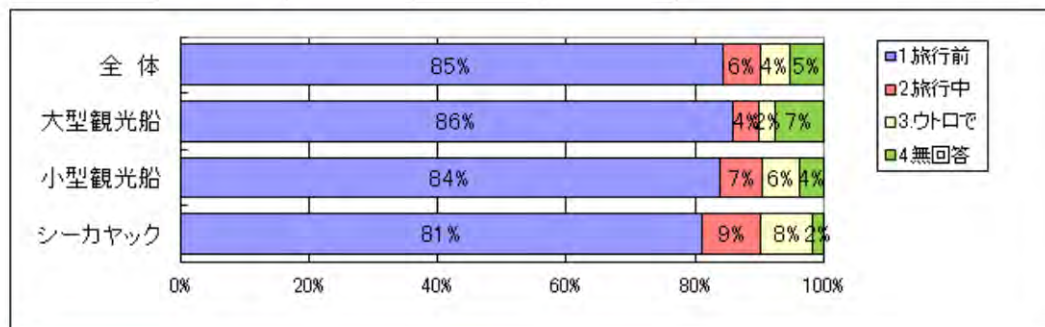
Q 4.. 乗船した航路は？ ※シーカヤックを利用された方はQ5.へ

※配布時コントロールされている

Q 5. 今回乗船した船(シーカヤック含む)に乗る計画をしたのはいつですか？

- 1.旅行前 2.旅行中 3.ウトロで(急に乗ることになった)

選択数	1.旅行前	2.旅行中	3.ウトロで	4.無回答
全体	85% (964)	6% (66)	4% (51)	5% (59)
大型観光船	86% (497)	4% (24)	2% (14)	7% (43)
小型観光船	84% (307)	7% (24)	6% (21)	4% (13)
シーカヤック	81% (160)	9% (18)	8% (16)	2% (3)

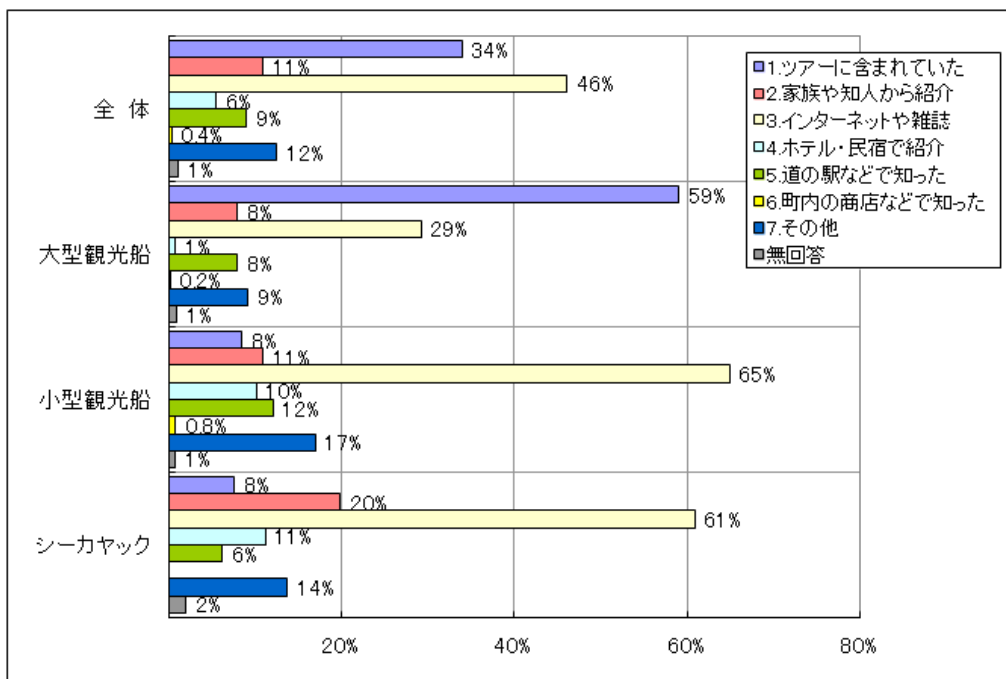


ほとんどの利用者(全体の85%)が、あらかじめ乗船を計画している。

Q 6. 乗船した船を選んだきっかけは？ ー複数回答可

1. ツアーの中でのオプション、アクティビティ
2. 家族や友人などに乗った方が良いと勧められたから
3. インターネット、旅行雑誌などを見た
4. ホテル、民宿などでの紹介
5. 観光案内所・道の駅・世界遺産センターなどで知った(パンフレット等)
6. 町内の商店やコンビニなどで知った
7. その他

	1.ツアー	2.家族や	3.インタ	4.ホテル	5.観光案	6.町内の	7.その他	無回答
全体	34% (387)	11% (125)	46% (526)	6% (63)	9% (102)	0% (4)	12% (142)	1% (12)
大型観光船	59% (341)	8% (46)	29% (169)	1% (4)	8% (46)	0% (1)	9% (53)	1% (5)
小型観光船	8% (31)	11% (40)	65% (237)	10% (37)	12% (44)	1% (3)	17% (62)	1% (3)
シーカヤック	8% (15)	20% (39)	61% (120)	11% (22)	6% (12)	0% (0)	14% (27)	2% (4)

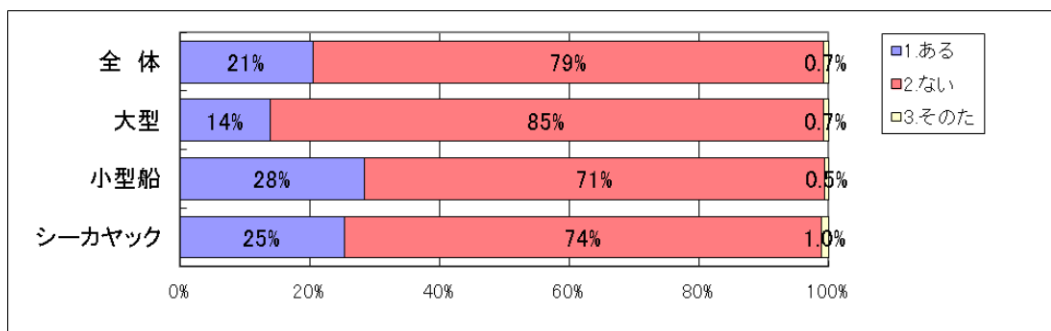


大型船は団体ツアーに組み込まれている事が多く、Q2の旅行タイプの結果に対応している。全体としてはインターネットや雑誌などの情報を元に乗るを決めた割合が高く(全体で46%)、小型船、シーカヤックはともに60%以上の高い割合を示している。そのほかシーカヤックの「2.家族や知人からの紹介」(口コミ)の選択割合が他の船の種類に比べ高い(20%)

Q 7. こんな情報が欲しかったと思われる事はありますか？

※事前に雑誌やインターネットで情報を集めた方のみ、お答えください。

	ある	ない	その他
全 体	21% (234)	79% (898)	0.7% (8)
大型観光船	14% (80)	85% (494)	0.7% (4)
小型観光船	28% (104)	71% (259)	0.5% (2)
シーカヤック	25% (50)	74% (145)	1.0% (2)



全体で21%の利用者が欲しかった情報がある。内訳では小型船、シーカヤックで「1.ある」の選択割合が高い。

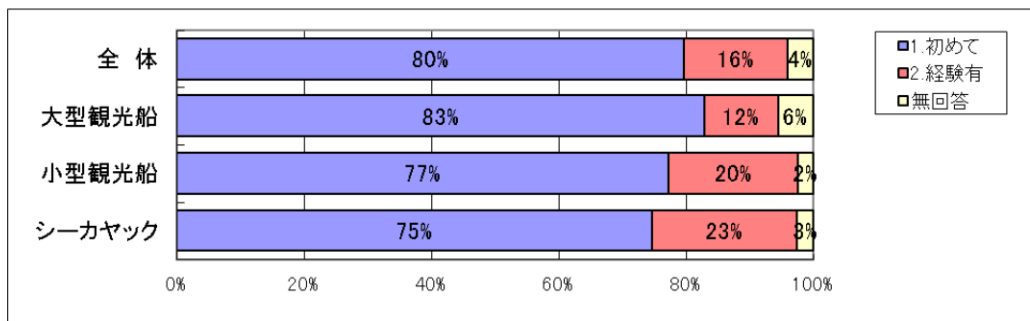
※ 「ある」と答えた方の意見 (別紙1)

コメント内容は様々であるが、コンディションの情報(寒いこと、濡れる場合がある事、服装)についての要望が多い。そのほか船の席の情報についての要望も多い。

Q 8. 以前にもウトロの観光船(シーカヤック含む)に乗船したことはありますか？

1. 初めて乗った 2. 以前に乗ったことがある

	1.初めて	2.経験有	無回答
全 体	80% (908)	16% (186)	4% (46)
大型観光船	83% (479)	12% (67)	6% (32)
小型観光船	77% (282)	20% (74)	2% (9)
シーカヤック	75% (147)	23% (45)	3% (5)

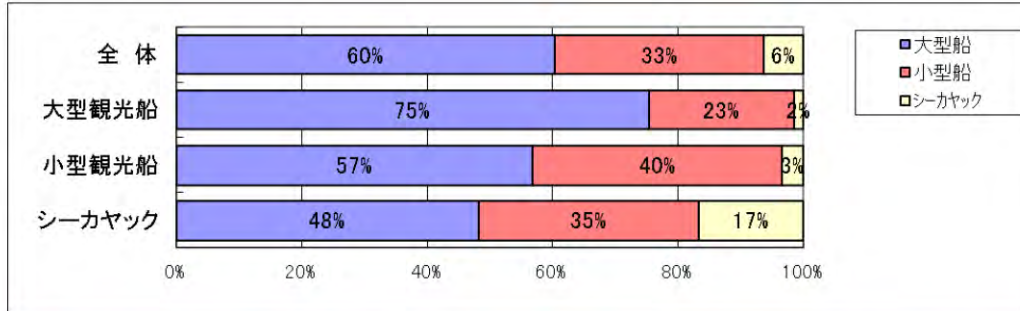


ほとんどの利用者(全体で80%)が初めて乗船されている。

2. 以前に乗ったことがある 大型観光船()回 小型観光船()回 シーカヤック()回

○過去に乗った事のある船のタイプ回答数

	大型回答数	小型回答数	カヤ回答数
全体	60% (125)	33% (69)	6% (13)
大型観光船	75% (49)	23% (15)	2% (1)
小型観光船	57% (50)	40% (35)	3% (3)
シーカヤック	48% (26)	35% (19)	17% (9)



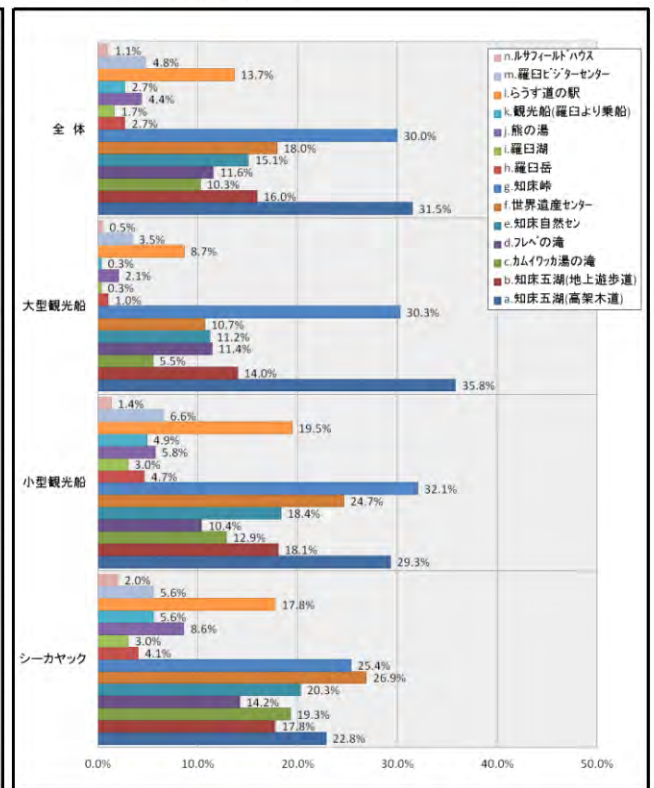
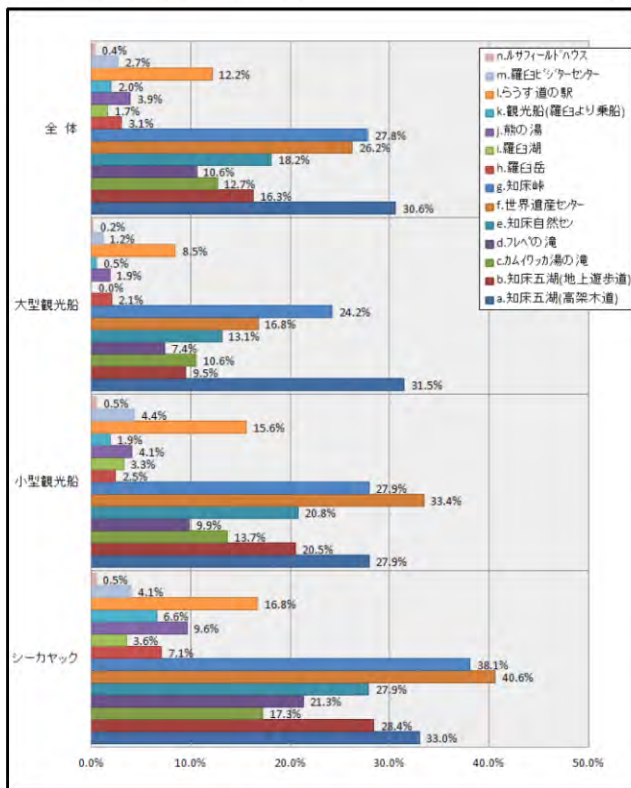
以前に乗った事のあるタイプでは”大型船”がどの種類の船でも最も割合が高い。大型観光船が最も古くから営業している事も要因として考えられる。

Q 9. 知床の他の場所への訪問状況について

- a.知床五湖(高架木道を散策) b.知床五湖(地上遊歩道をツアーで散策) c.カムイッカ湯の滝 d.フレ^レの滝
 e.知床自然センター f.世界遺産センター・うとろ道の駅 g.知床峠 h.羅臼岳 i.羅臼湖 j.熊の湯
 k.観光船(羅臼より乗船) l.らうす道の駅 m.羅臼ビジターセンター n.ルサフィールドハウス

○乗船前に行った場所

○乗船後に行った場所



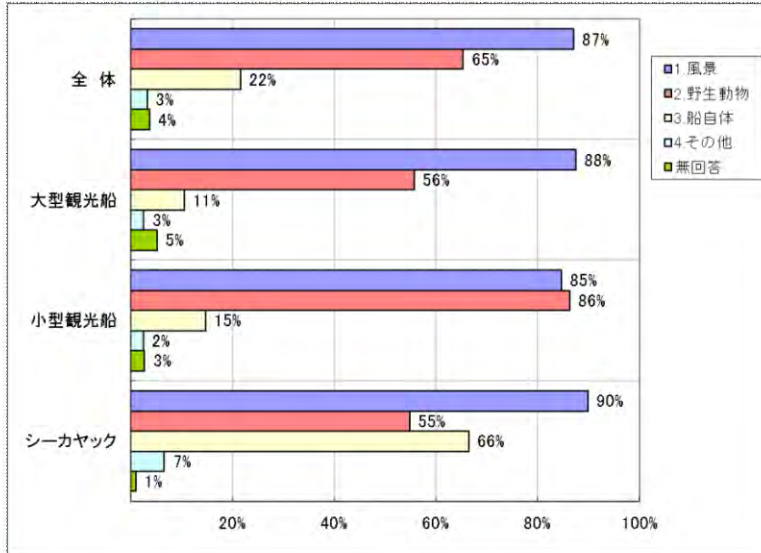
「g.知床峠」、「f.世界遺産センター」、「a.知床五湖(高架木道)」の利用率が高い。乗船前後の比較では「f.世界遺産センター」が乗船前に立ち寄っている傾向が高い。ウトロに到着してまず訪れる場所となっていることがうかがえる。またシーカヤックの利用者は色々な所を訪問している割合が高く”積極的な観光”をしている事がうかがえる。

Q 10. この船(シーカヤック含む)に乗る前に何に期待しましたか？－複数回答可

1. 風景 2. 野生動物 3. 船という乗り物自体に乗る楽しみ 4. その他

選択率	1.風景	2.野生動物	3.船自体	4.その他	無回答
全体	87% (992)	65% (745)	22% (246)	3% (37)	4% (42)
大型観光船	88% (506)	56% (322)	11% (61)	3% (15)	5% (30)
小型観光船	85% (309)	86% (315)	15% (54)	2% (9)	3% (10)
シーカヤック	90% (177)	55% (108)	66% (131)	7% (13)	1% (2)

※括弧内数字＝選択数



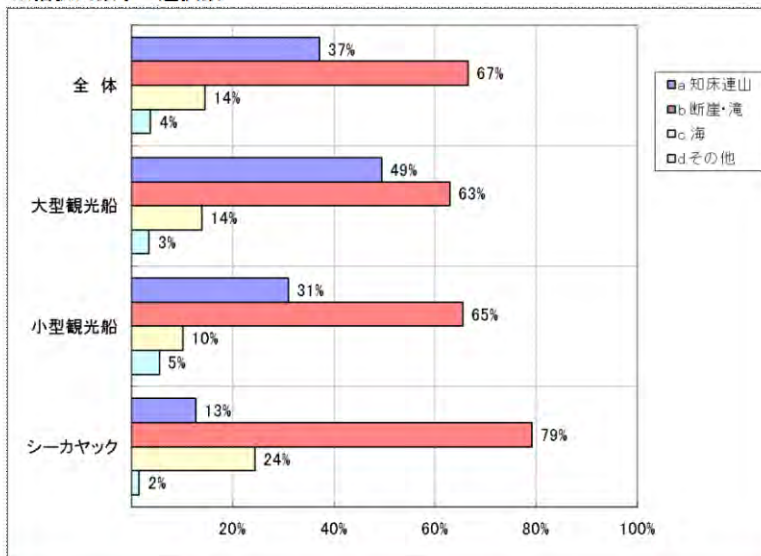
全体の傾向としては「1.風景」への期待割合が高いが、個別に見ると小型船の「2.野生動物」への期待割合が高く、クマへの期待が大きい事がうかがえる。シーカヤックは「3.船自体」に乗る事を楽しみにしている割合は非常に高い。

「風景」と答えた方→ 一番期待していたものは？

- a. 知床連山 b. 断崖・滝 c. 海 d. その他 ()

選択率	a.知床連山	b.断崖・滝	c.海	d.その他
全体	37% (424)	67% (759)	14% (165)	4% (43)
大型観光船	49% (286)	63% (364)	14% (80)	3% (20)
小型観光船	31% (113)	65% (239)	10% (37)	5% (20)
シーカヤック	13% (25)	79% (156)	24% (48)	2% (3)

※括弧内数字＝選択数



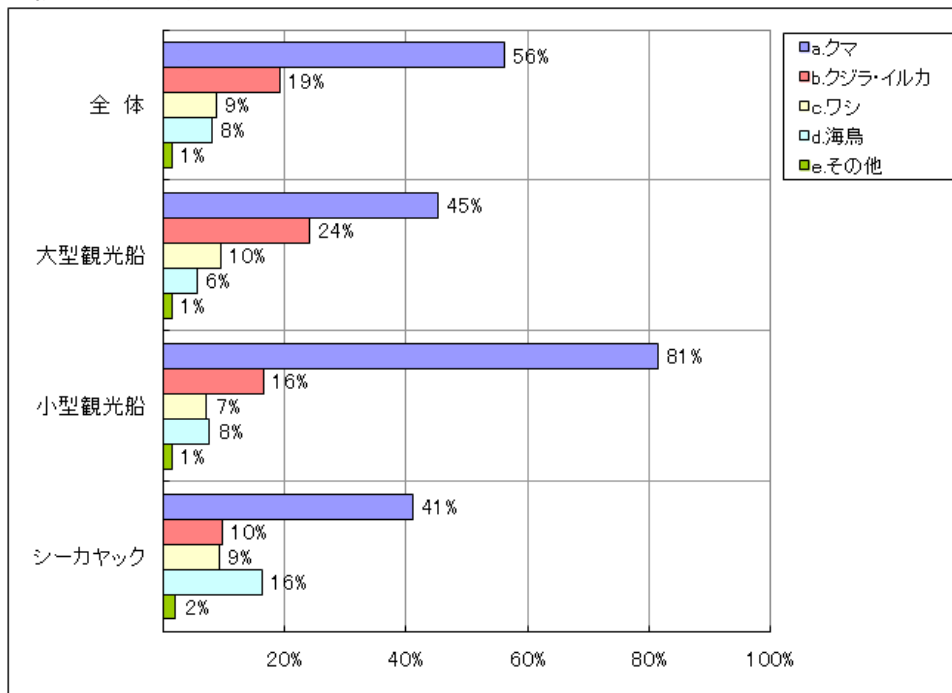
風景への期待の内訳としては「b.断崖・滝」が最も選択されている。要因としては海からしか見る事が出来ない風景であることが、その要因となっていると思われる。(知床連山や海は陸からでも十分見る事が出来る)

「野生動物」と答えた方→ 一番期待していたものは？

a.クマ b.クジラやイルカ c.ワシ d.海鳥 e.その他()

選択率	a.クマ	b.クジラ・イルカ	c.ワシ	d.海鳥	e.その他
全 体	56% (639)	19% (218)	9% (99)	8% (92)	1% (17)
大型観光船	45% (261)	24% (139)	10% (55)	6% (32)	1% (8)
小型観光船	81% (297)	16% (60)	7% (26)	8% (28)	1% (5)
シーカヤック	41% (81)	10% (19)	9% (18)	16% (32)	2% (4)

※括弧内数字＝選択数



圧倒的に「a.クマ」への期待が大きく、小型船はこの特徴が際立っている。シーカヤックで「d.海鳥」への期待割合が高い。

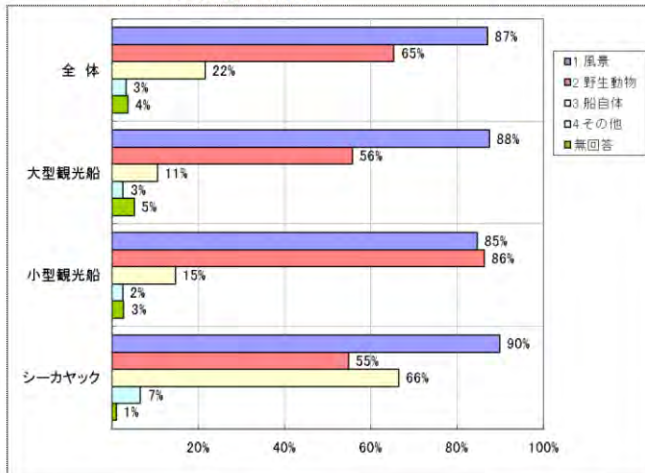
Q 11. 乗船して何が印象に残っていますか？(良かった点)－複数回答可

1. 風景 2. 野生動物 3. 船に乗ること自体が面白かった 4. その他

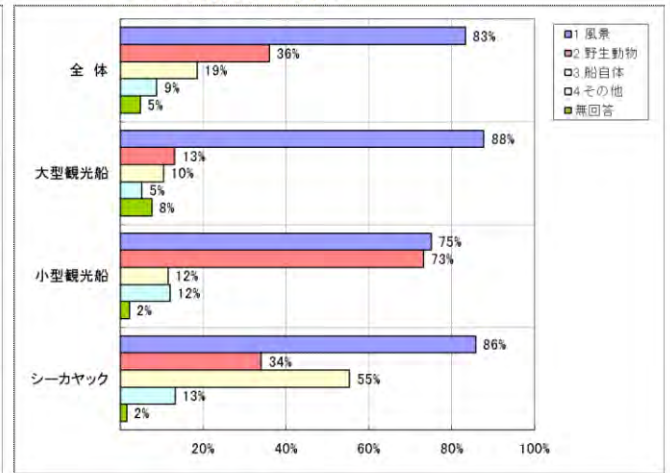
選択率	1.風景	2.野生動物	3.船自体	4.その他	無回答
全体	83% (950)	36% (410)	19% (211)	9% (100)	5% (55)
大型観光船	88% (507)	13% (76)	10% (60)	5% (30)	8% (44)
小型観光船	75% (274)	73% (267)	12% (42)	12% (44)	2% (8)
シーカヤック	86% (169)	34% (67)	55% (109)	13% (26)	2% (3)

※括弧内数字＝選択数

Q10. 乗船前の期待



Q11. 乗船後の印象



当たり外れが少ない「1.風景」はどの種類の船においても、高い満足度が得られている。一方「2.野生動物」への印象では乗船前の期待より乗船後の印象の割合が低下しており、当たり外れがあることの結果であろう。しかし小型船の「2.野生動物」への印象が73%と高い割合を示しており、満足度の高さ、またクマの目撃率の高さも表した結果と言える。大型船の「2.野生動物」への期待と印象の落差は大きく、クマが出没しても小さくしか見えない事などが要因として考えられる。

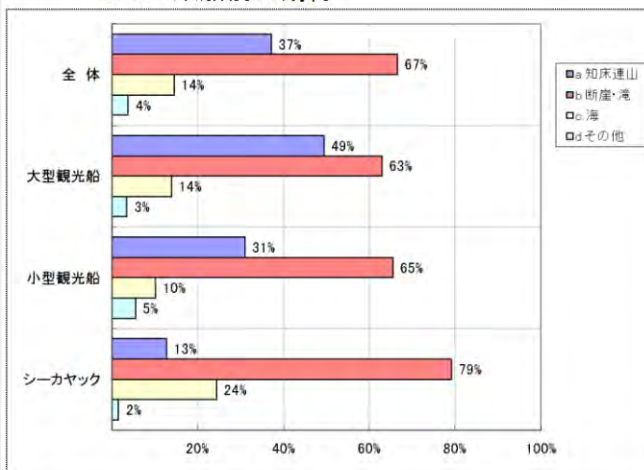
「風景」と答えた方→ 一番印象に残っているのは？

- a.知床連山 b.断崖・滝 c.海 d.その他()

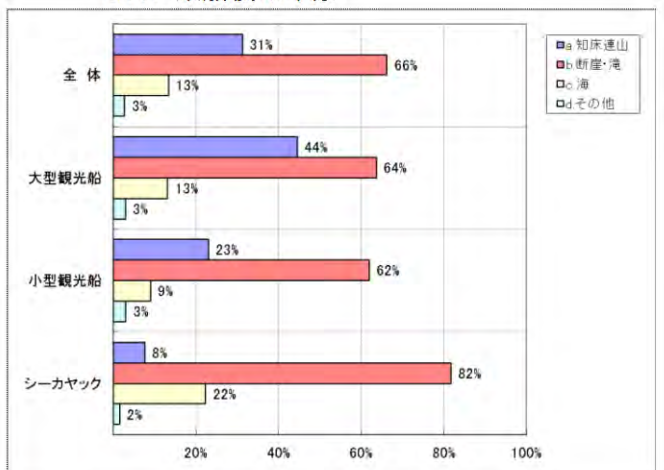
選択率	a.知床連山	b.断崖・滝	c.海	d.その他
全体	31% (356)	66% (755)	13% (153)	3% (31)
大型観光船	44% (257)	64% (368)	13% (76)	3% (17)
小型観光船	23% (84)	62% (226)	9% (33)	3% (11)
シーカヤック	8% (15)	82% (161)	22% (44)	2% (3)

※括弧内数字＝選択数

Q10. 乗船前の期待



Q11. 乗船後の印象



風景の中では「断崖や滝」が最も期待されている。乗船前後の傾向の差は殆んど見られず、期待どおりの満足度が得られているようである。

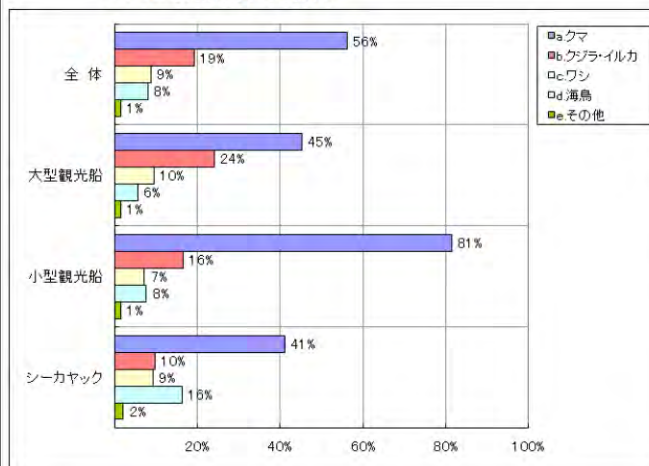
「野生動物」と答えた方→ 一番印象に残っているのは？

a.クマ b.クジラやイルカ c.ワシ d.海鳥 e.その他()

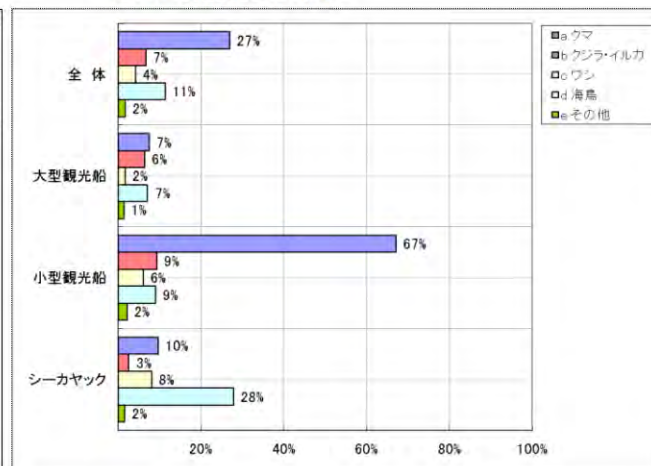
	a.クマ	b.クジラ・イルカ	c.ワシ	d.海鳥	e.その他
全 体	27% (307)	7% (76)	4% (48)	11% (129)	2% (19)
大型観光船	7% (43)	6% (37)	2% (10)	7% (41)	1% (8)
小型観光船	67% (245)	9% (34)	6% (22)	9% (33)	2% (8)
シーカヤック	10% (19)	3% (5)	8% (16)	28% (55)	2% (3)

※括弧内数字＝選択数

Q10. 乗船前の期待



Q11. 乗船後の印象



全体的に「期待>印象」の傾向が著しいが、小型船のクマが見れた時の満足感が高い。ペアウォッチ用の航路等もあるように、かなり「クマが見れる」という点をPRポイントしている特徴が出ている。他の船種でもクマへの期待は大きいのだが、実際にはなかなかそれを実現できていない。

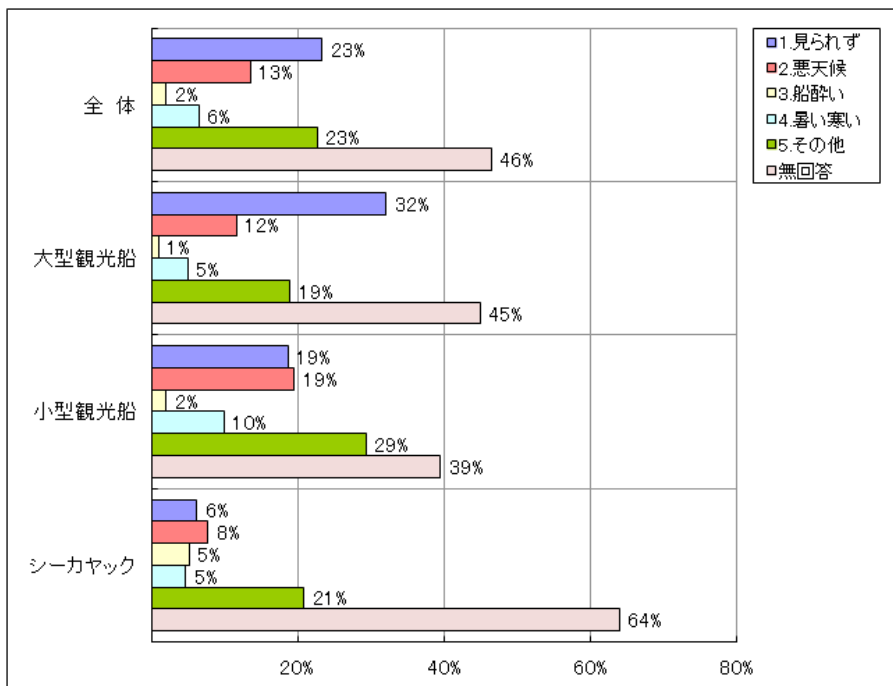
シーカヤックで「d.海鳥」への印象が期待以上の結果を表している。最も間近に見る事が出来る点や、海鳥への解説がしっかりされている事などが要因と考えられる。

Q12.乗船して残念だった点はありますか？ ー複数回答可

1. 見たかった物が見られなかった。 2. 天候が悪かった。 3. 船酔いしてしまった。
4. 暑かった・寒かった・濡れてしまった等 5. その他

選択率	1.見られず	2.悪天候	3.船酔い	4.暑い寒い	5.その他	無回答
全体	23% (265)	13% (153)	2% (22)	6% (73)	23% (257)	46% (529)
大型観光船	32% (185)	12% (67)	1% (5)	5% (28)	19% (109)	45% (259)
小型観光船	19% (68)	19% (71)	2% (7)	10% (36)	29% (107)	39% (144)
シーカヤック	6% (12)	8% (15)	5% (10)	5% (9)	21% (41)	64% (126)

※括弧内数字=選択数



回答の中で「無回答」が最も多く、概ね満足考えられている事を表していると言える。残念だった点として選択された物では「1.見たかった物が見られなかった」が優先している。

※【設問設定に問題】

- ・“5.その他”の回答で“クマが見れなかった”と“1.見たい物が見れなかった”と重複するケースが多い。
- ・“5.その他”の回答に「とても良かった」「残念な点はありません」などの良い感想の回答が多かった。

Q 13.船内放送(案内・解説)の感想をお聞かせください。

※ (別紙2)

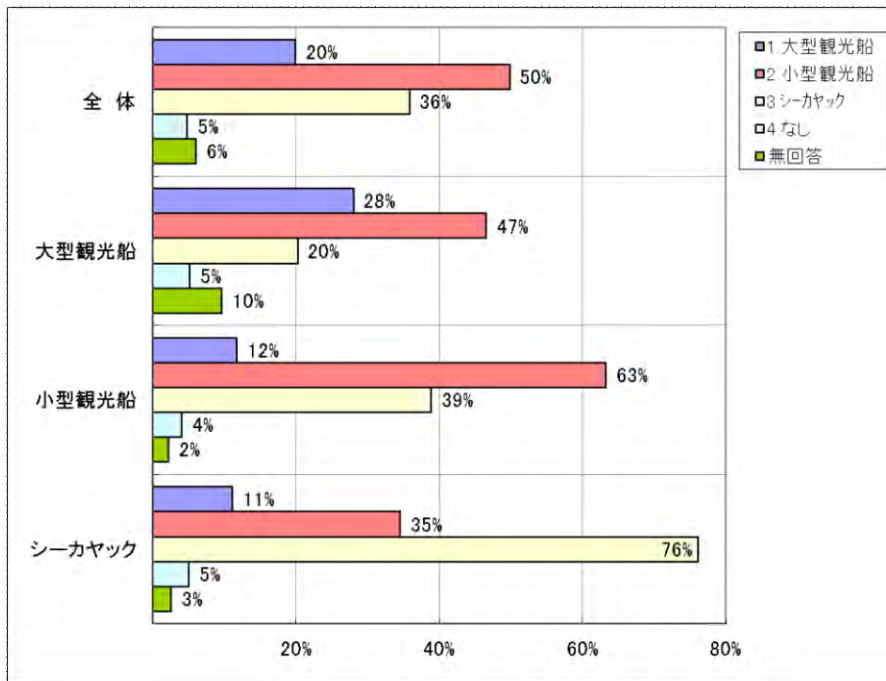
音が聞こえにくかった点や説明内容に関する要望など、様々な意見が寄せられた。

Q 14. 次回ウトロに来た時に乗ってみたい船のタイプはありますか？ - 複数回答可

1. 大型観光船 2. 小型観光船 3. シーカヤック 4. なし

選択率	1.大型観光船	2.小型観光船	3.シーカヤック	4.なし	無回答
全体	20% (227)	50% (568)	36% (409)	5% (55)	6% (69)
大型観光船	28% (162)	47% (269)	20% (117)	5% (30)	10% (56)
小型観光船	12% (43)	63% (231)	39% (142)	4% (15)	2% (8)
シーカヤック	11% (22)	35% (68)	76% (150)	5% (10)	3% (5)

※括弧内数字=選択数

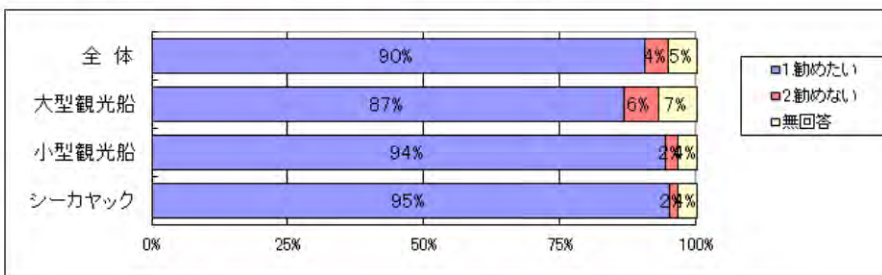


小型船とシーカヤックは次に来たときも同じ乗り物に乗りたいと感じているが、大型船だけは次に来た時は小型船やシーカヤックに乗りたい、という意見が自船(大型船を)を上回っている。

Q 15. 今回乗った船を家族や友人会社の同僚などにお勧めしたいですか？

1. お勧めしたい 2. お勧めできない

カテゴリ	1.勧めたい	2.勧めない	無回答
全体	90% (1031)	4% (48)	5% (61)
大型観光船	87% (500)	6% (37)	7% (41)
小型観光船	94% (344)	2% (8)	4% (13)
シーカヤック	95% (187)	2% (3)	4% (7)



全体で90%もの割合で「1.勧めたい」と回答されており、この事はどの船種でも満足感が得られている事を表していると考えられる。

Q 16. そのほか乗船後の率直な感想など是非お聞かせください。

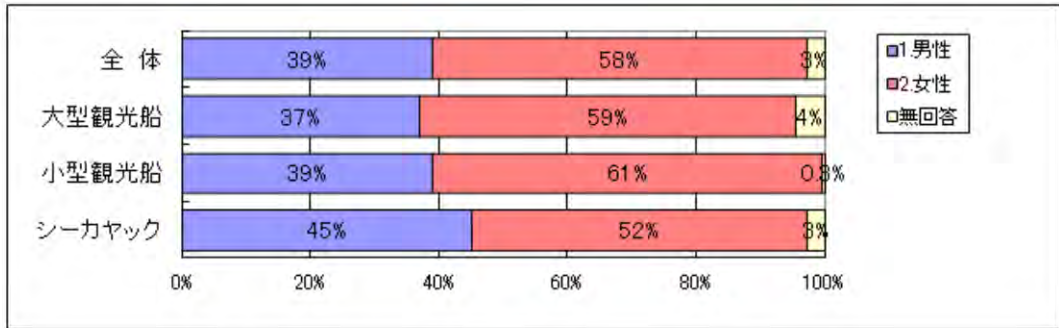
※（別紙3）

様々な回答が寄せられている。回答者の約6割の方が何らかのコメントを記述されている。

Q 17. 性別・年齢

性別 1.男性 2.女性

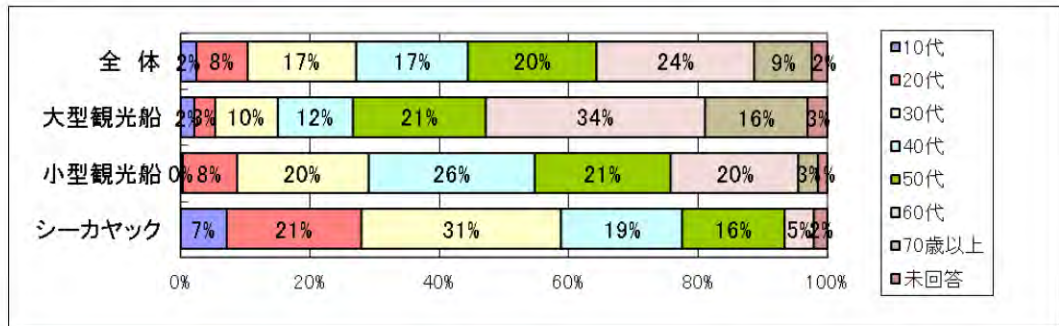
選択数	1.男性	2.女性	無回答
全体	39% (446)	58% (663)	3% (31)
大型観光船	37% (214)	59% (339)	4% (25)
小型観光船	39% (143)	61% (221)	0.3% (1)
シーカヤック	45% (89)	52% (103)	3% (5)



配布時に性別の偏りないようにコントロールされているため、利用者全体の実際の割合には一致しない。

年齢 a.10代 b.20代 c.30代 d.40代 e.50代 f.60代 g.70歳以上

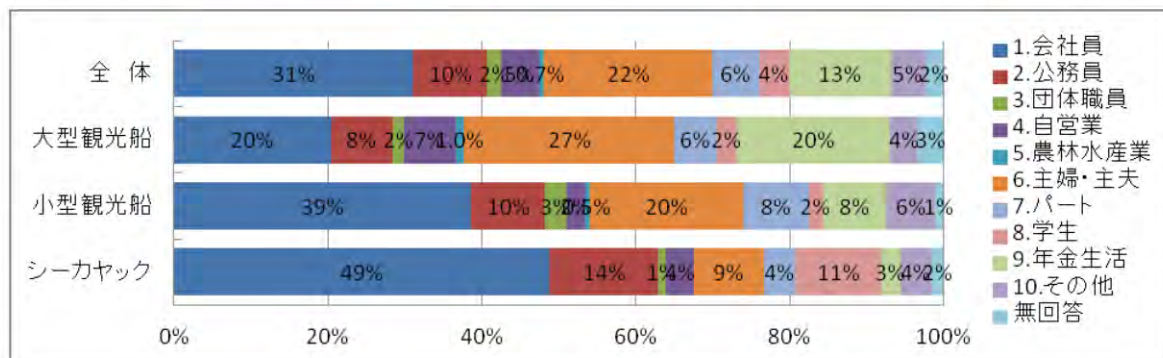
選択数	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	未回答
全体	2% (27)	8% (91)	17% (191)	17% (198)	20% (227)	24% (277)	9% (103)	2% (26)
大型観光船	2% (12)	3% (19)	10% (56)	12% (67)	21% (119)	34% (196)	16% (92)	3% (17)
小型観光船	0.3% (1)	8% (31)	20% (74)	26% (94)	21% (77)	20% (72)	3% (11)	1% (5)
シーカヤック	7% (14)	21% (41)	31% (61)	19% (37)	16% (31)	5% (9)	0% (0)	2% (4)



配布時に年代に偏りないようにコントロールされているため、利用者全体の実際の割合には一致しないが、大型船の60歳以上の割合が高いこと、小型船、シーカヤックで若い年代が多い事などは、ある程度実態を反映している物と思われる。

Q 18. ご職業

	1.会社員	2.公務員	3.団体職員	4.自営業	5.農林水産	6.主婦・主夫	7.パート	8.学生	9.年金生活	10.その他	無回答
全体	31% (355)	10% (109)	2% (21)	5% (55)	0.7% (8)	22% (249)	6% (71)	4% (43)	13% (151)	5% (52)	2% (26)
大型観光船	20% (118)	8% (46)	2% (9)	7% (39)	1.0% (6)	27% (158)	6% (32)	2% (14)	20% (116)	4% (21)	3% (19)
小型観光船	39% (141)	10% (35)	3% (10)	2% (9)	0.5% (2)	20% (73)	8% (31)	2% (7)	8% (30)	6% (23)	1.1% (4)
シーカヤック	49% (96)	14% (28)	1% (2)	4% (7)	0% (0)	9% (18)	4% (8)	11% (22)	3% (5)	4% (8)	2% (3)

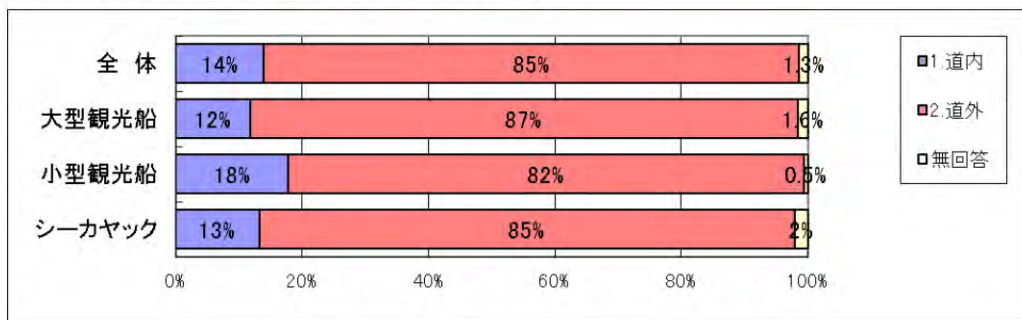


船種別の利用者年齢層を反映しているものと思われる。
 大型→小型→シーカヤック の順で利用者の年齢は 高→低 の傾向と思われる。

Q 19. どこから来られましたか？

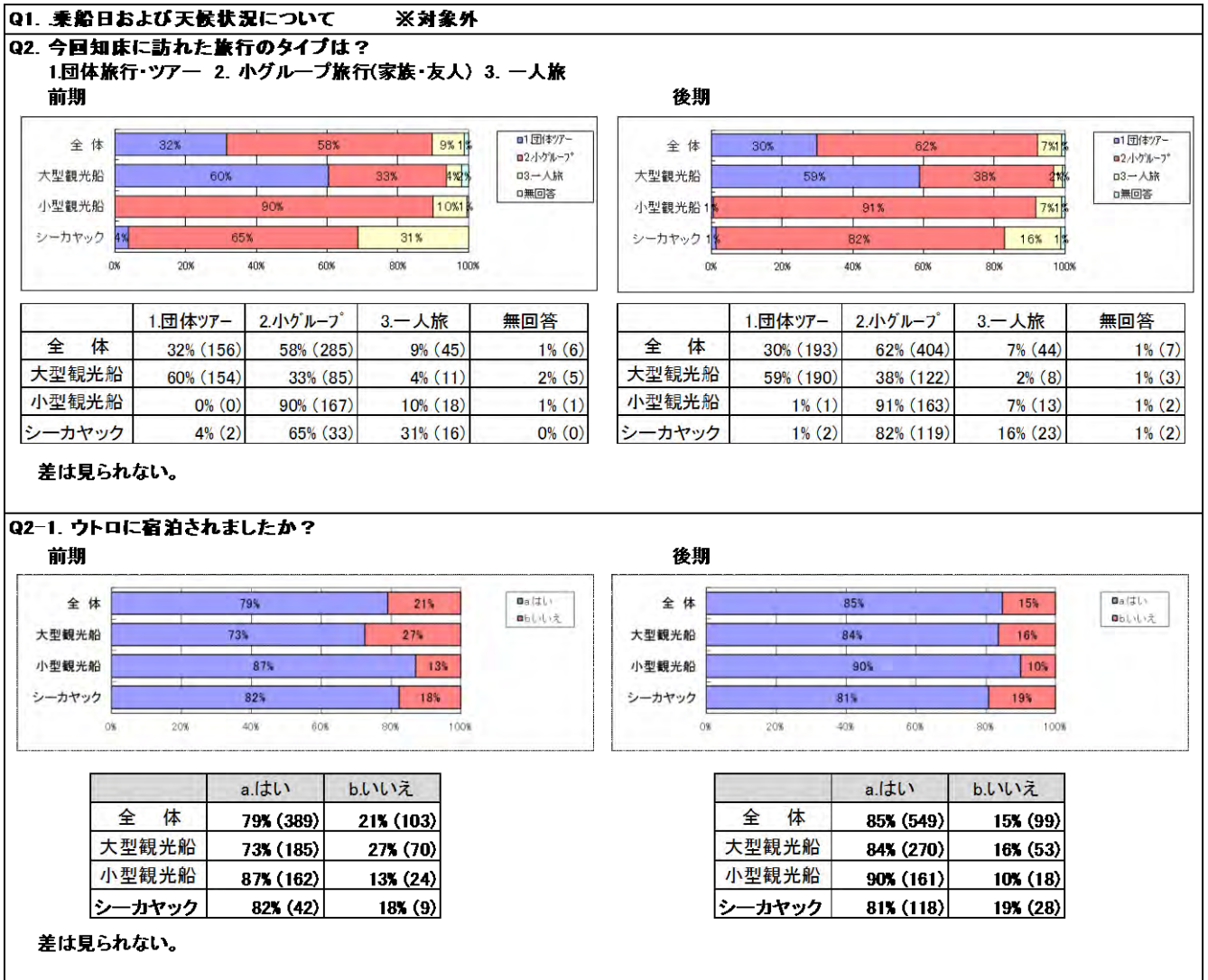
1.道内(網走管内) 2.道内(その他の地域) 3.道外 4.海外()

選択数	1.道内	2.道外	無回答
全体	14% (159)	85% (966)	1.3% (15)
大型観光船	12% (68)	87% (501)	1.6% (9)
小型観光船	18% (65)	82% (298)	0.5% (2)
シーカヤック	13% (26)	85% (167)	2.0% (4)



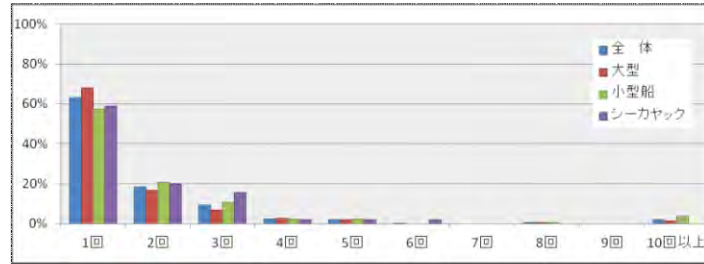
圧倒的に道外からの利用者が多い。全体では85%にも上る。

3-4. アンケート調査結果（前期（6-7月）・後期（8-9月）比較）



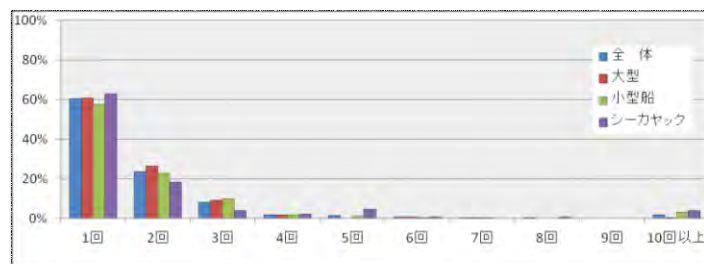
Q3. 知床に旅行されたのは今回で何回目ですか？

前期



	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回以上
全体	63% (310)	18% (91)	9.1% (45)	2.4% (12)	2.0% (10)	0.2% (1)	0.0% (0)	0.4% (2)	0.0% (0)	2.0% (10)
大型観光船	68% (173)	16% (42)	6.7% (17)	2.7% (7)	2.0% (5)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.4% (1)	0.0% (0)	1.2% (3)
小型観光船	58% (107)	21% (39)	11% (20)	2.2% (4)	2.2% (4)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.5% (1)	0.0% (0)	3.8% (7)
シーカヤック	59% (30)	20% (10)	15.7% (8)	2.0% (1)	2.0% (1)	2.0% (1)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)

後期



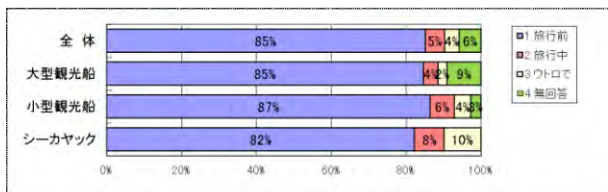
	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回以上
全体	60% (391)	24% (153)	8.3% (54)	1.9% (12)	1.4% (9)	0.6% (4)	0.3% (2)	0.2% (1)	0.0% (0)	2.0% (13)
大型観光船	61% (196)	26% (85)	9.3% (30)	1.9% (6)	0.0% (0)	0.6% (2)	0.3% (1)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.3% (1)
小型観光船	58% (103)	23% (41)	10% (18)	1.7% (3)	1.1% (2)	0.6% (1)	0.6% (1)	0.0% (0)	0.0% (0)	3.4% (6)
シーカヤック	63% (92)	18% (27)	4.1% (6)	2.1% (3)	4.8% (7)	0.7% (1)	0.0% (0)	0.7% (1)	0.0% (0)	4.1% (6)

差は見られない。

Q4. 乗船した航路は？ ※配布時コントロールされているため比較対象外

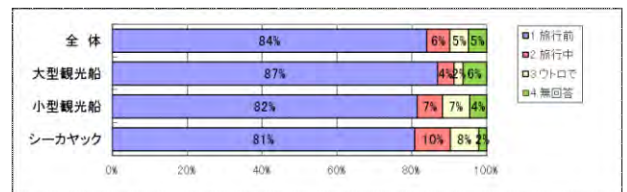
Q5. 今回乗船した船(シーカヤック含む)に乗る計画をしたのはいつですか？

前期



	1.旅行前	2.旅行中	3.ウトロで	4.無回答
全体	85% (419)	5% (26)	4% (19)	6% (28)
大型観光船	85% (216)	4% (10)	2% (6)	9% (23)
小型観光船	87% (161)	6% (12)	4% (8)	3% (5)
シーカヤック	82% (42)	8% (4)	10% (5)	0% (0)

後期

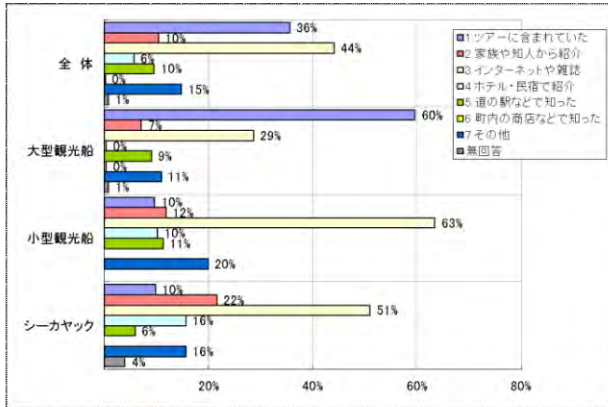


	1.旅行前	2.旅行中	3.ウトロで	4.無回答
全体	84% (545)	6% (40)	5% (32)	5% (31)
大型観光船	87% (281)	4% (14)	2% (8)	6% (20)
小型観光船	82% (146)	7% (12)	7% (13)	4% (8)
シーカヤック	81% (118)	10% (14)	8% (11)	2% (3)

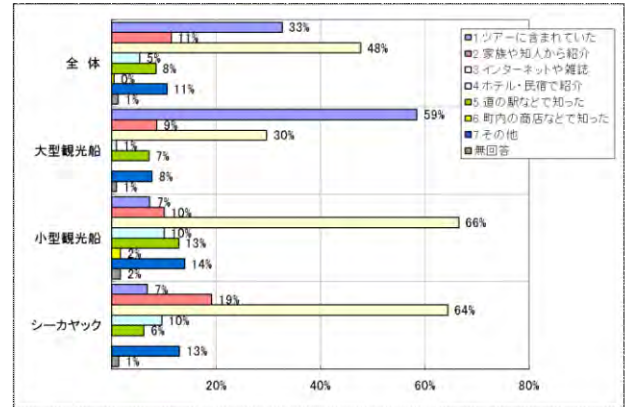
差は見られない。

Q6. 乗船した船を選んだきっかけは？ — 複数回答可

前期



後期



	1.ツアー	2.家族や	3.インタ	4.ホテル	5.観光素	6.町内の	7.その他	無回答
全 体	36% (175)	10% (51)	44% (217)	6% (28)	10% (47)	0% (1)	15% (73)	1% (4)
大型観光船	60% (152)	7% (18)	29% (73)	0% (1)	9% (23)	0% (1)	11% (28)	1% (2)
小型観光船	10% (18)	12% (22)	63% (118)	10% (19)	11% (21)	0% (0)	20% (37)	0% (0)
シーカヤック	10% (5)	22% (11)	51% (26)	16% (8)	6% (3)	0% (0)	16% (8)	4% (2)

	1.ツアー	2.家族や	3.インタ	4.ホテル	5.観光素	6.町内の	7.その他	無回答
全 体	33% (212)	11% (74)	48% (309)	5% (35)	8% (55)	0% (3)	11% (69)	1% (8)
大型観光船	59% (189)	9% (28)	30% (96)	1% (3)	7% (23)	0% (0)	8% (25)	1% (3)
小型観光船	7% (13)	10% (18)	66% (119)	10% (18)	13% (23)	2% (3)	14% (25)	2% (3)
シーカヤック	7% (10)	19% (28)	64% (94)	10% (14)	6% (9)	0% (0)	13% (19)	1% (2)

差は見られない。

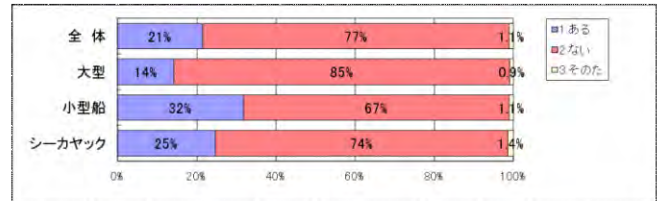
Q7. 「こんな情報が欲しかった」と思われる事はありますか？

前期



カテゴリ	ある	ない	その他
全 体	19% (95)	80% (396)	0.2% (1)
大型観光船	13% (34)	86% (220)	0.4% (1)
小型観光船	25% (47)	75% (139)	0.0% (0)
シーカヤック	27% (14)	73% (37)	0.0% (0)

後期

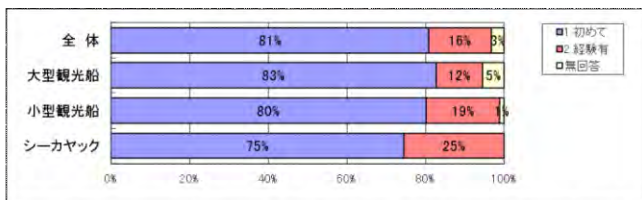


カテゴリ	ある	ない	その他
全 体	21% (139)	77% (502)	1.1% (7)
大型観光船	14% (46)	85% (274)	0.9% (3)
小型観光船	32% (57)	67% (120)	1.1% (2)
シーカヤック	25% (36)	74% (108)	1.4% (2)

小型船で前期より後期に「ある」の回答率が上昇しているが、傾向的に差は見られない。

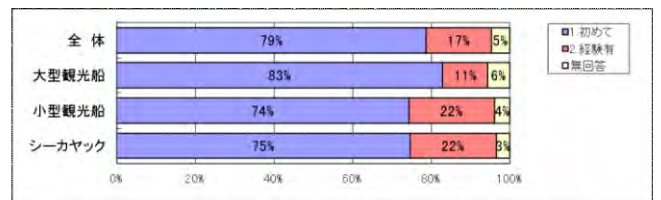
Q8-1. 以前にもウトロの観光船(シーカヤック含む)に乗船したことはありますか？

前期



	1.初めて	2.経験有	無回答
全 体	81% (398)	16% (78)	3% (16)
大型観光船	83% (211)	12% (30)	5% (14)
小型観光船	80% (149)	19% (35)	1% (2)
シーカヤック	75% (38)	25% (13)	0% (0)

後期

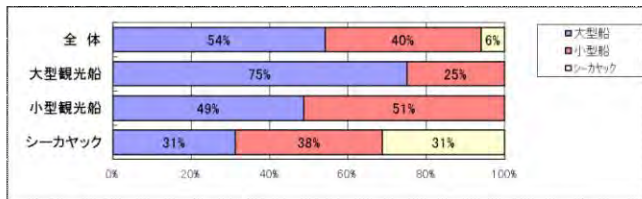


	1.初めて	2.経験有	無回答
全 体	79% (510)	17% (108)	5% (30)
大型観光船	83% (268)	11% (37)	6% (18)
小型観光船	74% (133)	22% (39)	4% (7)
シーカヤック	75% (109)	22% (32)	3% (5)

小型船、シーカヤックで前期の利用者の方が「初めて乗る」割合が後期に比べ高めとなっているが、大きな差は見られない。

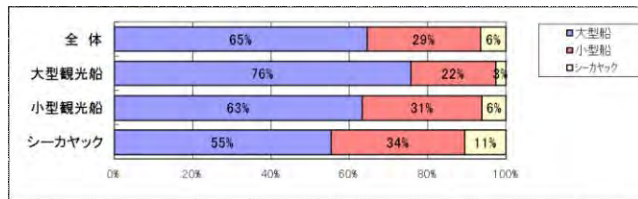
Q8-2. 以前に乗ったことがある方 → 以前に乗った船のタイプ

前期



	大型回答数	小型回答数	カヤ回答数
全体	54% (45)	40% (33)	6% (5)
大型観光船	75% (21)	25% (7)	0% (0)
小型観光船	49% (19)	51% (20)	0% (0)
シーカヤック	31% (5)	38% (6)	31% (5)

後期

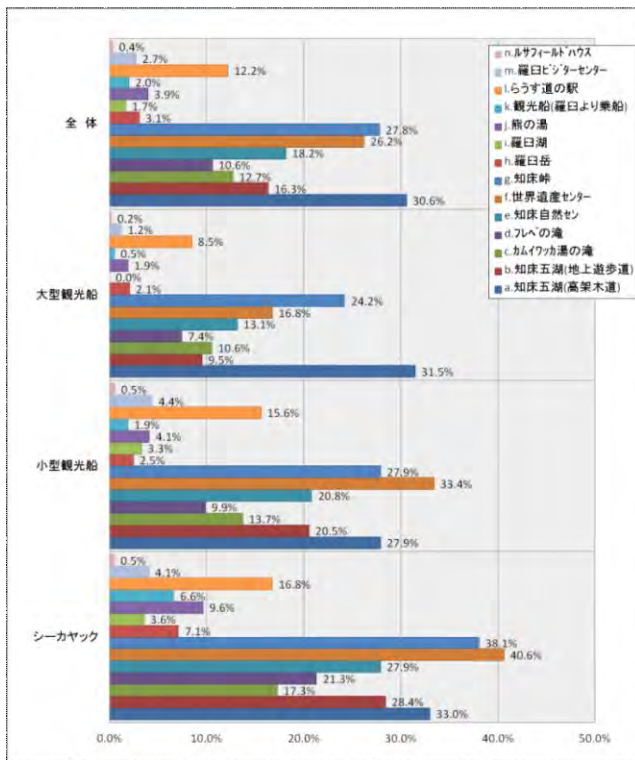


	大型回答数	小型回答数	カヤ回答数
全体	65% (80)	29% (36)	6% (8)
大型観光船	76% (28)	22% (8)	3% (1)
小型観光船	63% (31)	31% (15)	6% (3)
シーカヤック	55% (21)	34% (13)	11% (4)

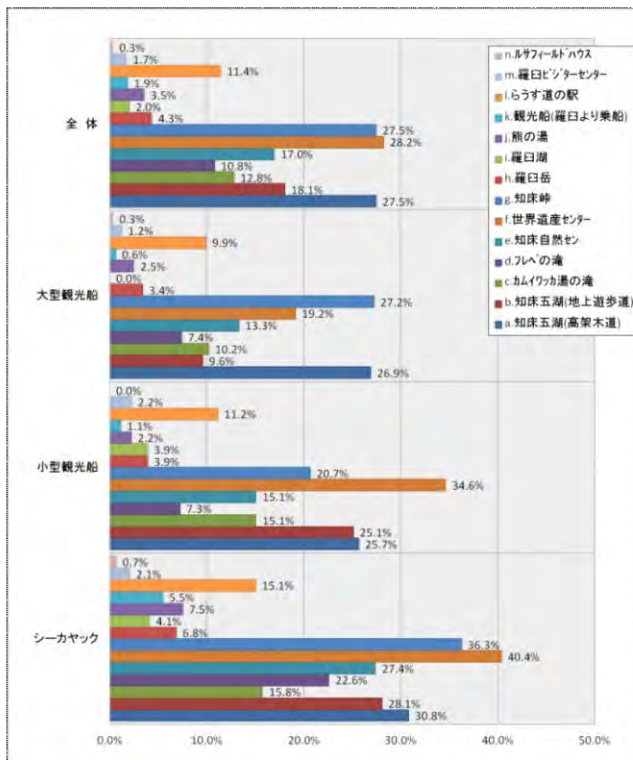
比較困難 (前期・後期で選択割合で差が見られるが、回答数が少ないため比較は適当でないと思われる。)

Q9-1. 知床の他の場所への訪問状況について 一複数回答可 (乗船前の訪問箇所)

前期



後期

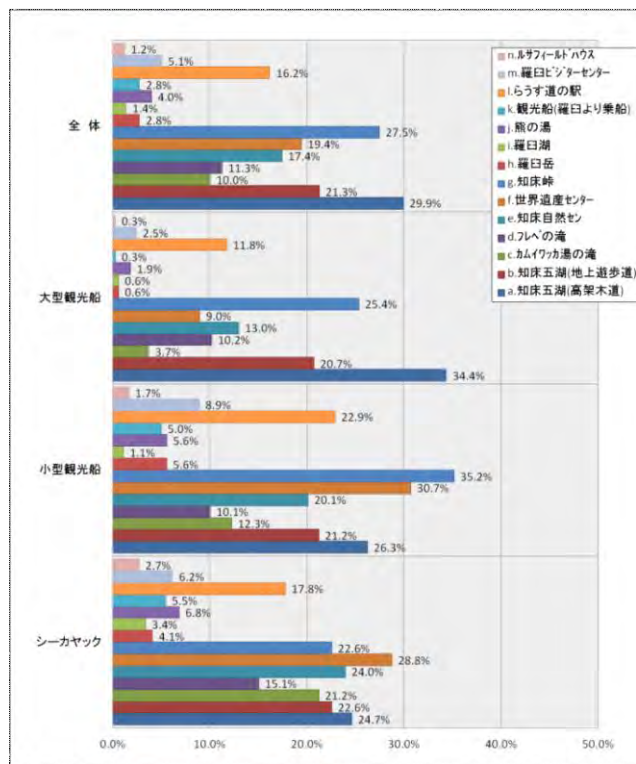
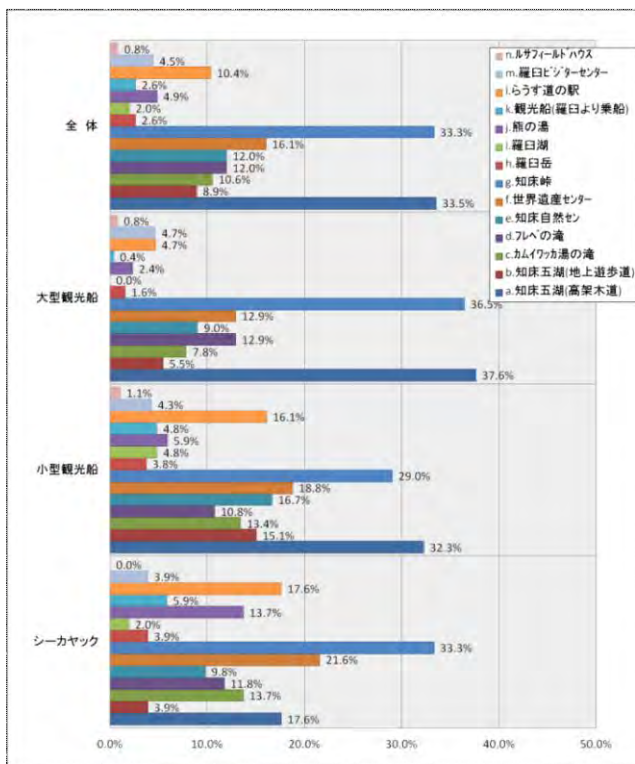


全体の傾向としては大きな差は見られないが、小型船利用者で「g.知床峠」の選択率が後期に下がる事(27.9%→20.7%)、「b.知床五湖(地上歩道)」の選択率が上昇している(20.5%→25.1%)
 「b.知床五湖(地上歩道)」の利用では8月からBルートが追加される事による影響と考えられるが、小型船だけが増加している。

Q9-2. 知床の他の場所への訪問状況について 一複数回答可 (乗船後の訪問箇所)

前期

後期



全体の傾向としては「g. 知床峠」の選択率が後期にやや下がる事(33.3%→27.5%)、「e. 知床自然センター」の選択率が後期にやや上昇が見られる事(12.0%→17.4%)、また「b. 知床五湖(地上歩道)」の選択率が大きく上昇している(8.9%→21.3%)

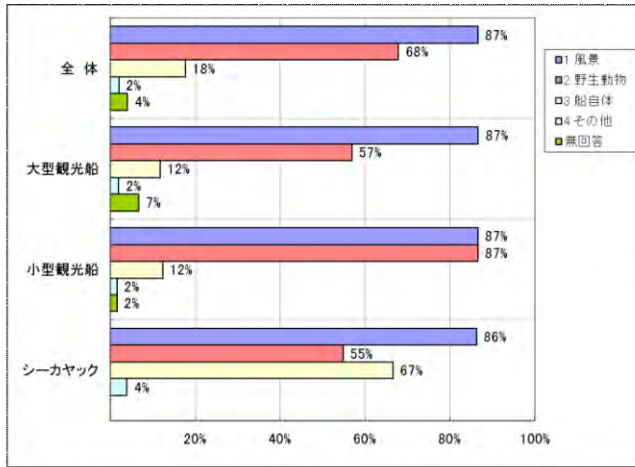
「g. 知床峠」大型船、シーカヤックで後期に選択率が下がり、小型船ではやや上昇が見られる。時期による観光客のタイプや動き(斜里側→羅臼側)の傾向が影響している可能性がある。

「e. 知床自然センター」の選択率がシーカヤックで後期に上昇しており、全体の結果に影響している。原因は不明。(ヒヤリング)

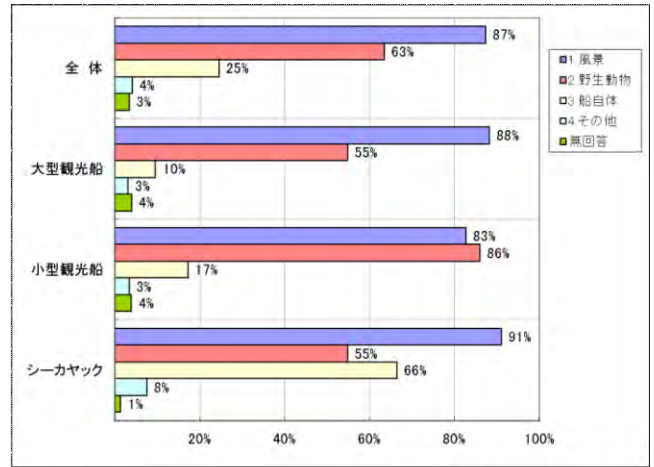
「b. 知床五湖(地上歩道)」の選択率は各カテゴリで後期に大きく上昇している。8月からBルートが追加される事による影響と考えられる。また乗船する前と後では、乗船後に五湖へ行かれる利用者が多い。

Q10-1. この船(シーカヤック含む)に乗る前に何に期待しましたか？ 一複数回答可

前期



後期



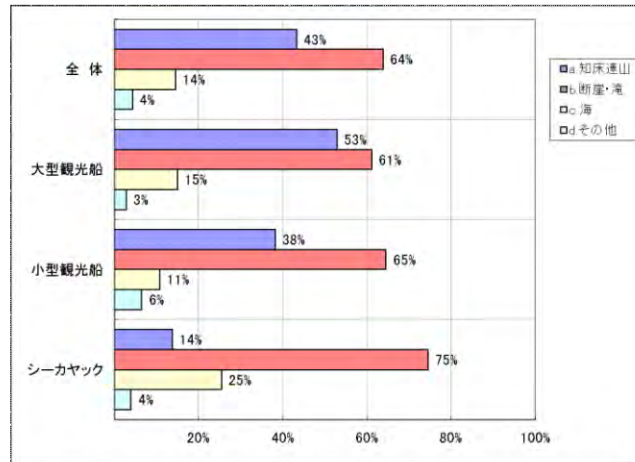
	1. 風景	2. 野生動物	3. 船自体	4. その他	無回答
全体	87% (426)	68% (334)	18% (87)	2% (10)	4% (20)
大型観光船	87% (221)	57% (145)	12% (30)	2% (5)	7% (17)
小型観光船	87% (161)	87% (161)	12% (23)	2% (3)	2% (3)
シーカヤック	86% (44)	55% (28)	67% (34)	4% (2)	0% (0)

	1. 風景	2. 野生動物	3. 船自体	4. その他	無回答
全体	87% (566)	63% (411)	25% (159)	4% (27)	3% (22)
大型観光船	88% (285)	55% (177)	10% (31)	3% (10)	4% (13)
小型観光船	83% (148)	86% (154)	17% (31)	3% (6)	4% (7)
シーカヤック	91% (133)	55% (80)	66% (97)	8% (11)	1% (2)

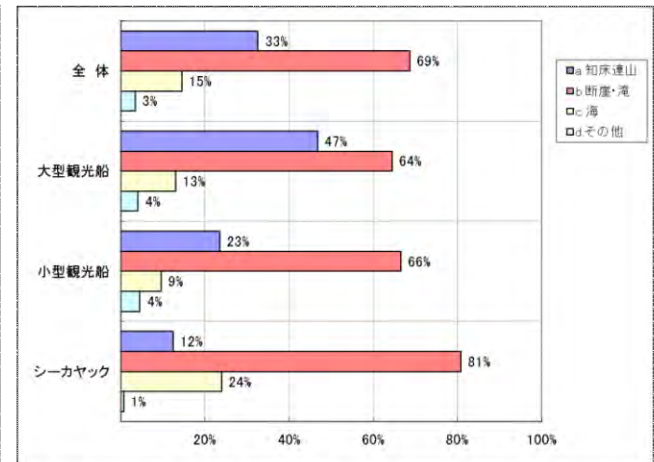
差は見られない。シーカヤックの「4.その他」の内訳では「スリル」や「カナディアンカヌーとの違い」、「自然」などが含まれている。

Q10-2(風景) 「風景」と答えた方→一番期待していたものは？ 一複数回答可

前期



後期



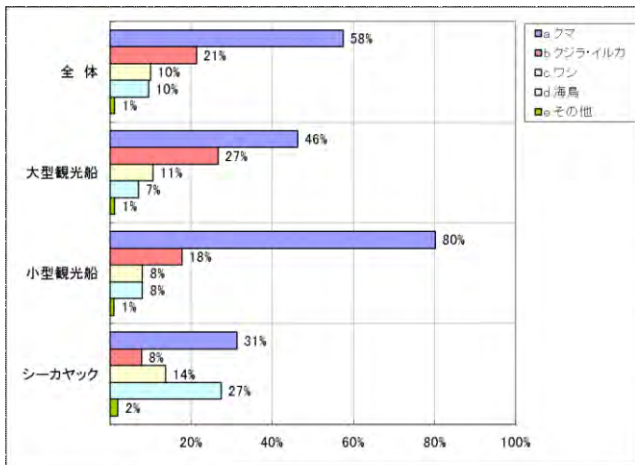
	a. 知床連山	b. 断崖・滝	c. 海	d. その他
全体	43% (213)	64% (314)	14% (71)	4% (21)
大型観光船	53% (135)	61% (156)	15% (38)	3% (7)
小型観光船	38% (71)	65% (120)	11% (20)	6% (12)
シーカヤック	14% (7)	75% (38)	25% (13)	4% (2)

	a. 知床連山	b. 断崖・滝	c. 海	d. その他
全体	33% (211)	69% (445)	15% (94)	3% (22)
大型観光船	47% (151)	64% (208)	13% (42)	4% (13)
小型観光船	23% (42)	66% (119)	9% (17)	4% (8)
シーカヤック	12% (18)	81% (118)	24% (35)	1% (1)

差は見られない。

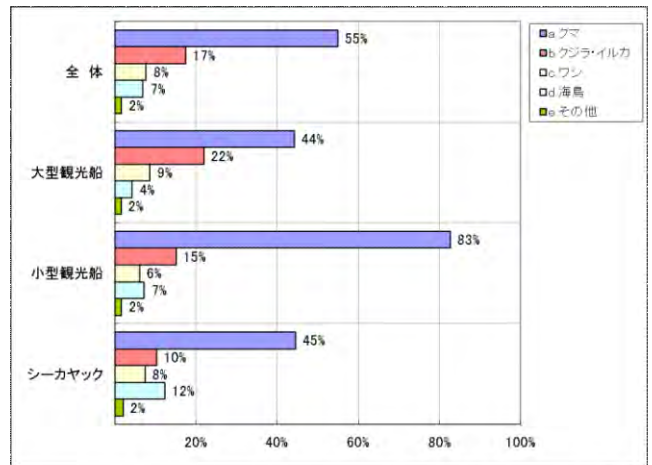
Q10-2(野生動物) 「野生動物」と答えた方→一番期待していたものは? 一複数回答可

前期



	a.クマ	b.クジラ・イルカ	c.ワシ	d.海鳥	e.その他
全体	58% (283)	21% (105)	10% (49)	10% (47)	1% (6)
大型観光船	46% (118)	27% (68)	11% (27)	7% (18)	1% (3)
小型観光船	80% (149)	18% (33)	8% (15)	8% (15)	1% (2)
シーカヤック	31% (16)	8% (4)	14% (7)	27% (14)	2% (1)

後期

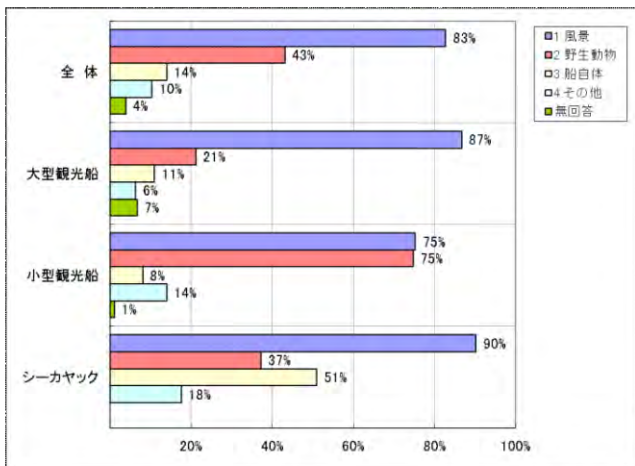


	a.クマ	b.クジラ・イルカ	c.ワシ	d.海鳥	e.その他
全体	55% (356)	17% (113)	8% (50)	7% (45)	2% (11)
大型観光船	44% (143)	22% (71)	9% (28)	4% (14)	2% (5)
小型観光船	83% (148)	15% (27)	6% (11)	7% (13)	2% (3)
シーカヤック	45% (65)	10% (15)	8% (11)	12% (18)	2% (3)

クマへの期待が前期、後期通じて圧倒的だが、シーカヤックでの「d.海鳥」の選択率が高く、また後期よりも前期での選択率が高い。

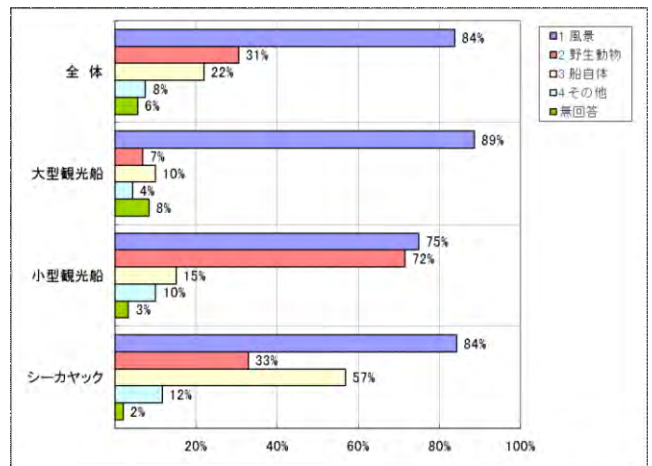
Q11-1. 乗船して何が印象に残っていますか？(良かった点) 一複数回答可

前期



	1.風景	2.野生動物	3.船自体	4.その他	無回答
全体	83% (407)	43% (212)	14% (69)	10% (51)	4% (19)
大型観光船	87% (221)	21% (54)	11% (28)	6% (16)	7% (17)
小型観光船	75% (140)	75% (139)	8% (15)	14% (26)	1% (2)
シーカヤック	90% (46)	37% (19)	51% (26)	18% (9)	0% (0)

後期

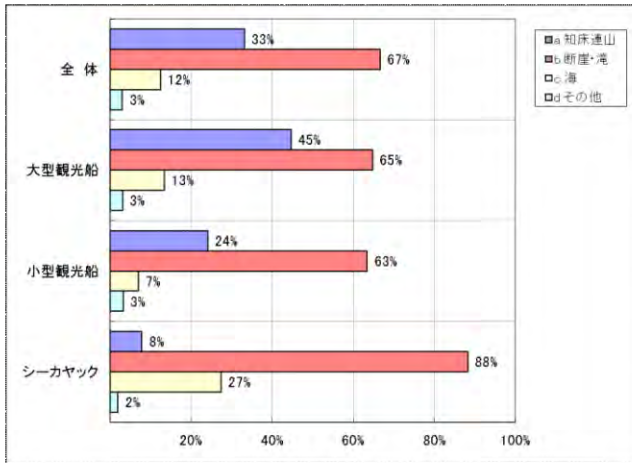


	1.風景	2.野生動物	3.船自体	4.その他	無回答
全体	84% (543)	31% (198)	22% (142)	8% (49)	6% (36)
大型観光船	89% (286)	7% (22)	10% (32)	4% (14)	8% (27)
小型観光船	75% (134)	72% (128)	15% (27)	10% (18)	3% (6)
シーカヤック	84% (123)	33% (48)	57% (83)	12% (17)	2% (3)

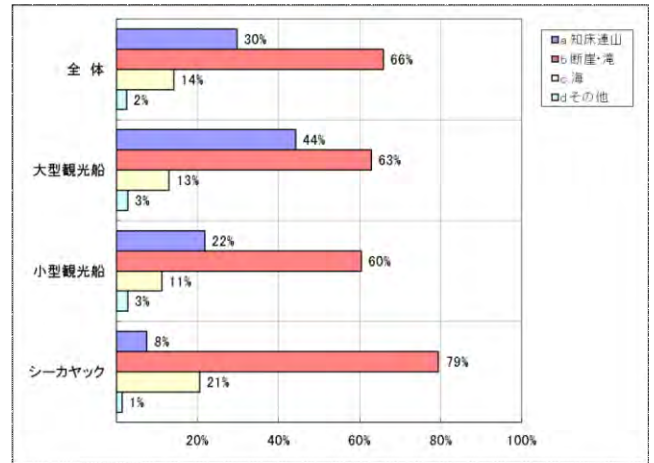
大きな差は見られない。

Q11-2(風景) 「風景」と答えた方→ 一番印象に残ったものは？ 一複数回答可

前期



後期



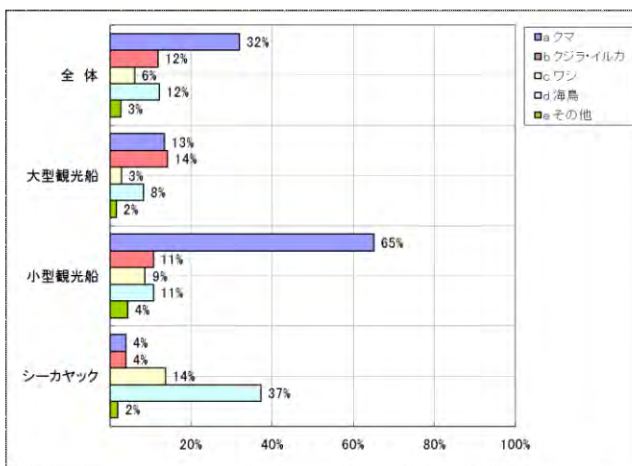
	a.知床連山	b.断崖・滝	c.海	d.その他
全体	33% (163)	67% (328)	12% (61)	3% (15)
大型観光船	45% (114)	65% (165)	13% (34)	3% (8)
小型観光船	24% (45)	63% (118)	7% (13)	3% (6)
シーカヤック	8% (4)	88% (45)	27% (14)	2% (1)

	a.知床連山	b.断崖・滝	c.海	d.その他
全体	30% (193)	66% (427)	14% (92)	2% (16)
大型観光船	44% (143)	63% (203)	13% (42)	3% (9)
小型観光船	22% (39)	60% (108)	11% (20)	3% (5)
シーカヤック	8% (11)	79% (116)	21% (30)	1% (2)

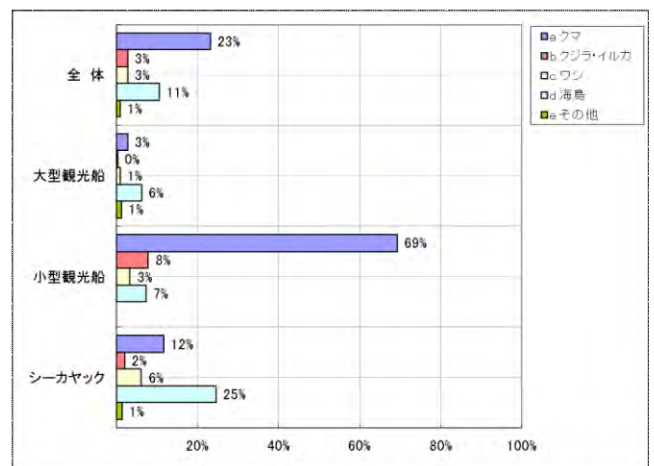
大きな差は見られない。「b.断崖・滝」が前期、後期共に高い割合を示している。

Q11-2(野生動物) 「野生動物」と答えた方→ 一番印象に残ったものは？ 一複数回答可

前期



後期



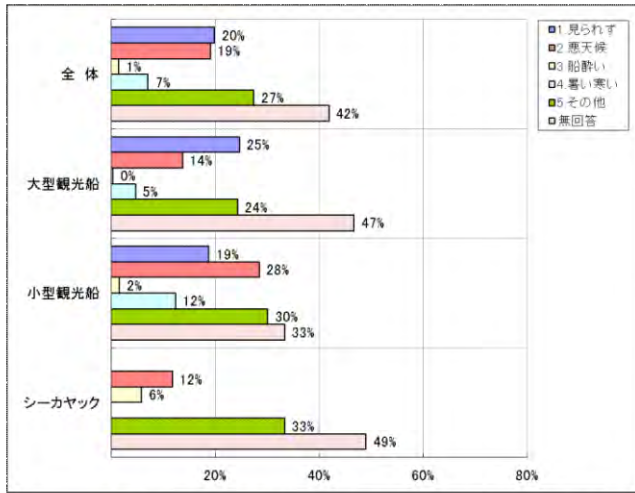
	a.クマ	b.クジラ・イルカ	c.ワシ	d.海鳥	e.その他
全体	32% (157)	12% (58)	6% (30)	12% (60)	3% (13)
大型観光船	13% (34)	14% (36)	3% (7)	8% (21)	2% (4)
小型観光船	65% (121)	11% (20)	9% (16)	11% (20)	4% (8)
シーカヤック	4% (2)	4% (2)	14% (7)	37% (19)	2% (1)

	a.クマ	b.クジラ・イルカ	c.ワシ	d.海鳥	e.その他
全体	23% (150)	3% (18)	3% (18)	11% (69)	1% (6)
大型観光船	3% (9)	0% (1)	1% (3)	6% (20)	1% (4)
小型観光船	69% (124)	8% (14)	3% (6)	7% (13)	0% (0)
シーカヤック	12% (17)	2% (3)	6% (9)	25% (36)	1% (2)

大型船で「a.クマ」、「b.イルカ・クジラ」の選択率が前期の方が高い。小型船は差が見られず、シーカヤックで「d.海鳥」の選択率が前期、後期を通じて高くなっている。特に前期は37%で後期の25%を大きく上回っている。

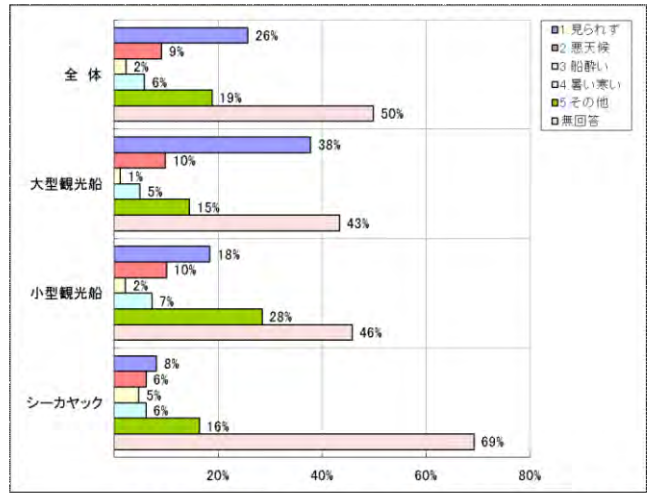
Q12. 乗船して残念だった点はありませんか？

前期



	1.見られず	2.悪天候	3.酔い	4.寒い	5.その他	無回答
全体	20% (98)	19% (94)	1% (7)	7% (35)	27% (135)	42% (206)
大型観光船	25% (63)	14% (35)	0% (1)	5% (12)	24% (62)	47% (119)
小型観光船	19% (35)	28% (53)	2% (3)	12% (23)	30% (56)	33% (62)
シーカヤック	0% (0)	12% (6)	6% (3)	0% (0)	33% (17)	49% (25)

後期



	1.見られず	2.悪天候	3.酔い	4.寒い	5.その他	無回答
全体	26% (167)	9% (59)	2% (15)	6% (38)	19% (122)	50% (323)
大型観光船	38% (122)	10% (32)	1% (4)	5% (16)	15% (47)	43% (140)
小型観光船	18% (33)	10% (18)	2% (4)	7% (13)	28% (51)	46% (82)
シーカヤック	8% (12)	6% (9)	5% (7)	6% (9)	16% (24)	69% (101)

差は見られない。設問への無回答の数値は、「概ね満足していた」と解釈できる。シーカヤックの無回答は64%で最も高い。

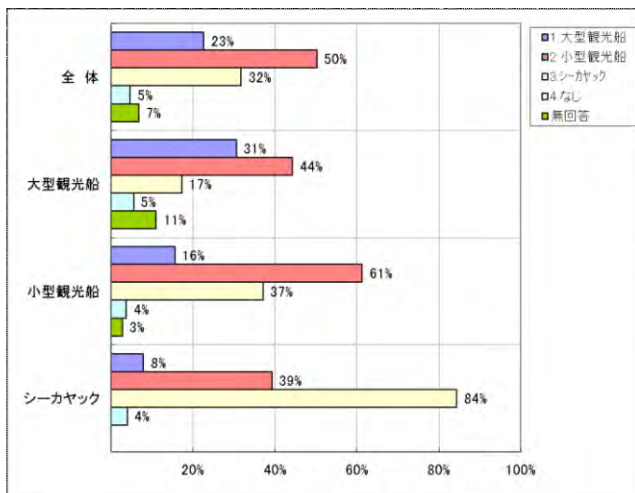
※【設問設定に問題あり】

- ・“5.その他”の回答で“クマが見えなかった”と“1.見たいものが見えなかった”と重複するケースが多い。
- ・“5.その他”の回答に“とても良かった”“残念な点はありません”などの良い感想の回答が多かった。

Q13. 船内放送(案内・解説)の感想をお聞かせください。 ※対象外

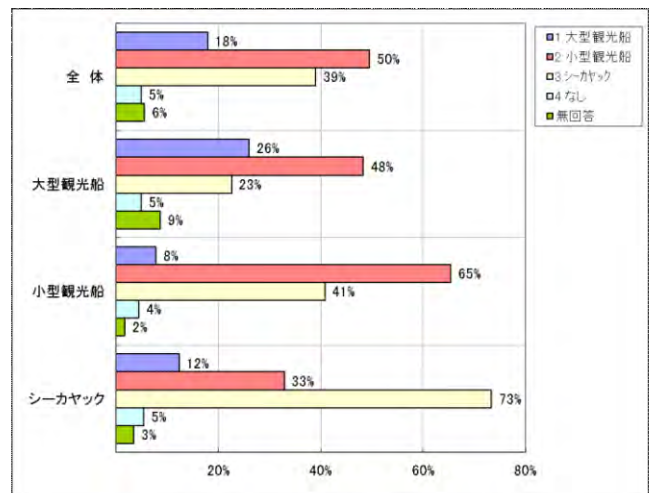
Q14. 次回ウトロに来た時に乗ってみたい船のタイプはありますか？ —複数回答可

前期



	1.大型船	2.小型船	3.シーカヤック	4.なし	無回答
全体	23% (111)	50% (247)	32% (156)	5% (23)	7% (33)
大型観光船	31% (78)	44% (113)	17% (44)	5% (14)	11% (28)
小型観光船	16% (29)	61% (114)	37% (69)	4% (7)	3% (5)
シーカヤック	8% (4)	39% (20)	84% (43)	4% (2)	0% (0)

後期

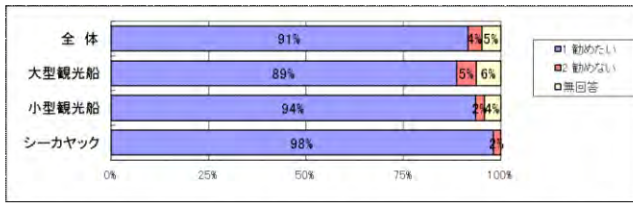


	1.大型船	2.小型船	3.シーカヤック	4.なし	無回答
全体	18% (116)	50% (321)	39% (253)	5% (32)	6% (36)
大型観光船	26% (84)	48% (156)	23% (73)	5% (16)	9% (28)
小型観光船	8% (14)	65% (117)	41% (73)	4% (8)	2% (3)
シーカヤック	12% (18)	33% (48)	73% (107)	5% (8)	3% (5)

大きな差は見られない。

Q15 今回乗った船を家族や友人会社の同僚などにお勧めしたいですか？

前期



カテゴリ	1.勧めたい	2.勧めない	無回答
全体	91% (450)	4% (18)	5% (24)
大型観光船	89% (226)	5% (13)	6% (16)
小型観光船	94% (174)	2% (4)	4% (8)
シーカヤック	98% (50)	2% (1)	0% (0)

後期



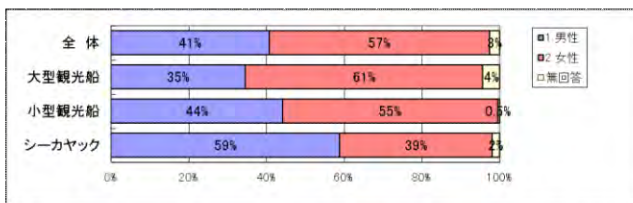
カテゴリ	1.勧めたい	2.勧めない	無回答
全体	90% (581)	5% (30)	6% (37)
大型観光船	85% (274)	7% (24)	8% (25)
小型観光船	95% (170)	2% (4)	3% (5)
シーカヤック	94% (137)	1% (2)	5% (7)

差は見られない。どの船の種類でも「1.勧めたい」が大部分を占めている。

Q16. そのほか乗船後の率直な感想などは是非お聞かせください。 ※対象外

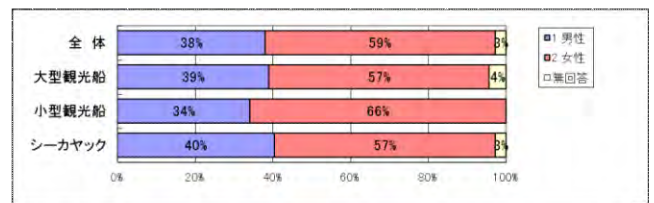
Q17-1. 性別

前期



カテゴリ	1.男性	2.女性	無回答
全体	41% (200)	57% (279)	3% (13)
大型観光船	35% (88)	61% (156)	4% (11)
小型観光船	44% (82)	55% (103)	0.5% (1)
シーカヤック	59% (30)	39% (20)	2% (1)

後期

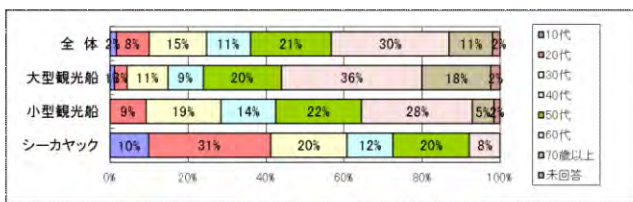


カテゴリ	1.男性	2.女性	無回答
全体	38% (246)	59% (384)	3% (18)
大型観光船	39% (126)	57% (183)	4% (14)
小型観光船	34% (61)	66% (118)	0% (0)
シーカヤック	40% (59)	57% (83)	3% (4)

配布時に性別の偏りないようにコントロールされているため、利用者全体の実際の割合には一致しない。

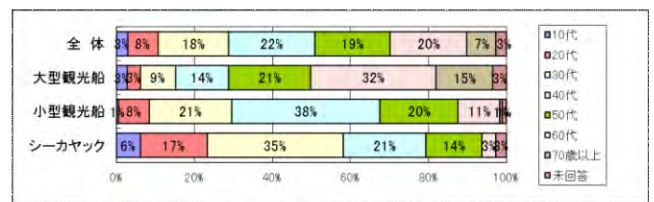
Q17-2. 年齢区分

前期



カテゴリ	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	未回答
全体	2% (8)	8% (41)	15% (73)	11% (55)	21% (102)	30% (149)	11% (55)	2% (9)
大型観光船	1% (3)	3% (8)	11% (27)	9% (23)	20% (51)	36% (92)	18% (45)	2% (6)
小型観光船	0% (0)	9% (17)	19% (36)	14% (26)	22% (41)	28% (53)	5% (10)	2% (3)
シーカヤック	10% (5)	31% (16)	20% (10)	12% (6)	20% (10)	8% (4)	0% (0)	0% (0)

後期

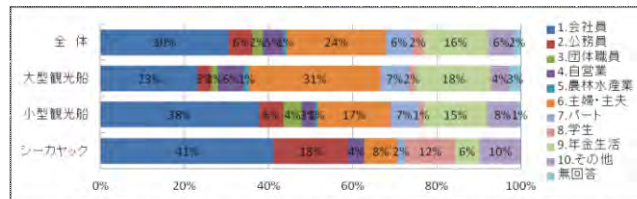


カテゴリ	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	未回答
全体	3% (19)	8% (50)	18% (118)	22% (143)	19% (125)	20% (128)	7% (48)	3% (17)
大型観光船	3% (9)	3% (11)	9% (29)	14% (44)	21% (68)	32% (104)	15% (47)	3% (11)
小型観光船	0.6% (1)	8% (14)	21% (38)	38% (68)	20% (36)	11% (19)	0.6% (1)	1.1% (2)
シーカヤック	6% (9)	17% (25)	35% (51)	21% (31)	14% (21)	3% (5)	0% (0)	3% (4)

配布時に年代に偏りないようにコントロールされているため、利用者全体の実際の割合には一致しない。

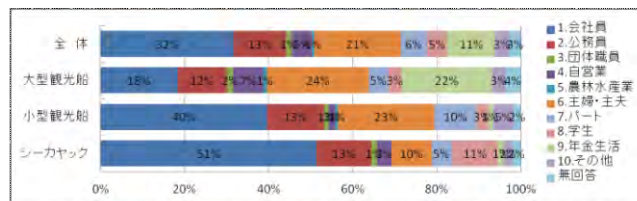
全体の前期で60歳台以上の割合が多い事、後期で30代、40代が割合を増す事(夏休みの影響か?)や、大型船の60歳以上の割合が高いこと、小型船、シーカヤックで若い年代が多い事などは、ある程度実態を反映している物と思われる。

Q18.ご職業
前期



	1.会社員	2.公務員	3.団体職員	4.自営業	5.農林水産業	6.主婦・主夫	7.パート	8.学生	9.年金生活	10.その他	無回答
全体	30% (150)	6% (28)	2% (12)	5% (24)	0.8% (4)	24% (116)	6% (31)	2% (12)	16% (77)	6% (30)	2% (8)
大型観光船	23% (59)	3% (8)	2% (4)	6% (16)	1.2% (3)	31% (80)	7% (17)	2% (4)	18% (46)	4% (11)	3% (7)
小型観光船	38% (70)	6% (11)	4% (8)	3% (6)	0.5% (1)	17% (32)	7% (13)	1% (2)	15% (28)	8% (14)	0.5% (1)
シーカヤック	41% (21)	18% (9)	0% (0)	4% (2)	0% (0)	8% (4)	2% (1)	12% (6)	6% (3)	10% (5)	0% (0)

後期

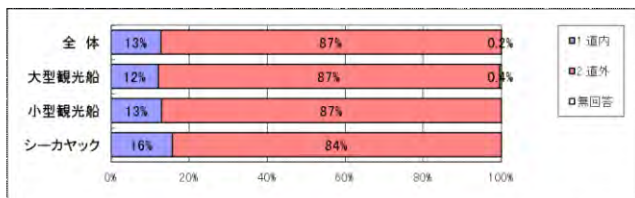


	1.会社員	2.公務員	3.団体職員	4.自営業	5.農林水産業	6.主婦・主夫	7.パート	8.学生	9.年金生活	10.その他	無回答
全体	32% (205)	13% (81)	1.4% (9)	5% (31)	0.6% (4)	21% (133)	6% (40)	5% (31)	11% (74)	3% (22)	3% (18)
大型観光船	18% (59)	12% (38)	2% (5)	7% (23)	0.9% (3)	24% (78)	5% (15)	3% (10)	22% (70)	3% (10)	4% (12)
小型観光船	40% (71)	13% (24)	1.1% (2)	2% (3)	0.6% (1)	23% (41)	10% (18)	3% (5)	1.1% (2)	5% (9)	1.7% (3)
シーカヤック	51% (75)	13% (19)	1.4% (2)	3% (5)	0% (0)	10% (14)	5% (7)	11% (16)	1.4% (2)	2% (3)	2% (3)

差は見られない。

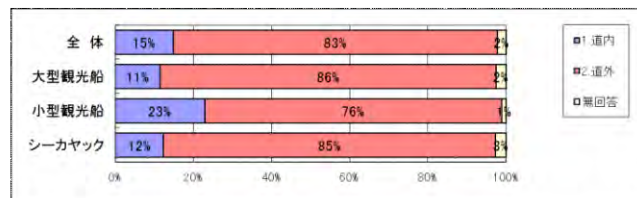
Q19. どこから来られましたか？

前期



	1.道内	2.道外	無回答
全体	13% (63)	87% (428)	0.2% (1)
大型観光船	12% (31)	87% (223)	0.4% (1)
小型観光船	13% (24)	87% (162)	0.0% (0)
シーカヤック	16% (8)	84% (43)	0.0% (0)

後期



	1.道内	2.道外	無回答
全体	15% (96)	83% (538)	2.2% (14)
大型観光船	11% (37)	86% (278)	2.5% (8)
小型観光船	23% (41)	76% (136)	1.1% (2)
シーカヤック	12% (18)	85% (124)	2.7% (4)

小型船の「道内からの利用者」の割合が後期に高くなっている。

4. 各事業所における自然情報収集調査

今年度新たな取り組みとして、観光船事業者による「海域状況観察記録」が実施された。実施内については前年度の業務の中で実施検討がされたもので、平成 23 年度は各観光船事業所に実施依頼を行った結果、大型観光船「おーろら号」の運航サービスを行っている道東観光開発株式会社（網走市）により実施される事となった。

4-1. 調査概要

海域利用とケイマフリを中心とした海鳥生息環境の保護をテーマとした取り組みの一環として、観光船事業者の方々の協力により運行時に見られる海鳥の簡易モニタリング調査を実施し、海鳥の生息状況やデコイの設置による効果の検証を行うものである。

本調査は貴重な海鳥への関心度の向上や観光資源としての海鳥の利用を探る事も目的とする。調査実施に際しては海鳥の専門家や調査研究者と観光船事業者との協力関係の構築もテーマとし、専門家によるノウハウの提供や互いの観察情報の共有が出来るような方法も取り入れ、最終的には研究者、観光船事業者、観光客、生息する海鳥、それぞれがメリットを享受出来るような仕組みを目指すものである。

4-2. 実施方法

調査はウトロ海域で運行している観光船およびシーカヤックの事業者を対象とし、運行中に見られた海鳥の状況を記録する。

4-3. 記録内容および調査範囲

対象を繁殖期のケイマフリをメインとするが、観察実施者の実施可能なレベルで実施する。調査結果は記録票に記録する。

4-4. 調査期間

調査実施時期は海鳥の繁殖期 6～8 月までの期間とする。

○海域状況観察記録票

ウトロ海域 海域観察記録票

船名		観察日	平成 年 月 日		
		航路	硫黄山・岬・ルシャ・その他()		
記録者		出航時間	:		
		天候		波の高さ	m

●ケイマフリの記録

場所・位置区分	確認数	分布状況	距離	解説

●その他の記録

4-5. 実施結果

実施期間中に大型観光船「おーろら号」「おーろら2号」の2隻から合計59便分の記録票が作成された。記録は運航業務の合間を縫って観察されているため定量的な観察とは成っておらず一枚当たりの観察時間にはムラがあり、また鳥類個体の同定や計数技術にも個人差があると考えられるが、非常に細かく丁寧に記録されており相当な努力をされたことが調査票からうかがえる。

観察の実施結果については10月の検討会でも報告され、委員の鳥類専門家らより高く評価された。次年度以降の継続実施を推奨するとともに、専門家による観察技術の指導や観察記録のレビューなど技術支援やサポート等の対応が必要と考えられる。



写真 4-1 観察中の乗組員



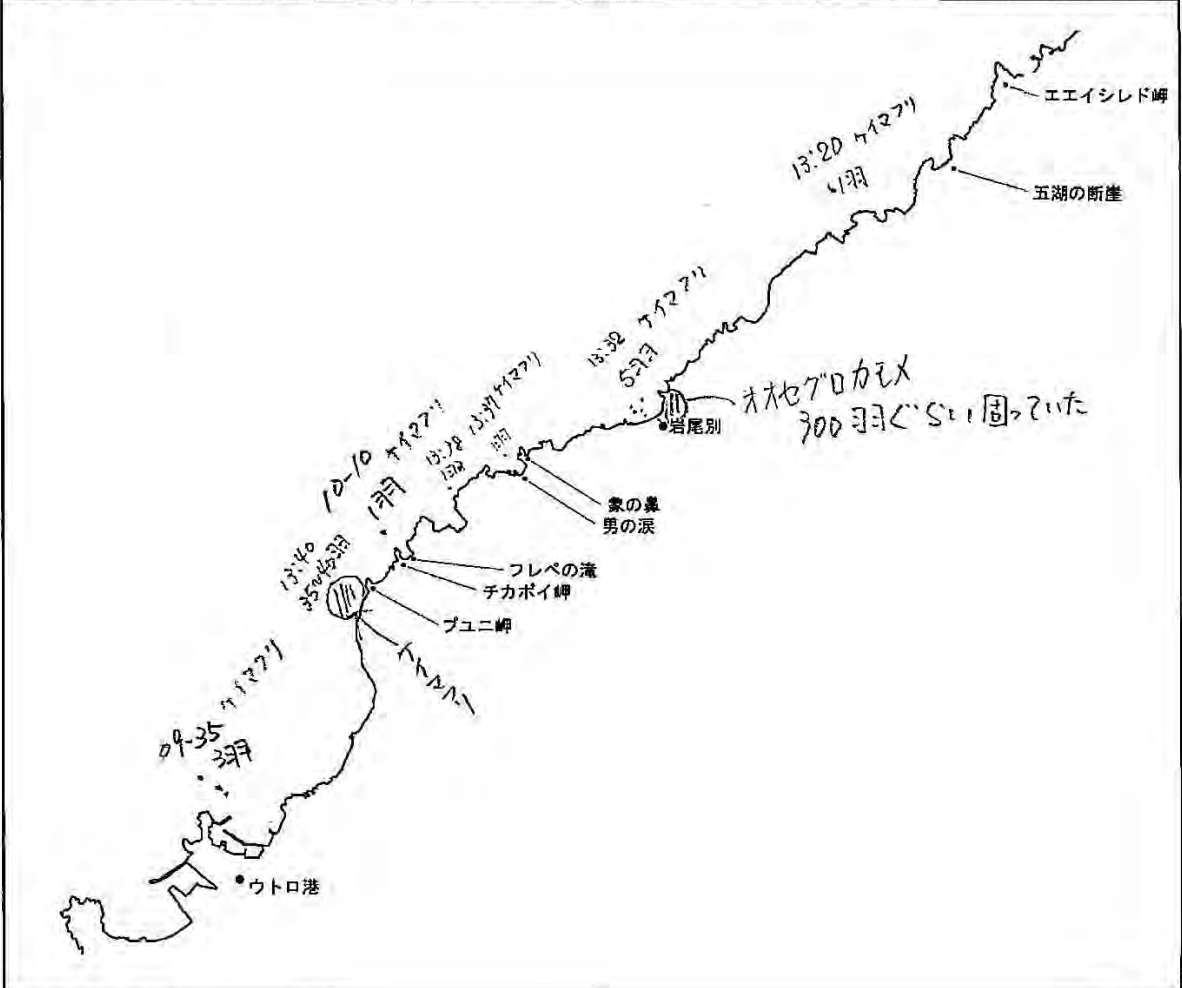
写真 4-2 航行中の「おーろら2号」

ウトロ海域 海域観察記録票

船名	お-ろ52	観察日	平成23年6月19日	
		航路	硫黄山・()・ベアウォッチング・()	
記録者		出航時間	10:00	
		天候	bc	波の高さ

●ケイマフリの記録

場所位置区分	確認数	分布状況	距離	解説
--------	-----	------	----	----



●その他の記録

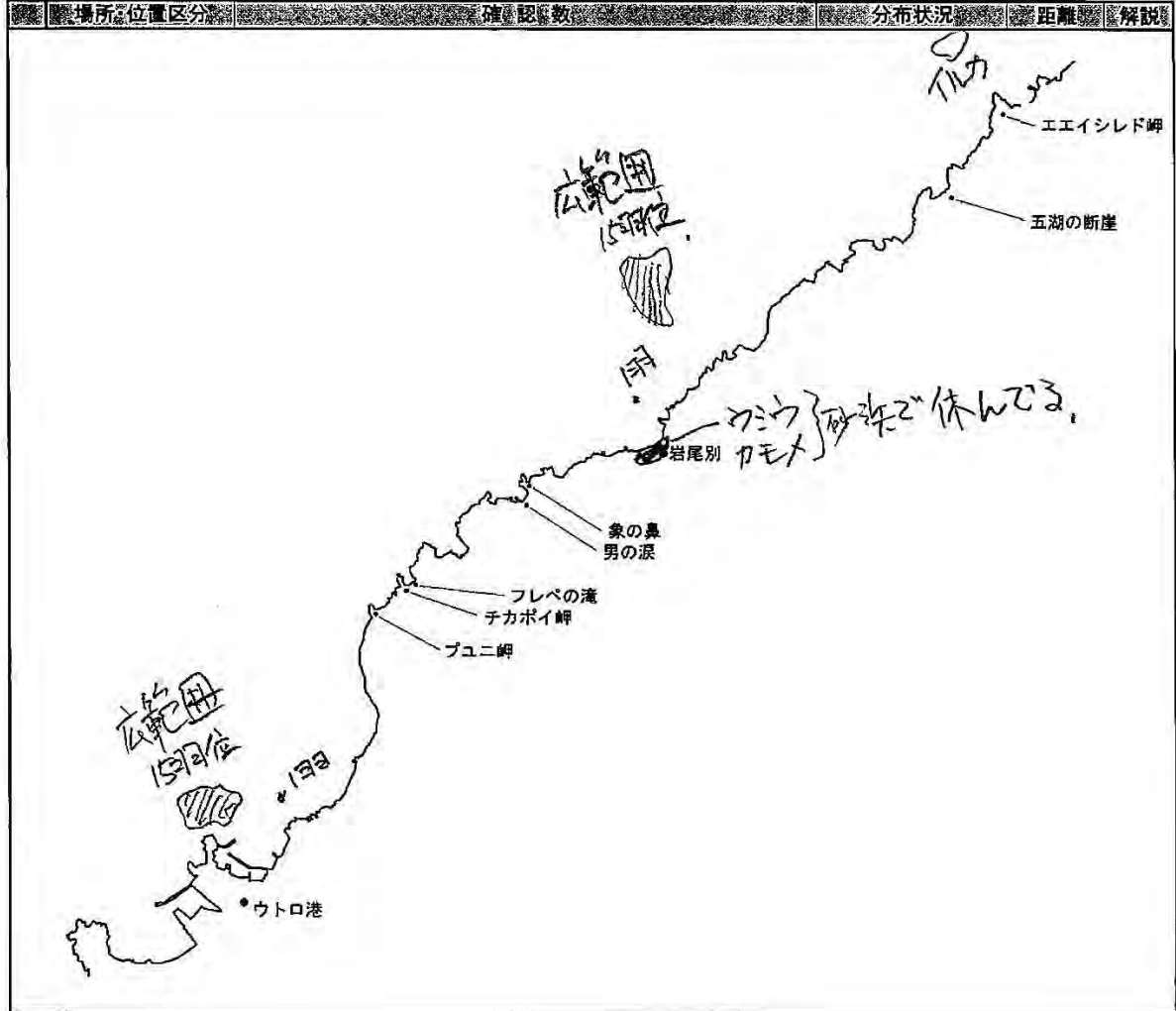
・NEの風 4~5m.

図 4-1 海域状況観察記録票の例 (1)

ウトロ海域 海域観察記録票

船名	カ-352	観察日	平成 23 年 6 月 21 日	
		航路	硫黄山・岬・ベアウオッチング・()	
記録者		出航時間	16:50	
		天気	くもり	波の高さ 0 m

●ケイマフリの記録



●その他の記録

・20日PM 11-00 曇い物しか港の中に入ってきた。
 ・海の透明度がなくなった(プランクトンが増えた事による)
 ・ツバメ、カモ、うらぐらぐらより飛んてくる。
 ・イルカが見えた約5頭位。

図 4-2 海域状況観察記録票の例 (2)

ウトロ海域 海域観察記録票

船名	か〜ろ〜	観察日	平成 23 年 6 月 28 日	
		航路	硫黄山・岬・ベアウオッチング・()	
記録者		出航時間	14:30	
		天候	晴	波の高さ

●ケイマフリの記録

場所・位置区分	確認数	分布状況	距離	解説

●その他の記録

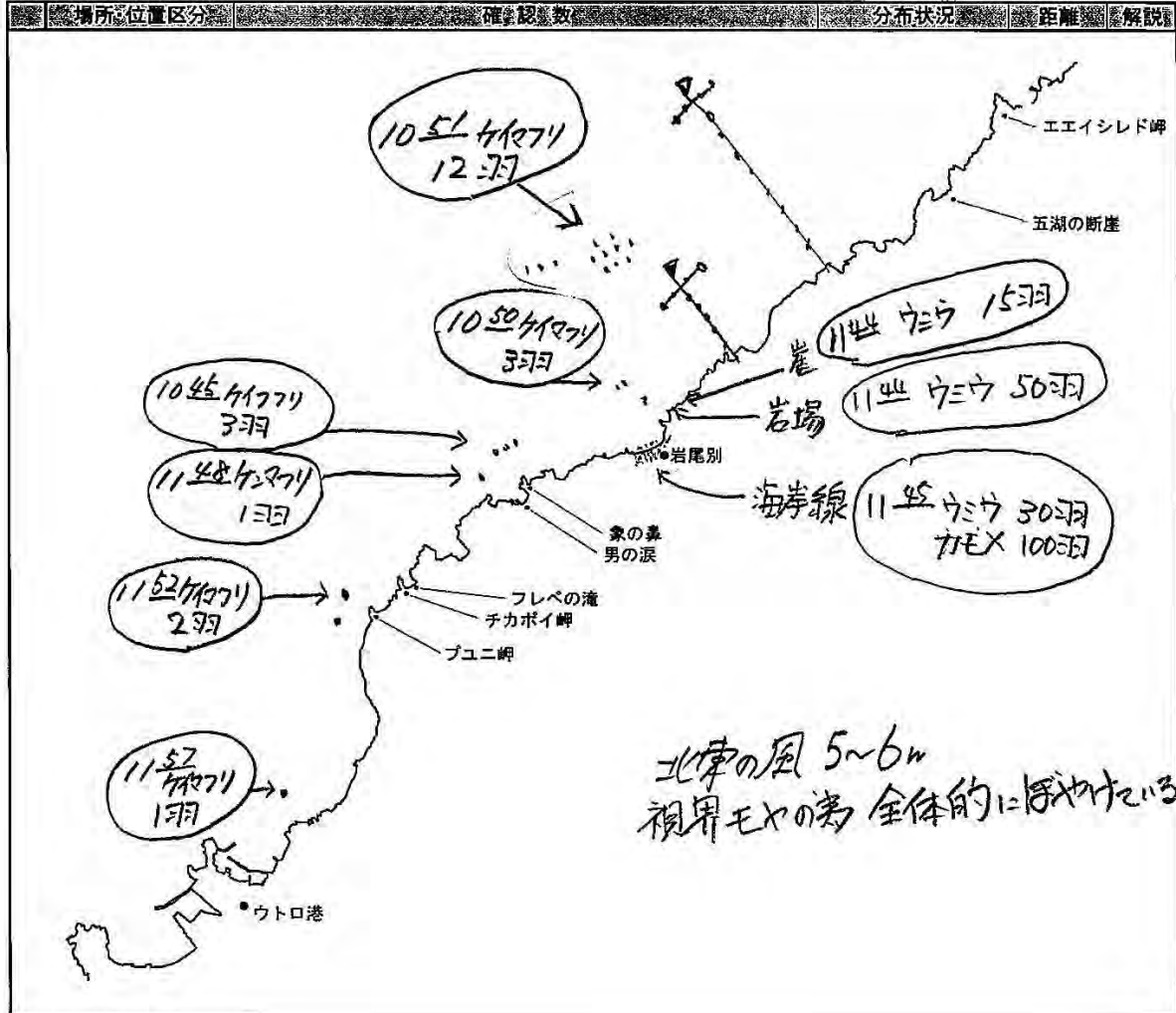
・ウミウが増えた。ヒメウが少ない。

図 4-3 海域状況観察記録票の例 (3)

ウトロ海域 海域観察記録票

船名	お-352	観察日	平成 23 年 6 月 30 日	
		航路	硫黄山・岬・ベアウォッチング・()	
記録者	[Redacted]	出航時間	10:00	
		天候	曇	波の高さ

●ケイマフリの記録



●その他の記録

[Empty box for other records]

図 4-4 海域状況観察記録票の例 (4)

5. 専門家を加えた関係者との検討会の開催

今年度事業では専門委員らによる関係者会議を2回、また地域関係者を交えた地域検討会を斜里町内で2回開催し活発な議論が展開された。なお今年度より検討会名称を「適正利用・エコツーリズム検討会議 ウトロ海域部会」に名称変更されている。

表 5-1 関係者打合せ、地域検討会実施状況

会議区分	開催日	場所・日時	参加者状況
関係者会議	H23年4月21日	札幌（環境省北海道地方環境事務所）	環境省、専門委員ら8名
ウトロ海域部会	H23年5月30日	斜里町ウトロ（知床遺産センター）	環境省、専門委員、地域関係者ら20名
ウトロ海域部会	H23年10月5日	斜里町ウトロ（知床遺産センター）	環境省、専門委員、地域関係者ら24名
関係者会議	H24年2月22日	札幌（環境省北海道地方環境事務所）	環境省、専門委員ら10名

※平成24年2月22日開催の関係者会議は業務仕様書「(4) 広報用ホームページ作成について」のうち“利用の専門家による意見交換会議の開催”を兼ねて開催されたものである。



写真 5-1 部会開催の状況 (H23. 10. 5)

5-1. 第1回 関係者会議

5-1-1. 開催概要

会議名	第1回 関係者会議
日時	平成23年4月21日 PM13:00~15:00
場所	札幌（環境省北海道地方環境事務所）
参加者	環境省、専門委員ら8名
議事	1. 検討会概要図 2. 年間スケジュール 3. 実施計画概要 4. 利用動向調査について 5. 海域環境状況調査について 6. 海鳥パンフレット（追加分）について



写真 5-2 会議風景

5-1-2. 出席者

区 分	所 属	職 名	氏 名
委員	北大名誉教授、山皆鳥研客員研究員	名誉教授	小城 春雄
	北海道大学大学院水産科学研究院	教授	桜井 泰憲 (欠席)
	北海道大学観光学高等研究センター	教授(座長)	敷田 麻実
	(財)日本交通公社 観光調査部	部長	寺崎 竜雄 (欠席)
	斜里知床博物館	元館長	中川 元
	知床海鳥研究会	会長	福田 佳弘
事務局	環境省 釧路自然環境事務所	次長	則久 雅司
		野生生物課課長補佐	小野 宏治
	環境省 ウトロ自然保護官事務所	自然保護官	中村 仁
その他	ユニオンデータシステム(株)		栗林 貴光

5-1-3. 会議資料

※会議資料および議事録全文は、資料編 DVD または知床データセンターWeb サイトを参照のこと

5-1-4. 議事概要

発言内容
1.今年度事業計画について
1-1.検討会概要図について
<p>……事務局より「検討会概要図」の説明</p>
<p>◆検討会概要図についての意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行政がどこに入れるのかも含めて、この図が何を示したいのか？というのが良く解らない。(中川委員) ・ 陸上のエコツーリズム戦略が海域も対象にすることになったことと、陸上のそれぞれの部会の統合がスタートしていますので、海域においても「海鳥だけ」、「ケイマフリだけ」というような特定のテーマをあげて行くというより、統合的に扱うという大きな流れが出来つつありますので、できればこの事業も「海域利用」の方向に持って行ければと思っています。可能であれば”海鳥・・”というタイトルが付いている会議ですが、今年名前を変えるぐらいの開き方をした方がエコツーリズム戦略本体にとっては影響が良いと思います。(敷田委員) ・ 自然との軋轢で一番気にしているのは海鳥であり、そこがコンセプトとしてズレないのであれば、会議の名前自体は変わっても良いのではと思う。(環境省) ・ 一方でクマも今のところ観光船にとってはターゲットになっているということを考えると、海域利用全体を議論せざるを得ない時期に来ていると思います。(敷田委員) ・ モデル的にウトロ海域の海鳥についてやっているという位置付けであるならば、そこで一つの形を作って、それをクジラなり羅臼海域になりに広げていくという位置付けのものとして、まずこれで一つ良いのではないかと思います。(中川委員) ・ 基本構造として海域の自然観光資源を利用者(観光客)が使っている。その間に関係者が入っている構造は変わらないと思います。今まで事業者しか関係者として入っていなかったものが、今回の事業の中では福田さんのような研究者や関係者がきちんと連携の中に入っており、それが連携できているという図になれば良いのかな？と思っています。(敷田委員) ・ 中川先生の言われたような意見を参考に修正して、また皆さんに見て頂くという事でいかがでしょうか？(敷田委員) ・ 経緯からすると海域の利用と研究者の関わりということも歴史がまだ浅いので、今までにない良い形が作っていきけると思う。逆に陸域のほうはこれまでの歴史がありますので行政や知床財団も含めて、なかなか、このようにすっきりとは行かない。(中川委員) ・ 行政も地域も入って皆で作った会でルール作りをしたんだ、というのが重要。だからそれに従ってくれということ。例えば地元の誰かがここを仕切ってる訳ではなく、皆で合意したものでやっている、ということで良いと思う。(中川委員) ・ 利用者のところはもう少し色々書き込めないでしょうか？利用者のところにある流れというのは、関心、来訪、サービス、情報、という4つの流れですが、今後海域利用の利用の面から言えば利用者が鍵を握っている訳です。利用者がどんどん増えれば、自然資源、自然観光資源を駄目にしてしまう可能性があります。しかし観光と言うのは、ある意味売り出さないと観光にならないですから、その辺の繋がりをだた”関心”という言葉で終わらせないで、もう少し色々書き込めないかと思う。(環境省)
1-2.年間スケジュールについて
<p>【今年度スケジュールについて説明】 (環境省)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 検討会 5月中旬～下旬、10月中旬の2回を計画 ・ デコイの設置について ・ 海鳥調査の実施 ・ 利用動向調査 ・ 海域情報観察調査 ・ 海鳥ミニ出前講座 ・ ホームページの作成

発言内容
1-3.実施計画概要
<p>●【利用者同行調査の実実施計画について説明】（環境省）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海鳥のいる5月～6月と海鳥の少なくなる8月～9月の2期に分けて実施予定。 ・配布方法は昨年度と同様とする。 ・配布数量は船のタイプ、航路、団体客・個人客などの集計単位ごとに目標回答数を100として、昨年度の回答率を参考に割り戻した数量を配布数量の目安とする。 ・設問設定は昨年度検討会での意見を参考に直直しを行う。 <p>●【観光船事業者による海域環境状況調査について説明】（環境省）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業者さんに協力して頂き海鳥を中心に海域状況を航海中に記録して貰おうという簡易調査である。 ・調査票案について
<p>◆ミニ出前講座開催に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初この出前講座は利用者（観光客）を対象に考えていたが、1回目はハイシーズンの前に観光船事業者、自然ガイド、ホテル関係者などを”観光事業関係者”という括りで案内をして、2回目は利用者（観光客）も含めて実施するという方向で考えている。（環境省）
1-4.利用動向調査について
<p>◆実施時期について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートは何故7月が抜けているのか？海鳥は7月がもっともたくさん見れる時期なので、この時期を外さない方がよい。ウトロの5月はまだ寒くて観光客はそれほど多く無い。増えてくるのは6月以降である。（福田委員） ・5月ではゴールデンウィークには一時的に観光客が増えるが、その後はまた6月まで少なくなる。ゴールデンウィークの調査は調査内容が妥当かどうかのテスト調査にしてはどうか？その結果から内容を調整して6月、7月、8月、9月と本番実施とすると良いのではないかと。（敷田委員）
<p>◆設問について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業者さんが知りたい項目というのが少ないと思う。例えばインターネットで情報を収集されてる方が殆どであると昨年度の結果で出ていたが、インターネットで得ることが出来た情報、逆に欲しかったが得られなかった情報は何か？などの設問があると良いのではないかと。（敷田委員）
<p>◆インターネットからのアンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットでアンケートが出来るシステムがあると良い。例えばネットショッピングで見られる、利用者に対するアンケートのような仕組み。観光船利用者に対してインターネットでアンケートを行うような仕組みは考えられないかと。（福田委員） ・海鳥のウェブページを今年度作成しますので、その中でアンケートについても検討する。乗船した後にインターネット上のアンケートに答えてもらう方法ですね。（ユニオンデータシステム栗林）
1-6.海鳥パンフレットについて
<ul style="list-style-type: none"> ・なかなか解りやすく特徴が解って良いですね。（敷田委員） ・イラストは海鳥研究会が作ったがあるので、それを使ってもらって構わない。それから何故いまケイマフリなのかということをつけ加えた方がよいと思います。「海洋生物のホットスポット知床へようこそ」ということで、たくさんの海洋生物が棲む知床、その一つとしてケイマフリがここに居るということを前置きで説明した方がよい。（福田委員） ・「見た鳥はチェックしよう！」というふうにチェックできるようにしませんか？そうすれば自分で探してみようと思えます。海鳥の種類はもう少しあっても良いかもしれない。そうすると子供が遊ぶことも出来るだろう。今年はずりあえずそれだけで良いと思う。（敷田委員） ・今出てきたような意見を元にチェックマークを着けるようにして、ケイマフリの重要性が解る内容として表面はケイマフリにウェイトを置くということで、栗林さんと福田さんにお任せしてよろしいのではないかと。（敷田委員）
2.その他
<p>◆第一回の検討会の開催時期について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検討会の開催はゴールデンウィーク後の5月中旬くらいを想定している。皆さんの日程調整はすぐにしたいと思う。（環境省） ・今回作成したデコイも「事業者さんに貸し出しますから有効に使ってください」というような話もできればと思う。（福田委員） ・5月の中旬、下旬で大丈夫か？時間は足りなくないか？（敷田委員） ・本格的な観光客の動きは6月からである。6月の頭でもいいが、しっかり用意をしてから開催したほうが良い。（福田委員） ・5月の30日で一旦調整したい。調整していただいて難しければ再調整しては？（敷田委員）

発言内容
<p>◆デコイの設置について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ トークシモイ(こげし岩)で過去に10巣くらいの営巣が見られていたが、最近では殆ど営巣が確認されていない所である。ここで営巣地を復活を目標にデコイを設置する計画を立てている。来週からどこに設置するかの検討を進めて設置場所を決めたいと考えている。設置後はデコイの効果があるのか？逆に悪影響がないか？ということをしっかりモニタリングしていきたい。必要に応じてビデオカメラを設置することも検討している。(福田委員) ・ 鳥を誘引するための目的の場所と、観光船の人に見やすい場所に説明するためのデコイもあるといいのかと思う。観光船にとってはデコイを使って説明ができるというメリットがある。(環境省) ・ とても良いと思うが、どこに付けるかが難しい。(福田委員) ・ 今すぐに決めなくても良いと思う。ただ、その二つの意味合いでデコイを設置するという話をしておいた方が、今度の検討会でも話はし易いのかと思う。(敷田委員) ・ 土俵の素材としてプラスチックやビニール、アンカーの金属も含めて、分解されない素材の物は極力沈めておきたくない。場合によっては麻などの植物性の素材の土のう袋というのが良い選択かと思う。(環境省)
<p>1-5.海域環境状況調査について</p>
<p>◆調査票について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あまり細かいと敬遠されるだろうし、書き易さと、どれだけ情報を貰うかというバランスが非常に難しい。現場で書いてもらうとすれば、やはり地図形式が良いと思う。(中川委員) ・ 私もそういうイメージでいいと思う。正確なデータを取ってもらうというよりも”関心を持ってもらう”という事が目的だと思う。(福田委員) ・ 自由書き込み形式の方が色々書けるという事もありそうだ。地図に書き込んでもらい、そのまま生で貰った方がいいだろう。色々調査票の項目で整理されてしまうと、内容が変わってしまう可能性があるかもしれない。現場で書けるものが一番良い。このくらいであれば操縦しながらでも書けるかもしれない。(中川委員)
<p>◆データの利用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この情報はどうやって還元されるのだろうか？自然情報としては毎回書いて貰って、どこかでまとめて出せば良いと思うが。(環境省) ・ 公表するようなところまで、今のところ考えていないですよ？むしろ調査の参考にするくらいでしょうか？毎日の出現状況などを公表するとすると、それなりの内容を記録する必要がある。(中川委員) ・ そこまでの観察は求められないだろう。あくまでも目的は”関心を持ってもらう”という事であって、”データを取る”という意味での参加は求めなくて良いと思う。(福田委員) ・ 各社のインターネットのページなどで、「今日はこういう鳥が見れましたよ」というような情報を出してもらうのはいいと思う。(環境省)
<p>◆名称について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ モニタリングという言葉を使うこと自体、私はどうなのか？と思う。モニタリングはモニタリングで別にやっているから、これに関してはアンケートなどの名称でいいと思う。(福田委員) ・ 観察記録票というのはどうでしょうか？(ユニオンデータシステム栗林) ・ 観察記録がいいですね。(中川委員) (一同了承)
<p>◆その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業者が保全にしっかり関わるためには、自らデータを取ってそれを蓄積して見える形で見せた方が効果が大きいと思う。データとしてはまばらかもしれないが、それを積み重ねて行くとたぶん沿岸にケイマフリのポイントが落ちて、それを事業者自らが自分の取ったデータとして共有できれば、「やはり沿岸が大事なんだな」という認識を持ってもらえるのではないかと。(環境省) ・ 環境省がこれを公表するというよりも、自社のホームページで役立ててもらえれば良いと思う。見分け方などの観察技術などについては福田さんのアドバイスなども頂きながら、自分達のスキルを上げていこうという取組みにして頂ければ良いと思う。ただし、これを事業者が何か利用できる、還元できる事をやらないとなかなか実施してくれないと思われる。(ユニオンデータシステム栗林) ・ いきなり全社と言う訳にはいかないだろう。不定期かもしれませんが観察記録票ということにして、頂いたものを纏めてみると「こんな面白い物が出来ますよ」というのを一度お見せして、これを面白いじゃないかと思う人は、またどんな協力してくれるだろう。(環境省) ・ 価値は非常にあると思う。(中川委員)

5-2. 第1回 ウトロ海域部会

5-2-1. 開催概要

会議名	第1回 ウトロ海域部会
日時	平成23年5月30日 PM17:30~19:30
場所	斜里町ウトロ 知床世界遺産センター レクチャールーム
参加者	環境省、専門委員、地域関係者ら20名
議事	<ol style="list-style-type: none">1. 検討会の目的・進め方について2. 検討会の今年度計画<ol style="list-style-type: none">i 海鳥調査計画についてii デコイの設置についてiii 利用者動向アンケート調査IV 海域状況（海鳥）観察の試験実施について3. その他<ol style="list-style-type: none">i 検討会名称について4. 意見交換



写真 5-3 会議風景

5-2-2. 出席者

区分	所属	職名	氏名
委員	北大名誉教授、山皆鳥研客員研究員	名誉教授	小城 春雄 (欠席)
	北海道大学大学院水産科学研究院	教授	桜井 泰憲 (欠席)
	北海道大学観光学高等研究センター	教授(座長)	敷田 麻実
	(財)日本交通公社 観光調査部	部長	寺崎 竜雄
	斜里知床博物館	館長	中川 元
	知床海鳥研究会	会長	福田 佳弘
関係行政機関等	斜里町 環境保全課	主事	東 優里
	国土交通省北海道運輸局北見運輸支局	専門官	山口 浩之
関係機関・団体	ウトロ漁業協同組合	課長	山本 栄蔵
	知床斜里町観光協会	専務理事	青木 憲一
	知床小型観光船協議会	会長	小林 廣幸
事業者・一般	道東観光開発株 (知床観光船おーろら)	取締役支配人	加藤 誠
	ゴジラ岩観光(カムイッカ号)	主任	神尾 昇勝
	知床クルーザー観光船(FOX号)	常務取締役	渡部 譲二
		船舶管理部長	渡邊 誠
	知床アウトドアガイドセンター	代表	関口 均
事務局	環境省 釧路自然環境事務所	次長	則久 雅司
		国立公園企画官	荒畑正広
		自然保護官	加藤倫之
	環境省 ウトロ自然保護官事務所	自然保護官	中村 仁
その他	ユニオンデータシステム(株)		栗林貴光
			菊池義和

5-2-3. 会議資料

※会議資料および議事録全文は、資料編 DVD または知床データセンターWeb サイトを参照のこと

5-2-4. 議事概要

発言内容
開会・挨拶
<ul style="list-style-type: none">・ お時間になりましたので、「平成23年度知床国立公園ウトロ海域における海鳥の保護と持続可能な海域利用検討会」第一回会議を開催したいと思います。(事務局)・ 本日はお忙しいところ皆様にお集まりいただきましてありがとうございます。この春から鳥の繁殖シーズン、観光シーズンもスタートしており、お忙しい時期ですがこの春の時期に開催させていただくことになりました。 先般、報道などでご存知の方も多いと思いますが、デコイを一箇所試験的に設置しております。魅力あるウトロ海域、海鳥にとっても良い生息環境となるよう目指して行きたいと思っておりますので、引き続きご協力の程どうぞよろしくお願い致します。(環境省)・ 皆様お忙しい中お集まりいただき誠にありがとうございます。昨年お付き合い頂きました「平成23年度知床国立公園ウトロ海域における海鳥の保護と持続可能な海域利用検討会」ですが、皆様の協力のおかげで着実に成果を上げてきています。利害が対立し易い海域をテーマにしておりますが、皆さんが同じテーブルについて頂ける事は非常にありがたいことだと思います。調整をするだけの会議ではなくて、皆さんの意見を出した上で協力できる部分を少しずつ増やしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。(敷田座長)
議事
1. 検討会の目的・進め方について
<ul style="list-style-type: none">・ …… 検討会の目的および進め方について説明 (環境省) (再確認) ※(資料 パワーポイント)・ 昨年度の経過からいきますと海鳥だけというよりも、海鳥も利用する海域の利用全体の調整をせざるを得ないという内容となっている。この会議で出てきた提案や合意がエコツーリズム戦略にも反映されていくという位置付けになっているので、この会議で出てきた事がエコツーリズム戦略の中にも活かされていくというスタイルになります。(敷田座長)・ エコツーリズム戦略は格子が出来た段階。今後肉付けの所を皆さんの御意見を頂いて盛り込んで行きたいと考えています。「この地区をこうしたいんだけど、こういう利用方法は出来ないのか？」というような提案を頂いて、それらをエコツーリズム戦略の中で決めていきたいと思っています。(環境省)
2. 検討会の今年度計画
<ul style="list-style-type: none">・ …… 今年度計画について概要説明 (環境省) ※(資料 パワーポイント) <p>●テーマ ・ ケイマフリなどの海鳥に興味を持つ ・ 知床の海域のおもしろさを伝える</p> <p><利用者に対して></p> <ul style="list-style-type: none">・ 利用施設での展示・ 船内アナウンスなどでの紹介・ 取り組み紹介(調査結果などを含む)・ チラシの配布・ エコツー商品としてのブランド化 <p><実施主体として></p> <ul style="list-style-type: none">・ 利用者へのアンケート実施・ みんなで簡易な調査を行う(地図にマーク、写真による記録など)・ 詳しいモニタリング調査 <p><環境への配慮></p> <ul style="list-style-type: none">・ デコイの設置・ より好ましい利用形態の検討(例えば、ゾーニングや新たなルート開発など)

発言内容

2-1海鳥調査計画

- ・・・・海鳥調査計画について説明（環境省） ※(資料 パワーポイント)

- 海鳥の海上センサス調査（5月上旬～10月上旬）

- 海鳥の生息状況調査

- ・(1)ケイマフリ生息状況調査(5月～8月)
- ・(2)ケイマフリの営巣分布調査(6月～8月)
- ・(3)海鳥の繁殖分布状況調査(6月～8月)

- ケイマフリの採食・食性調査

- ・5月上旬～10月上旬

◆”エコツアー商品”という言葉についての疑問

- ・資料の今年度実施計画の<利用者に対して>のところで”エコツアー商品としてのブランド化”という記述があるが、これは、海鳥などの野生動物を商品化とするという意味であれば、まずいのではないかと（中川委員）
- ・我々としても、ケイマフリという貴重な鳥がいる事を徐々に説明もするようになってきている。ケイマフリについて会議でも議論しているが、”商品化”という話までは今は考えていない。その前にどうやって守るか？影響を与えないでやるか？という事をしっかりと煮詰めてから、”商品”という話をした方がいいと思う。（敷田座長）
- ・皆さん言葉は違えども同じ思いであることと思う。今の段階では”エコツアーのブランド化”というよりも、しっかりとケイマフリについて説明するという事だと思われる。「ケイマフリの価値の説明」のような項目を追加した方が良さだろう。（敷田座長）
- ・いくつか御意見出て来たが、”エコツアー商品としてのブランド化”という項目は削除して、<利用者に対して>という項目の中で”重要性の説明”や”価値の説明”という内容の言葉を盛り込んで頂きたいと思う。それから<環境への配慮>という所に”保全に対する協力体制の構築”という項目を入れて頂きたい。（敷田座長）

◆海鳥調査結果の観光船事業者へのデータ提供について

- ・今年度の海鳥のモニタリング調査結果について、例えば月一回程度でも観光船事業者へデータ提供して、観光船事業者は観光客に対して説明できるような、そういう事は出来ないかと考えている。観光船側のそのような情報のニーズはあるか？（環境省）
- ・前回の会議でもこの話はさせて頂いたが、海鳥の調査は報告書を作って終わりではなくて、随時「こういう鳥が見えました」という情報の提供をしていきたいと考えている。その方法について皆さんの御意見をお聞かせ願いたいと思っているところである。既に5月上旬から調査を実施しているが、鳥に関する情報を皆さんで見れるブログか何かの情報版の様なもので見る事が出来れば有効かと思っています。（福田委員）
- ・一つリクエストなんですが、調査結果というのは内容として非常にドライなので、我々ガイドとしてはお客さんに対して話す事になるので、今言われたようなヒメウの羽根の色などについても教えて頂けると、ガイドは「この時期しか見れない限定ですよ！」というふうにお話出来る。（シーカヤック事業者）
- ・環境省のほうで、そういうやりとりをする場を一度作って頂けないか？（敷田座長）
- ・そういう場を設けることは是非やりたい。（環境省）
- ・海鳥の調査については、情報提供にもウェイトを置いてもらうという事で、調査結果の速報性を上げて2週間～1か月程度で事業者さんに向けて情報提供させて頂くという事としたい。事業者においては、その情報によってお客さんにどんな情報提供が出来たのか？ということをや会議の場で話して頂き、来年に繋げることにしたい。（敷田座長）

発言内容
2-2.デコイの設置について
<ul style="list-style-type: none"> ・ …… デコイの設置について説明（環境省） ※(資料 パワーポイント) ●平成23年5月18日 水上デコイを初設置 ●今後のデコイ設置計画 <ul style="list-style-type: none"> ・ コケシ岩での設置を利用施設での展示 ・ 船内アナウンスなどでの紹介
◆保全用デコイと説明用デコイ、二つの使い方
<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁協さんとも御相談になると思うが、今設置している保全目的のデコイの他に、取り組みを紹介するための説明用デコイをも設置してはどうか？と考えている。もう一つは陸上型のストックが10個ほどあ、これは直ちに設置するものではないので、各観光船のチケット売り場や船の中などで展示・PR用に活用して頂きたい。(環境省) ・ 環境省がOKをしてくれれば、10個のうち予備分を除く9個を貸し出す。大型船には水上設置型の大きなものを2基貸し出すという事で合計11個。その使い方については事業者さんに任せるとしたい。(敷田座長) ・ デコイはケイマフリの居ない時期(非繁殖期)に説明するのに有効かと思う。繁殖期以外の時期にも「ここにこういう鳥がいる」という説明が出来るようになる。(小型船協議会) ・ 非繁殖期にデコイを海に設置して紹介するのは良いと思う。鳥の生態に影響を与える心配が無い。(福田委員) ・ 例えば本物のデコイではなくても、安価に何かディスプレイ出来る物が作ることが出来れば、このデコイを関係者だけじゃなくて、ホテルや道の駅など、色々な所に置いて貰うことで、新しい知床のマスコットになるのではないかな？(シーカヤック事業者) ・ 第一段階としては環境省のデコイでPRを始め、足りないようであれば皆さんで少し負担して頂いて数を増やし、更にうまくいけば、小さいものなどを作って増やしていくなど出来ると思う。是非御協力をお願いします。(敷田座長)
◆デコイを使ったPR方法、海域のシンボルとして
<ul style="list-style-type: none"> ・ インターネットとかでなくとも、目に見える発信の仕方がかあるはず。耳の不自由な方が旅行に来られた時などは、絵と言葉を書いて説明することなども出来る。デコイのような物をたくさん置いておくと、「あ、ここにもある！」、「あ、ここにもある！なんだこの町は？」というふうに興味を持ってもらえると思う。(小型船協議会) ・ 海のシンボルにすると良いのでは？陸上ではヒグマやシマフクロウ、ワシなどがあるが、海のシンボルというのが無い。保護と一緒に価値を広く伝えるためにも、観光協会のシンボルマークに使うなど、とても有効と思われる。(中川委員)
2-3.利用者動向調査について
<ul style="list-style-type: none"> ・ …… 利用者動向調査について説明（環境省） ※(資料 パワーポイント および資料3) ●観光船利用者を対象に調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 配布時期 前期(海鳥繁殖期) :6月～7月 後期(海鳥非繁殖期) :8月～9月 ・ 観光船窓口配布と直接配布 (昨年同様) ・ 期、大型船・小型船、航路、団体・個人の集計単位別に目標回答数100とし配布 ・ 他の陸上アンケート調査と設問内容の調整
<ul style="list-style-type: none"> ・ どの事業者も協力する方向にあると考えている。ポストカードが一枚でもあると回答率も上がると思われるのだが、各事業者負担になるのか？環境省で用意してもらえるのか？確認させて頂きたい。(小型船協議会) ・ ポストカードは用意出来ると思う。(環境省) ・ 今年も引き続き御協力をお願い致します。調査結果については昨年のように秋には御報告して頂けるか？(敷田座長)

発言内容

2-4. 海域状況(海鳥)観察の試験実施について

- ・ こういう取り組みに賛同して頂ける事業者さんがいらっしゃいましたら是非お願いしたい。(環境省)

3. その他

3-1. 検討会の名称について

- ・ 「適正利用・エコツーリズム検討会議」の中で陸域と海域を合わせて検討していくという事になった。先行してカムイワッカと羅臼湖の協議会があるが、エコツーリズム検討会議の中で、それぞれ”カムイワッカ部会”、”羅臼湖部会”というふうに名前が変わっていく予定となっている。海域の方も同じレベルの名前にしたいという事で、通称名としては”ウトロ海域部会”ということにしたいと思う。(敷田座長)
- ・ 今まで海鳥の検討会という事で海域の中でも絞られたテーマでやってきたが、今後、検討会のメンバーは変わるのか?(中川委員)
- ・ 基本的には同じです。実質的にはこの会議と変わらずに名称だけが変わるという事である。(環境省)
- ・ 扱う対象が他の課題が出てくれば、ここで扱うという事になるのか?(中川委員)
- ・ この会議は一番最初の立ち上げの時点の意見交換の中で、海域における課題に対しては幅広く扱って行くという事で議論させて頂いておりましたので、そこが変わるものではないということです。(環境省)
- ・ 合意が得られましたので名称を「ウトロ海域部会」とすることしたいと思います。(敷田座長)
- ・ 特に意見が無ければこれで終わりにしたいと思います。皆さん長い時間ありがとうございました。(敷田座長)

閉会

- ・ 本日はお忙しい所お集まり頂きまして誠にありがとうございました。(環境省)

5-3. 第2回 ウトロ海域部会

5-3-1. 開催概要

会議名	第2回 ウトロ海域部会
日時	平成23年10月5日 PM17:30~19:30
場所	斜里町ウトロ 知床世界遺産センター レクチャールーム
参加者	環境省、専門委員、地域関係者ら24名
議事	<ol style="list-style-type: none">1. 本年度事業実施報告<ol style="list-style-type: none">i ウトロ海域海鳥調査報告ii 利用動向調査（アンケート調査）中間報告iii 観光船事業者によるウトロ海域観察記録報告IV 観光船事業者によるケイマフリデコイを使用した海鳥のPR報告2. 今後の課題<ol style="list-style-type: none">i 改善点などの検討、意見交換3. 次年度事業計画について<ol style="list-style-type: none">i 次年度事業計画ii ホームページ作成について4. その他<ol style="list-style-type: none">i 意見交換



写真 5-4 会議風景

5-3-2. 出席者

区分	所属	職名	氏名
委員	北大名誉教授、山皆鳥研客員研究員	名誉教授	小城 春雄
	北海道大学大学院水産科学研究院	教授	桜井 泰憲
	北海道大学観光学高等研究センター	教授(座長)	敷田 麻実
	(財)日本交通公社 観光調査部	部長	寺崎 竜雄
	斜里知床博物館	元館長	中川 元
	知床海鳥研究会	会長	福田 佳弘
関係行政機関等	斜里町 環境保全課	係長	岡田 秀明
		主事	東 優里
関係機関・団体	ウトロ漁業協同組合	課長	山本 栄蔵
	知床斜里町観光協会	専務理事	青木 憲一
	知床小型観光船協議会	事務局	神尾 昇勝
事業者・一般	道東観光開発株 (知床観光船おーろら)	主任	上原 伸也
		営業係	笠原 悠也
	ホワイトリール旭川(ドルフィン号)	船長	菅原 隼
	知床クルーズ観光船(FOX号)	常務取締役	渡部 譲二
		船舶管理部長	渡邊 誠
	知床アウトドアガイドセンター	代表	関口 均
		関口 菜央	
事務局	環境省 釧路自然環境事務所	次長	中山 隆治
		野生生物課課長補佐	小野 宏治
	環境省 ウトロ自然保護官事務所	上席自然保護官	野川 裕史
		自然保護官	山岸 隆彦
その他	ユニオンデータシステム(株)		小嶋 章夫
			栗林 貴光

5-3-3. 会議資料

※会議資料および議事録全文は、資料編 DVD または知床データセンターWeb サイトを参照のこと

5-3-4. 議事概要

発言内容
1.検討会の目的進め方について
事務局より検討会の目的および経緯について説明(確認のために) (※パワーポイント資料)
2.本年度事業実施報告
2-1.ウトロ海域海鳥調査報告(中間報告)
福田氏より調査結果概要報告 (※資料 2011年度海鳥調査 中間報告)
◆今年度調査でケイマフリの確認数が伸びた事についての意見交換
<ul style="list-style-type: none"> これまで皆さんがケイマフリについて関心を寄せてくれたのが、もしかすると効果があった可能性がある。ケイマフリを知っていて接するのと知らないで接するのでは大きく違ったのではないか？(小城委員) コケシ岩付近では2000年代以前はたくさん繁殖しており、それ以降も繁殖はしていたが繁殖を途中でやめてしまう事が多かった。今年は湾の入口の所に1羽か2羽がよく見られていたが、あのような状態が見られたのは近年無かった事で、観光船の配慮して頂いた効果である可能性がある。(福田委員) 湾の入り口に常に鳥が居たというお話が皆さんで通じる場所は大きな進歩だと思います。(敷田座長)
◆餌資源としてのイカナゴについて
<p>それほど配慮した効果がすぐに出るとは思えないが、エサであるイカナゴの資源量と、その影響などについて深く知りたい。(小型船協議会)</p> <p>今年の状況の感覚としてイカナゴが特別多かったとは感じていない。今年イカナゴの量が多くてケイマフリの確認数が増加したという可能性については疑問。色んな要因があると思いますが、私はイカナゴがキーであると考えている。(福田委員)</p>
◆ケイマフリへの配慮について
<ul style="list-style-type: none"> シーカヤックでは”どこまで近づいて良いのか？”自問自答しながら漕いでいるのが現状。ガイドラインの様な物もあると、その範囲で安心してガイドできるのだが。(シーカヤック事業者) どこまで近づいて良いのか？判断が難しいところがある、鳥が嫌だと思った距離が駄目な距離であって、その時の鳥の状態によって変わるので、一概に何メートルという話にはならない。馴れというもある。(福田委員) 小笠原ではガイドの人たちが自主的に作ったガイドラインを運用してうまくいっている。ウトロでも自主ルールのような形でガイドラインがあったほうが良いのであれば、それも方法である。(環境省) 小笠原とウトロでは、これまでの経緯も違い、今のウトロでは模索状態でやっているというのが実情。それらの経緯の違いも考慮した議論が必要では？(シーカヤック事業者)
◆ケイマフリデコイを使ったPRIについて
<ul style="list-style-type: none"> 観光客の反応はいかがでしたか？(敷田座長) 結構関心は持ってもらえたようです。海鳥研究会で製作している手ぬぐいもかなり好評でした。(小型船協議会) シーカヤックへの取り付けも試みたが上手くいかなかった。ケイマフリについてはやはり認知度が低いんだなと思いました。シーカヤックは近くで見る事が出来るのに「あ、かわいい」で終わってしまう。もう少し何か出来ればと思う。(シーカヤック事業者)
◆ケイマフリを理解してもらうための効果的な見せ方とは？そのために必要なものは？
<ul style="list-style-type: none"> 見せ方を工夫することで関心や興味を持ってもらう事が出来る。どういうふうに見せるか？によって心への残り方が全く違う。(寺崎委員) アカガシラカラスバトの例では、その鳥を研究している様子を見せるというのもガイドがやっています。(環境省) 福田さんのような研究者が団体ツアーに乗船してケイマフリを見せるというようなツアーを企画できると面白い。(敷田座長) ケイマフリの居ない時期にデコイの数を増やして観光客に見せるのは効果的だろう。(福田委員) ケイマフリの生き物としての面白さを伝える必要がある。「生き物としてのケイマフリを知る」→「実際に見ることが出来る」→「関連したグッズを買う」というステップを考えると良い。飛翔をスローで見せるとか、水中を泳ぐ姿を見せるなどの動画(ビデオ)、映像を上手く使うのも効果的である。(桜井委員) ビジュアルで見せられる物があると非常に良い。また宿泊施設などでも、デコイやレプリカ(ぬいぐるみ)のようなものがどこでも置いてあって、観光客のもっと目に触れる機会を増やすのも効果的ではないか？(シーカヤック事業者) コンテンツ開発に向けてもスムーズな意見交換が出来ますので、来年度に向けて是非進めて頂きたい。(敷田座長)

発言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁協から出荷される魚などにも、ロゴマークを付けて「ウトロ産」としてのブランドマークに使うのも効果的と思われる。(桜井委員) ・ 一部直販も行っているの、その部分では協力出来る事があると思う。(ウトロ漁協) ・ ウトロの海をPRする場合、色々なものに力を入れると大変なので、対象を絞ってPRするのが良いだろう。(桜井委員) ・ いわゆる”ゆるキャラ”というのは一つ方法としては考えられる。(観光協会) ・ 観光客も”知床に来た”といことで満足される観光客と、”深く知床について理解したい”という観光客の2極化が考えられ、その両方に対応出来る事が大事。深く理解したいというニーズには、それなりの用意が必要である。(環境省) ・ しっかりしたケイマフリの説明PR用コンテンツの作成と、ケイマフリのキャラクター化やスター性の可能性などの検討も今後進めていきましょう。コンテンツ開発に重点を置くという点で皆さんの意見は一致していると思われる。(敷田座長)
2-2.利用動向調査(アンケート調査)中間報告
◆利用者動向調査についての評価
<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート調査の回答率が高く評価出来る。年齢別などの集計により分析を深めると更に面白い結果が出るだろう。知床に来られる方々の中には、しっかり守られている自然を自分の観光で楽しみたいという人が居ることが解る。今後の知床観光が向かうべき方向性のヒントがこのアンケートに含まれている。(寺崎委員) ・ 小型船の団体ツアー客への配布数が少ないが、バスで直接乗り入れする事もあり、なかなかアンケートをお渡しするチャンスが無いという状況がある。今後検討していきたい。(小型船協議会) ・ 大型船のアンケート配布では船内放送による「アンケート協力をお願い」を実施し効果的だった。(ユニオンデータシステム栗林)
2-3.観光船事業者によるウトロ海域観察記録報告
事務局より実施状況を報告 (※資料 観察記録票)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 海域観察記録は非常に良いデータが取れている。業務の傍らでこれだけ記録するのは御苦労された事だろうと思います。業務の傍らで記録されたもので、不足な部分もあると思われるが、続けていくことでデータとして利用できるようになると思います。観光船のサービスや生態研究者のデータとして利用出来るので、是非継続して頂ければと思います。(中川委員)
3.今後の課題
4.次年度事業計画
4-1.ホームページ作成について
◆効果的なホームページを作成するには?どんなページを期待するか?
<ul style="list-style-type: none"> ・ あまり硬いイメージのものになって欲しくないと思う。観光客が”行きたい”、”見たい”と思う、動機づけになるような作りになって欲しいですね。(シーカヤック事業者) ・ 観光船ではあるが、船以外のお薦めのスポットについて問い合わせを受ける事も結構多い。知床五湖や知床峠、フレペの滝などの陸上の案内も期待したい。(観光船事業者) ・ インターネットの検索では、検索結果の上位に見つけられるようにして欲しい。お客さんが辿り着けないような所にあっても効果が薄い。(小型船協議会) ・ 観光客にとって行政の作るページは注意事項などが多く読み飛ばされる傾向が高い。来年度事業ではサイトの構築よりも、みなさんが使えるコンテンツを作って利用できるようにする形が良いのでは?(環境省) ・ 更新の頻度が閲覧数を増やすサイトのポイントである。一人で更新するのは大変なので複数の方々で更新できるようにすべきである。(中川委員) ・ 大型船、小型船、など各業態の違う方々が情報交換出来るようなブログなどの仕組みがあると良い。(福田委員) ・ ホームページはケイマフリに絞って作成する。基本的にはケイマフリのコンテンツを作成し、他の生き物についても必要なものを盛り込むようにする。事業者のニーズに沿ったものを。コンテンツとして動画の作成も検討する。(敷田座長)

発言内容
<p>◆ケイマフリ保護のためのガイドラインについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ガイドラインの話が出たが、行政としてガイドラインを作ろうとしている訳ではない。作ろうとすればかなりのエネルギーを必要とする。もしガイドラインのようなものがあつた方がやり安のであれば、事業者さん自らが”ガイドライン”、”自主ルール”のようなものを作られてはどうか？（環境省） もし自主的なガイドライン、ルールを作ろうとした場合、これは観光だけの問題ではないので、観光事業者だけでなく、漁業関係者も参加されているこの部会を使って進めて欲しい。対立構造になってしまう可能性もあるので、それは避けるべきである。（桜井委員） ガイドラインを作成されるとするならば、まずは注意点をまとめたものを作るぐらいのレベルから始めてはどうか？給餌の時間帯など色々なノウハウがありそうなので、専門家の意見を聞いて、まずはそのようなノウハウを蓄積していく事が重要と思われる。（環境省） シーカヤックはコース的に一番ケイマフリに近づいてしまう。どこまで近づいて良いか？自問自答しながらガイドをしている状況もある。ガイドラインのようなものがあれば安心してガイドが出来る。ただし、”ガイドライン”という言葉が独り歩きしてしまう怖さもある。（シーカヤック事業者） 野生動物との距離で”嫌な距離”というものがある。数字で表せない部分もあるが、専門家の意見を聞いたり、むしろ体験から解って来るものもある。（中川委員） 野生動物と付き合う時の知恵みたいなものをまとめていくと良いのではないか？（小城委員） シーズンが始まる目に皆さんで去年のデータを持ち寄って、話し合いが出来、共通の認識を持てるようにすると良いだろう。（福田委員） ガイドラインお話は参加されていない方の意見も聴く必要がありますし、もっと議論には時間が掛かる内容のものである。今の段階では関係者の方たちが情報を共有できる仕組みづくり、”配慮の共有”といった形の議論が望ましいであろう。長い時間をかけて、それがもしかするとガイドラインになるかもしれないが、当面部会としては”利用の仕方を宣言する”という報告で行こうと思います。（敷田座長）（一同異議なし）
<p>◆ケイマフリのモニタリング調査のあり方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ケイマフリの調査について、事業がなくなっても継続したモニタリング調査をお願いしたい。（小城委員） 科学委員会の中でもモニタリング項目をいくつか挙げていますが、モニタリング調査だけではなく、今回のように幅広い人たちと情報を共有して活かしていくというシステムづくりが必要であると考えます。（中川委員） エコツーリズム戦略が現在作られつつあります。その枠組みの中での海域部会となると、基本的には利用を考える場と成りますので、純粋な生態の調査というだけでは、ここでは扱えなくなると思われるので、この件については環境省サイドで御考慮頂きたいと思います。（敷田座長） 利用の前提としてモニタリングは必要であると考えています。（環境省） 海域ワーキングで指標となる種を決めています。5年に1回の見直しをかけています。今までのお話のようにケイマフリが非常に重要だということになれば、モニタリングの話は海域ワーキングでも議論できると思われる。（桜井委員）
<p>◆オオワシ・オジロワシも同様に扱えないか？</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な所で現在ケイマフリをテーマとしてPRしているという事になっていますが、オジロワシやオオワシについても付け加えるという事は出来ないか？お客さんはどうしても大きなものに目が行きやすく、ケイマフリを説明する際にオジロワシなどとセットにするのが有効ではないか？（シーカヤック事業者） オオワシ、オジロワシについては環境省も保護増殖事業などで調査もされているので、今後扱っていく可能性もありだろう。夏場でも観光船から見る事が可能で、猛禽類の中でも人気があるので観光客にも見て体験してもらいたいと思う。（中川委員） この部会は海域の利用に関して、調整や相談が必要な素材を扱うということなので、オジロワシなどについても情報交換が必要であるというのであれば、御提案は問題ないと思われる。（敷田委員） オジロワシについても、人間が近づきすぎたり、何度も飛び立たせてしまうと彼らにも大きなストレスを与えることになる。実際に海岸に営巣しているオジロワシについても、以前から巣の位置が海岸から陸側に移動している場所も確認しており、少なからず人間が影響を与えている可能性がある。（中川委員） ありがとうございます。時間もかなり過ぎておりました、長時間にわたって議論頂きありがとうございました。事務局にお返しします。（敷田委員）

5-4. 第2回 関係者会議

5-4-1. 開催概要

会議名	第2回 関係者会議
日時	平成24年2月22日 AM 9:00~11:00
場所	かでの27 530 会議室
参加者	環境省、専門委員ら10名
議事	<p>1. 平成23年度事業の総括および課題検討</p> <p>①自然観光資源の価値向上 ～海鳥生態調査結果およびデコイ設置状況</p> <p>②利用機会の拡大実施計画概要 利用動向アンケート調査、ケイマフリデコイの展示状況</p> <p>③各種海域利用者間の調整 ～課題整理および進め方の検討</p> <p>④広報普及啓発 ～パンフレット、動画コンテンツなどの課題整理と検討</p> <p>2. 平成24年度事業計画について</p> <p>①自然観光資源の価値向上 ～海鳥生態調査およびデコイ設置計画</p> <p>②利用機会の拡大実施計画概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用動向アンケート調査実施計画 ・デコイ設置エリアの侵入ルールなどの検討および試験運用に向けて ～可能性の検討 <p>③各種海域利用者間の調整 ～進め方の検討</p> <p>④広報普及啓発 ～次年度実施内容の検討</p> <p>3. その他</p>

5-4-2. 参加者

区分	所属	職名	氏名
委員	北大名誉教授、山皆鳥研客員研究員	名誉教授	小城 春雄
	北海道大学大学院水産科学研究院	教授	桜井 泰憲
	北海道大学観光学高等研究センター	教授(座長)	敷田 麻実
	(財)日本交通公社 観光調査部	部長	寺崎 竜雄 (欠席)
	斜里知床博物館	元館長	中川 元
	知床海鳥研究会	会長	福田 佳弘
事務局	環境省 ウトロ自然保護官事務所	上席自然保護官	野川 裕史
		自然保護官	山岸 隆彦
その他	ユニオンデータシステム(株)		栗林 貴光
			菊池 義和

5-4-3. 会議資料

※会議資料および議事録全文は、資料編 DVD または知床データセンターWeb サイトを参照のこと

5-4-4. 議事概要

発言内容	
開会・挨拶	
<ul style="list-style-type: none">本日はお忙しい中お集まり頂きまして誠にありがとうございます。本日の主な議題としましては今年度事業の振り返りということで、昨シーズンのウトロ海域部会の取り組みの最終報告、および前回10月の検討会以降に進めてきた作業内容についてご説明させて頂き、また次年度に向けた事業計画案も検討しておりますので、合わせて委員の皆様様の御意見など頂ければと考えております。どうぞよろしくお願い致します。	
議題	
… 本日の議題について説明（環境省） [資料1]	
<ol style="list-style-type: none">1. 自然観光資源の価値向上 ~海鳥生態調査結果およびデコイ設置状況2. 利用機会の拡大実施計画概要3. 各種海域利用者間の調整 ~課題整理および進め方の検討4. 広報普及啓発 ~パンフレット、動画コンテンツなどの課題整理と検討	
1 1. 自然観光資源の価値の向上	
<ol style="list-style-type: none">(1) デコイ設置 →5月に海上型デコイを1基設置(2) 海鳥の生態調査(NPO法人バードリサーチ)(3) 観光船「おーろら」による海域観察記録	
1-1.デコイ設置	
<ul style="list-style-type: none">今年度は誘引効果を目的とした設置も行ったが、観光船事業者へ貸し出しも行いケイマフリPRのためのツールとなっている部分もあるので、後程一緒に議論したい。(環境省)	
1-2.海鳥の生態調査	
◆今年度の海鳥生態調査結果の概要	
<ul style="list-style-type: none">前回の検討会でも説明させて頂いたが、ケイマフリの確認数は最大で142羽だった。一昨年、昨年は100羽弱だったが今年は多く観察された。理由ははっきりとは解らないが、今年はイカナゴが豊富だったようなので、そのようなところが要因かもしれない。ケイマフリの餌の分析ではイカナゴを獲っている割合が今年は高い傾向にあった。デコイ設置箇所の状況では、今年はどうもデコイを設置する前からトークンモイ(コケシ岩)では1つがいが繁殖していた様だ。6月上旬には既に餌運びをしていたので、デコイを設置した時点で既に卵を抱いていたと推測される。他の海鳥については全般的に数が少なかった。ハシボソミズナギドリ、フルマカモメ、ウミウの数も少なかったです。まだ2年目の調査なので傾向は掴めていないが、まとまった個体数で確認されるこれらの海鳥が今年は少ない状況だった。海鳥の繁殖分布調査については、ウミウの今年巣立った幼鳥の数が非常に少ない印象を受けている。もう少し何年か調査を続けないと傾向は解らないかと思います。 <p>(以上 福田委員)</p>	
1-3.観光船「おーろら」による海域観察記録	
<ul style="list-style-type: none">海鳥への関心を高めるという意味で大変効果的だ。しかしケイマフリは沿岸にいる鳥で、遠くから観察されたおーろら号のデータは生態調査のデータとして扱うには少し難しい。しかし毎日海に出られているので、ハシボソミズナギドリなど他の鳥や他の野生動物などを含めて記録されると面白いと思う。是非続けて頂きたい。(福田委員)	
◆今後の調査実施方針とその方法について	
<ul style="list-style-type: none">「おーろら号」からの観察が毎日実施されるようになれば、調査の一部分を担ってもらえる事も可能なのではと思うが、その可能性はあるか?(環境省)	

発言内容

- ・ 調査となると運航中の片手間にやれるものではないので難しい。海域の調査というのは知床半島全体の海洋生態系の変化などを理解するためにも非常に有用であり、高次捕食者である海鳥の生息状況を長年に亘って観察する事の意味は、海鳥を通して目に見えない海の中の変化などを知ることにも繋がる。(福田委員)
- ・ 海鳥は識別が非常に難しく、ミズナギドリでもハイロミズナギドリがいたりアカアシミズナギドリがいたり、専門家の調査技術が要求される。(福田委員)
- ・ ケイマフリの繁殖生態調査は非常に難しいどこかアクセスの良い所で繁殖生態が調査できる所があればと思うが、しっかりとその繁殖生態を調査する事は出来ないか？これがまず非常に大事な所だと思う。(小城委員)
- ・ 今この事業ではケイマフリを保全しながら、どう海域を利用していか？というテーマとして扱っている。この目的にはまる事調査内容は扱って行けると思うが、生態研究調査とすると、どちらかという学術的な研究に近いものとなる。(環境省)
- ・ 環境省の予算が来年度で無くなる可能性が高いということであれば、今後調査を維持するために来年度何が出来るか？ということ発想を転換してはどうか？事業の内容を少し変えて一年やってもいいと思う。(敷田委員)
- ・ ケイマフリはそもそも利用による影響で個体数が減ってしまった。それを回復させようというのがテーマであって、やはり生態をしっかりと調べていくことで減った原因なども明らかになって来る。来年度の調査では何が必要なのか？ということ踏まえて計画される必要がある。(中川委員)
- ・ 来年の事業とは別に今後どのように長期的に調査を行っていくか？お金があった時のプラン。お金が無かった時にも実施出来るプラン。2段階に分けて考えてみてはいかがか？(敷田委員)
- ・ この事例で良いのは調査をすることでケイマフリが資源化されているという所である。調査結果によって今まで資源にならなかったケイマフリを資源化する事が出来る。ケイマフリは「コンテンツを作りだせる魅力がある、観光船事業者達が支持をしている」という事はとても説得力がある。おそらく科学委員会の場でこの事業の話をすると思えば高いと思うので、ケイマフリについては逆算方式で行けば良いと思います。(敷田委員)
- ・ 以前天売島からこちらに移ってきた時に随分低い位置に巣があるという印象を持ちました。しかし数年経つとプユニ岬とか手が届かないような所にしか営巣しなくなった。今年また低い所に何箇所か営巣箇所が復活してきた所もあるので、今後それを続けていけば必ず復活すると思う。(福田委員)
- ・ 「皆さんが協力によりこんなに効果があった」ということをフィードバック出来る仕組みがあると良い。(環境省)
- ・ 効果をフィードバックするためにも、やはり生態研究をやっているから効果を評価出来る。しっかりと調査をしていく事が今後観光船にとっても海鳥にとってもプラスになっていこう。(中川委員)
- ・ 事業は次年度が最終年となるので、向こう10年間ぐらいの調査の実施方法について、もう一度協議させて頂きたい。(環境省)
- ・ これまでのデータと実績を以てすれば国関係の予算じゃなくても、民間関係の予算にアプローチして予算を獲得できるかもしれない。「鳥と人とのWin-Winの関係」を作るというテーマで実績がある。そういう形で前に進む方法があると思う。(桜井委員)
- ・ 調査計画を立てる時、その結果をどう活かせるか？という事も考えて欲しい。アウトプットの形を少し検討して貰いたい。(敷田委員)
- ・ ”資源化を進める”そのためには”資源管理”をする必要がある。資源管理をしないと持続可能な利用が出来ないので、資源管理のレベルを上げる。資源管理のレベルを上げるためには色々なデータが必要となる。・・・というふうに発想をひっくり返して考えて欲しい。「解らないから調べる」と言った途端に必ず人は引いてしまう。今言ったような論述をしていって欲しいと思う。そうすればケイマフリは知床の世界遺産の中で優等生になれるだろう。(敷田委員)

2. 自然観光資源の価値の向上

2-1. 利用動向アンケート調査

- Q10の利用者の関心度についての問では圧倒的に風景と野生動物に回答が集まっており、風景では断崖と滝が最も人気があり、次に知床連山が続く。野生動物では予想どおり圧倒的にクマを楽しみにして来ている事が解る。
 - Q15は全体的な満足度を知る設問。色々コメント見ると不満なども記述されているのですが、それでも概ねの方は満足されてる。
 - Q11-2で野生動物への関心の設問では、シーカヤックで海鳥への関心を持たれた方が非常に高い割合を示している。近くで見れる事と、ケイマフリについて、よく説明して頂いていたという事ですので、それが表れたものと思われる。
 - 配布期間の前期と後期での回答の比較ではあ傾向的なものは見えて来なかった。
 - シーカヤックで海鳥の印象が高かったように、説明することが関心度の向上に大きく影響している事がうかがえる。次のシーズンは小型船、大型船でもたくさん説明して頂いて、アンケートをやると海鳥の割合が増える事に期待したい。
- (以上 事務局)
- アンケートでは、ケイマフリの取り組みが反映される設問はありますか？3年間やる目的・意図がある訳ですよ？(桜井委員)
 - 最も期待したいところは、印象に残った野生動物の中で海鳥の関心度が上がった事を確認したいと思います。実際にシーカヤックでは今年その傾向が見られました。次回は小型観光船や大型観光船でも海鳥が良かった、という回答が増える事を期待したいですね。色々な取り組みの効果が反映される場所だと思われる。(事務局)

2-2. より好ましい利用形態の検討

・デコイ設置状況および来年度設置計画について

- 今年はもう1基増やして2基設置したい。追加する一つはもう少し陸から離れた所を考えている。出来れば「ここから先は入らないでください。」という話も出来ればと思っている。もう一つはケイマフリはこういう生き物ですよ、という事を説明するためのデコイで、これはどこに設置するのが良いのか？船長レベルの方々の意見や漁業者の方の意見も聞いて決めていきたい。それで繁殖数を増やしたいトクシモイ(コケシ岩)の所は、その取り組みを行っているシンボリックな場所に来ればしたいと思っている。(福田委員)
- 例えば自主ルールを作るにしても福田さんや環境省の方から「7月1日から8月31日までは毎年駄目ですよ」というような言い方をせずに、今年は速く巢立ちそうだったら早めるとか柔軟に対応出来るようにして欲しいと思います。気を付けて欲しいのは毎年毎年決まり切ったルールでやろうとすると駄目なんですよ。むしろ柔軟に対応するから、相手も理解してくれると思う。(桜井委員)
- それと逆に「ここはどんどん見せて欲しい」とか「状況が良くなったらもっと見せられる」という話をと共に相談したいですね。レジメの原案などを持って小型観光船の事務局に相談してみましようか？(環境省)
- 部会はこちらのスケジュールでやっていますけれども、うまくやれば観光シーズンの前と後で開催して、「今年はこうしよう！」というのと「今年はどうだった」という話をする場として、維持していけるような開催の仕方をしてみてはいかがですか？(敷田委員)

3. 各種海域利用者間の調整

- ウトロ海域では業種間の問題というのもあるけど、前からテーマとしては上がっているが全く進んでおりません。今はケイマフリの取り組みが中心となっていることもあるので、こちらにまず集中的に力を注いで、もう少し取り組みを通じて業種間の関係が小馴れてきたところで、着手したいというのが意見ですが、いかがでしょうか？(環境省)
- 遊漁船と海鳥という関係では特に影響を与えてはいない。これから心配する所では遊漁船を借りてケイマフリなどの写真を撮りたいという人が出て来ると事が予想される。そういった物への予防対策として、観光船の方々から「あんなことやってる人がいる」というような見張りのような機能も期待される。(福田委員)
- カメラマン対策というのは、しっかりと対策を立てた方が良い。エトピリカではそういう問題も出ているようなので、今のうちから対策を立てておかないと行けないと思う。(福田委員)

4. 広報普及啓発

4-1.パンフレットの活用

4-2.インターネットによる情報提供

- ・ …… 福田氏のケイマフリ動画レビュー
- ・ ケイマフリに絞った物がいいだろうということで作った。知床の事に関する内容は他の所で見て頂くこととして、あくまでもケイマフリに絞ったもので良いと思われる。今後はケイマフリってどんな鳥？というものとか、保護するためにどういう事をしているか？というのを作ってゆけばと思う。3分程度を目処に数パターン作るのがいいと思っている。(福田委員)
- ・ 長さは30秒から3分でしよう。生態なら生態、遊泳なら遊泳というふうに構成して作ると良い。どう構成するかという事はコンテンツ作成のプロにお願いした方がいいと思う。ケイマフリ以外の生物に広げていくための見本になっていくと思う。(敷田委員)
- ・ 例えば、この映像の前の部分は各観光船の宣伝を入れてもらっていい。そうやって素材として使ってもらえれば、彼らがこれは自分達の資源だという認識に繋がるはず。(桜井委員)
- ・ やはり映像は知床のケイマフリが欲しい。「あれは知床の映像じゃないんだ」という人が一人でもいると非常にまずい。下の部分に天売島の映像である事を入れないと駄目。(中川委員)

4-3.Webページ作成

- ・ …… 国内各地のHPの状況。世界遺産地域、希少動物生息地のサイトの例 [資料3]
- ・ 西表島の例を紹介 ~ イリオモテヤマネコのページ、仲間川地区保全利用協定の例
- ・ 現在の知床関連のサイトの状況は？
- ・ ケイマフリの取り組みについて、どういうサイトがあると良いか？
- ・ 先日来動画コンテンツの利用方法を考えた時に、やはり動画だけがあるというより、やはりケイマフリの説明や取り組みを紹介したサイトを作り、その中で動画を紹介した方が良いのではないかと考えられましたので検討してみたところである。(環境省)
- ・ ウトロ海域部会の活動のHPとするのはどうか？そして次の科学委員会でこれを見せればいい。何とか6月までに出来ないか？先頭ページだけでもいいと思うので。(敷田委員)
- ・ はい。可能です。観光シーズンが始まる前にあった方が少しでも効果が期待できるでしょう。(事務局)
- ・ 私も何パターンかさらに作ってみる。動画じゃなくて静止画で作ってみたい。(福田委員)

4-4.ミニ出前講座の開催

- ・ 先日ホテルの皆さんを対象に出前講座を開催した。参加者は少なかったが今後もやっていきたい。また実際に海に出て実物を見に行く出前講座を是非やりたいと考えている。(福田委員)
- ・ 地元の小学校などで使える教材なども作れたらと思っている。そのほかホテルなどで展示できるポスターなどの製作も進めたいと考えている。(福田委員)
- ・ 別事業で自然観察の事業があり、昨年は2回ぐらいウトロでも開催されていた。そのような場でもお話し頂ければと思う。(環境省)

閉会

- ・ 次年度に向けて皆さんに御意見を頂く事が出来ました。少しでも多くの事を取り入れて来年度取り組みを進めて参りたいと思います。本日は誠にありがとうございました。(環境省)

6. 広報用ホームページの作成について

今年度事業ではウトロ海域の見どころ（景観、野生動物、海鳥）、観察方法、アクティビティの紹介、利用にあたっての注意や準備すべきもの、ウトロ海域での調査・検討などの取り組み、等について紹介できるホームページの作成を行った。

6-1. 製作までの経緯

ホームページ（以下 Web サイト）作成にあたり、第2回ウトロ海域部会の中で作成する Web サイトのコンテンツ内容についての協議が行われ、結論として Web サイトの作成の前にケイマフリを紹介する動画コンテンツを作成し、観光船事業者の Web サイト内で広く利用してもらうことを目標とすることで合意された。方針の決定後、現在、知床海鳥研究会などで保有する動画素材などで動画コンテンツを製作することが可能であるか？また監修および製作方法について協議され、当部会の専門委員でもある知床海鳥検討会（福田 佳弘氏）の協力によりサンプル版が製作される事となった。

その後ケイマフリ動画のサンプル版が作成されたが、動画コンテンツだけを提供した場合のコンテンツの利用方法の一定のルール作りが必要であることや、ケイマフリの生態や知床半島での生息状況、観光船からの観察のコツなど関連する情報の提供も合わせて行うべきとの意見もあり、第一段階としてケイマフリについて特化した情報提供 Web サイトを構築し、その中で動画コンテンツを紹介するという方針で進める事とした。（第2回関係者会議合意事項）

これらの経緯を踏まえ Web サイトはケイマフリに関する基本的な情報とウトロ地区で行われている取り組みの紹介などを今年度中に整備し、その後は徐々にウトロ海域に関するコンテンツを充実させていく方針となった。

6-2. Web サイトの作成

前述の経緯の元、ケイマフリおよびケイマフリ保護の取り組みを紹介する Web ページの作成を行った。作成はテスト版を仮サイトに登録し専門委員および地域関係者らへのレビューを行い、指摘事項の修正作業を行った。

次ページ以降に Web サイトのコンテンツ一覧（表 6-1）および Web サイトイメージを示す。

表 6-1 Web サイト コンテンツ一覧

レベル	タイトル	概要	備考
メイン	ケイマフリ保護プロジェクト	サイトトップページ	
レベル1	ケイマフリはどんな鳥？	ケイマフリの生態や知床半島での繁殖状況について解説。	
	ケイマフリを見る方法	知床半島ウトロでケイマフリを見る方法と観光船に乗る時のコツなどを紹介。	
	ケイマフリ保護の取り組み	ケイマフリの生態調査、デコイの設置、観光船によるPRなどを紹介。	
	ウトロの海を見守る目	取り組みに協力頂いている地域関係者の参加状況を紹介。	
	メッセージ	委員、関係者などからのメッセージ紹介。	
レベル2	パンフレット	パンフレット閲覧ページ	PDF 提供
	ウトロ海域部会	ウトロ海域部会の説明。取り組み実施の紹介。	
	ケイマフリリンク	ケイマフリ保護に関係する行政、団体、事業者のサイトへのリンク集	
	ケイマフリブログ	ケイマフリを中心としたウトロ海域の旬な情報提供。	
外部ソース	ケイマフリ動画	ケイマフリ動画（知床海鳥研究会制作）	Youtube 動画

「知ってる？」 ケイマフリ

知床世界自然遺産地域 ケイマフリ保護プロジェクト

世界自然遺産地域しれとこ 『ウトロの海のSuperBird』

ケイマフリという海鳥を知っていますか？

2005年に世界自然遺産地域に認定された知床半島。「しれとこ」と聞いて思い浮かぶ野生動物は何でしょう？ヒタマ？ エゾシカ？ シマフクロウ？…

しかし懐の深い知床の自然は、他にも様々な野生動物を育んでいます。ここでは知床半島のウトロ周辺の一部で繁殖しているケイマフリという海鳥をご紹介します！



CONTENTS	
トップページ	
ケイマフリはどんな鳥？	
ケイマフリを見る方法	
保護の取り組み	
ウトロの海を守る「目」	
メッセージ	

知って欲しい！知床ウトロのケイマフリ

これを知っていれば大丈夫！知床にお越しの際はぜひ御自身の目と耳でケイマフリをお確かめください。そしてこの海鳥がここ知床ウトロに棲んでいる事の意味や、知床半島の生態系の中で野生動物と人間が共存することの大切さを考えてみましょう。

でもその前に「3分でわかるケイマフリ」動画をどうぞ。



映像資料：北海道海鳥センター提供
 録注・監修：知床海鳥研究会(樽田佳弘)

- ケイマフリ 1分でわかるケイマフリ
SAMPLE
- ケイマフリ パンフレット
SAMPLE
- ケイマフリ 知床の海鳥ブログ
SAMPLE
- ケイマフリ ウトロ海域部会
SAMPLE
- ケイマフリ ケイマフリ リンク
SAMPLE

- お知らせ**
 - ケイマフリ保護プロジェクト 2012シーズン について
 今年もケイマフリデコイの設置およびモニタリング調査を実施します。
 - 斜里町ウトロでの取り組み - 2011シーズンを振り返る
 活動報告を更新しました。

- 新着情報**
 - 2012年3月13日**
 御意見が多数届いています！段階的に修正して参りますが、目につくエラーやご意見の一部を参考に本日更新しました。今後は修正履歴に更新内容をupしていきます。引き続きご意見ご要望をお待ちしております。 [修正履歴](#)
 - 2012年3月12日**
 テストサイトをオープンしました。ご意見ご要望お待ちしております。

深堀省ウトロ自然保護官事務所

〒099-4354
 北海道斜里郡斜里町ウトロ西186-10
 知床世界遺産センター内

TEL 0152-24-2297
 FAX 0152-24-3646

深堀省釧路自然環境事務所

〒085-8639
 北海道釧路市幸町10-3
 釧路地方合同庁舎4階

TEL 0154-32-7500
 FAX 0154-32-7575

[★このページの先頭へ](#)



「知ってる？」 ケイマフリ

知床世界自然遺産地域 ケイマフリ保護プロジェクト

- トップページ
- ケイマフリはどんな鳥?
- ケイマフリを見る方法
- 保護の取り組み
- ウトロの海を見守る「目」
- メッセージ

ケイマフリはどんな鳥?

希少な海鳥ケイマフリについて解説しましょう!

ケイマフリの生態



※※※※ 内容確認および調整中 ※※※※

学名: ケイマフリ (チドリ目フミズメ科)
英名: Spectacled Guillemot
学名: *cepphus carbo*
大きさ: 全長=39-41cm 翼開長=67-71cm

アイヌ語で「ケマフレ=赤い足」を意味する海鳥です。国内では天売島・知床半島斜里町側・青森県の一部などで繁殖。世界的に数が減少しています。知床半島ではウトロ周辺にのみ繁殖が確認されており、切り立った断崖の穴の中に巣を作り子育てを行っています。繁殖期は毎年5月から8月。「フィット・フィット・フィー・フィー」と、とても美しい声で鳴き「海のカナリア」と呼ばれています。

主な餌と採餌行動

ケイマフリは主にイカナゴなどの魚を食べて暮らしています。時には小型のカレイなどの底性の魚類も捕らえます。ケイマフリは餌を探すために海中に潜水します。海中ではまさに飛ぶように翼を動かして泳ぎます。潜水能力はとて高く潜水深度は時に70mを超えるとも言われています。例えばペンギンは海を泳ぐ事は出来ますが空を飛ぶことが出来ません。しかしケイマフリは空を飛ぶ事も出来るし、海を泳ぐ事も出来る鳥なのです。

繁殖行動

ケイマフリは切り立った海岸の断崖の穴や隙間に巣を造ります。知床半島ウトロ周辺の断崖は羅臼岳の噴火に由来する第四紀溶岩※と流水や激しい波により浸食された断崖地形が見られ、ケイマフリの繁殖に適した環境となっています。ケイマフリの繁殖期は流水が海から消える「海明け」の3月から始まり、産卵数は通常2個。雄と雌が交代して抱卵し約30日でヒナが生まれます。親鳥は交代でヒナにイカナゴなどの餌を運び子育てを行います。ヒナの巣立ち8月のお盆前後。非常に警戒した中での巣立ちが行なわれるため人目に触れる事は稀です。巣立ったケイマフリはウトロを離れ沖合に飛び去ります。「巣立ったケイマフリはどこに行くのか?」・・・ケイマフリの繁殖期以外の生息場所については実はまだ良く解っていません。とても謎多き海鳥なのです。しかし翌年の春、再び彼らはウトロの繁殖地へ戻って来ます。

※第四紀溶岩・・・約8万年前、羅臼岳の噴火の際に流れ出た溶岩による地層。プエ工所からカムイワッカの滝まではこの地層が海に表れ、波による浸食を受けた海岸地形が形成されている。

指定状況

環境省RDB絶滅危惧種Ⅱ類、北海道RDB絶滅危惧種、水産庁RDB絶滅危惧種

- 1分でわかるケイマフリ
- パンフレット
- 知床の海鳥ブログ
- ウトロ海域部会
- ケイマフリ リンク

道庁省ウトロ自然保護事務所
〒099-4354
北海道斜里郡斜里町ウトロ西186-10
知床世界遺産センター内
TEL 0152-24-2297
FAX 0152-24-3646

道庁省釧路自然保護事務所
〒085-8639
北海道釧路市幸町10-3
釧路地方合同庁舎4階
TEL 0154-32-7500
FAX 0154-32-7575



ケイマフリの分布



カムチャッカ半島の東部沿岸、オホーツク海沿岸と日本海北部、北海道～北日本で繁殖する。近年では国内繁殖地が減少し、北海道天赤島、知床半島（斜里側）、ユルリ・モユルリ島、青森県の一部などで少数が繁殖しているのみです。繁殖数は全道で約100つがいとも言われており生息数の減少が進んでいます。

知床半島の生息状況



知床半島ではウトロ周辺のごく限られた地域にのみ繁殖が確認されており、繁殖期の5月から8月の期間に切り立った断崖の穴の中に巣を作り子育てを行います。繁殖期ではウトロ周辺で100～140個体の生息が観察されますが、全てが繁殖に参加している訳では無く、実際に繁殖行動を行っている“つがい”は●?●つがい程度と考えられています。繁殖期以外では冬期間に網走～羅臼周辺の流水の無い水域で稀に観察される程度です。



瀬戸際? ケイマフリ

かつては現在よりも数多くの営巣箇所がウトロ周辺で確認されていましたが、近年では営巣箇所の縮小が徐々に進んでおり、現在では主な営巣箇所は●?●箇所程度が確認されているのみです。自然豊かな知床半島においてもケイマフリにとっては“瀬戸際”とも言える生息状況です。

SAMPLE

Sample

[このページの先頭へ](#)

「知ってる？」 ケイマフリ

知床世界自然遺産地域 ケイマフリ保護プロジェクト

[トップページ](#)
[ケイマフリはどんな鳥？](#)
[ケイマフリを見る方法](#)
[保護の取り組み](#)
[ウトロの海を見守る「目」](#)
[メッセージ](#)

ケイマフリを見る方法

知床半島ウトロでケイマフリを観察しよう！

知床でケイマフリを見るには？



知床のケイマフリを観察するのなら、繁殖期の5月～8月にウトロの観光船やシーカヤックに乗ると、その姿を見ることが出来ます。通が良ければウトロ漁港の堤防などからも見る事が出来ます。日本国内ではここ知床半島ウトロほど手軽にこの鳥を見る事が出来る場所は他にありません。またケイマフリ以外にも断崖に見られるウミウ、ウミネコ、オオセグロカモメの繁殖コロニーは国内最大級のもので、こちらも一見の価値があります。海鳥の数と鳴き声に圧倒されることでしょう。

ケイマフリは、その美しい鳴き声も魅力の一つです。知床連山や険しい断崖、澄みきった青い空と黒々とした海に囲まれたロケーションの中で、普段味わう事の出来ない“癒し”を体感できるはずですよ。



ウトロ海域 見どころカレンダー

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
海鳥	[Color-coded bars indicating bird activity]											
オシロコシ	[Color-coded bars]											
ヒゲマ	[Color-coded bars]											
ウミウ	[Color-coded bars]											
ウミネコ	[Color-coded bars]											
オオセグロカモメ	[Color-coded bars]											
カモメ	[Color-coded bars]											
ヒゲマ	[Color-coded bars]											
オシロコシ	[Color-coded bars]											

観光船に乗る時のおすすめアイテム！

観光船に乗る時などに便利なアイテムです。快適に、そしてより楽しむために参考にして下さい。



双眼鏡

海から知床を見るには双眼鏡があると大変便利！断崖や湾、海鳥やヒゲマの姿も大きく見えます。双眼鏡を使えば見えるものが格段に増えます。双眼鏡をレンタル（有料）できる観光船もあります。でも覗き過ぎて船酔いしないように！



カメラ

美しい知床の海をたくさん撮影してください。本格的に撮影したいなら一眼レフカメラがお勧め！船の手摺や壁を利用して手ぶれを抑えると効果的。船の水しぶきや雨に濡れると故障の原因になるので注意が必要です。潮風には海水の小さな飛沫も混じっています。お手入れを忘れずに。素敵な思い出と作品をどうぞ！

ケイマフリ 1分でわかる ケイマフリ

ケイマフリ バンフレット

ケイマフリ 知床の海鳥ブログ

ケイマフリ ウトロ海域部会



ケイマフリ ケイマフリ リンク

環境省ウトロ自然保護官事務所

〒099-4354
 北海道斜里郡斜里町ウトロ西186-10
 知床世界遺産センター内
 TEL 0152-24-2297
 FAX 0152-24-3646

環境省釧路自然環境事務所

〒085-8639
 北海道釧路市幸町10-3
 釧路地方合同庁舎4階
 TEL 0154-32-7500
 FAX 0154-32-7575

	天候が優れないときや風の冷たい季節には、レインジャケットやパーカーなどを着ると快適です。陸にいたる時は寒くなくても海上の風は冷たいこともあります。また乗船中に風に当たり続けると想像以上に寒くなるものです。
上着	また知床では7月でも肌寒い時はあります。薄手の軽い物でも役に立ちます。また水飛沫が飛んでくる事もありますから用意しておくといいでしょう。
	海を楽しむ上で酔い止めは最大の敵！せっかくの旅の思い出が台無しです。酔い止めの不安がある時は乗り物酔いのお薬を飲みましょう。
酔い止め薬	

※観光船、シーカヤックは天候や波の高さなどのコンディションにより欠航する事があります。

お願い



ワトロの観光船・シーカヤックガイド事業者・漁業関係者・宿泊施設関係者などの地域の方々のほとんどが、ケイマフリ保護プロジェクトへ参加されており協力体制が出来つつあります。観光船・シーカヤックなどの船舶のケイマフリへのアプローチは慎重に行っており、写真撮影などのための接近のリクエストを頂いても御希望の距離に近づく事が出来ない場合があります。知床の海域自然環境保護のためのワトロ地域の皆さんの“思い”にご理解をお願い致します。

お願い

海にゴミを捨ててはいけません！！

海に棲む生き物達が飲み込んでしまうこともあります。
知床の海をいつまでも綺麗に！

ゴミ捨て禁止！

海上からのゴミの投棄はやめましょう！

SAMPLE ?

[このページの先頭へ](#)

「知ってる？」 ケイマフリ

知床世界自然遺産地域 ケイマフリ保護プロジェクト

[トップページ](#) [ケイマフリはどんな鳥？](#) [ケイマフリを見る方法](#) [保護の取り組み](#) [ウトロの海を見守る「目」](#) [メッセージ](#)

保護の取り組み

知床半島における海鳥の生態調査



知床半島におけるケイマフリの生息状況をはじめ他の海鳥類の生息状況について毎年生態調査が行われています。ケイマフリは切り立った断崖に営巣するため容易に近づく事は出来ません。断崖という厳しい生息環境が調査を困難にしています。ケイマフリの生態の多くが解明されていない原因の一つです。調査は主に小型船舶を利用し沿岸から観察します。

そのほか知床半島における海鳥類の広域調査も実施されており、季節毎の種ごとの分布エリアや個体数などをモニタリングしています。海上での観察は種の同定、個体数のカウントなど高い調査技術が求められます。

調査では大型観光船の「おーろら号」(道東観光開発株式会社)の協力を得て行われています。また調査結果はウトロ地区の観光船事業者をはじめ地元関係者に情報提供されており、専門家・研究者による地域還元の一つの形が実現されています。



ケイマフリデコイの設置



平成23年(2011年)には、かつてケイマフリの繁殖が見られたトークシモイ(通称コケン岩)の新産迫る海に、ウトロ海域では初めてケイマフリのデコイ(海上型1基)が設置されました。ケイマフリほか多くの海鳥は集団で生活する習性があります。この習性を利用してかつての繁殖地にケイマフリを復活させようとする試みです。しかしデコイの効果は時に在来の生息個体の生活形態を混乱させ、悪影響を及ぼす事があります。今後は細心の注意を払い、検証を重ねながら徐々に設置数を増やしていく計画となっています。

平成23年度の海上設置作業では地元のウトロ漁業協同組合から作業船や設置用資材の提供協力を頂き、設置位置や設置方法についての技術的なアドバイスを受け設置されました。このように地域の理解と協力のもとにケイマフリの保護活動は進められています。



デコイの種類



陸上型

陸上設置型デコイ

素材はFRP製で強度を上げるため各部位の作りは丸くなっている。胴体下部に設置用のネジ棒が付いており岩盤や岩に直接設置出来るようになっている。

- 
1分でわかるケイマフリ
- 
パンフレット
- 
知床の海鳥ブログ
- 
ウトロ海域部会
- 
ケイマフリリンク

環境省ウトロ自然保護官事務所

〒099-4354
北海道釧路市釧路町ウトロ西186-10
知床世界遺産センター内
TEL 0152-24-2297
FAX 0152-24-3646

環境省釧路自然保護官事務所

〒085-8639
北海道釧路市幸町10-3
釧路地方合同庁舎4階
TEL 0154-32-7500
FAX 0154-32-7575



海上設置型デコイ

同じく素材はFRP製の2体のケイマフリデコイがフロート板に載っており水面に浮くような仕組みになっている。本体下部には金属製のバランスボールがあり波や風を受けてもひっくり返らない。ボール下端からはロープを介してアンカー（岩などの天然素材）が結ばれ海底に固定される。

ケイマフリをシンボルに・・・地域連携による取り組み



観光事業者を対象とした「海鳥ミニ出前講座」の開催
2011年5月



ホテル・旅館・民泊事業者を対象とした「海鳥ミニ出前講座」の開催
2012年1月

料里町ワトロでは漁業関係者、観光船事業者、シーカヤックガイド、宿泊事業者、研究者、専門家、地域住民、そして行政機関らの地域連携によりケイマフリをシンボルとしてワトロの海域環境保護への取り組みが動き始めました。

多くの観光利用者が訪れる知床国立公園地域、世界自然遺産地域において、どのように人間の社会活動と自然環境の保全・保護の両立を実現するか？それは規制によるものではなく、自然環境を利用しながら保護も実現する「人間と自然環境の“良い関係づくり”」を目標とした保護の取り組みです。

まずはケイマフリについて詳しく知る事、そして取り組みに関する意見交換や情報交換の場として「海鳥ミニ出前講座」を開催しています。今後はワトロ地区各所でのケイマフリPR展示や「海鳥繁殖地海上出前講座」（仮題）など地域の方が主体となった取り組みを展開していきます。

[このページの先頭へ](#)

「知ってる？」 ケイマフリ

知床世界自然遺産地域 ケイマフリ保護プロジェクト

[トップページ](#)
[ケイマフリはどんな鳥？](#)
[ケイマフリを見る方法](#)
[保護の取り組み](#)
[ウトロの海を見守る「目」](#)
[メッセージ](#)

ウトロの海を見守る「目」

現在斜里町のウトロでは海を仕事場とする漁業者や観光船事業者などの海域利用者や漁泊施設関係者らがケイマフリ保護のために協力体制を構築しています。海鳥の研究者や有識者との協力し、地域の自然環境をこれからも守っていくための取り組みが始まっています。

始まったケイマフリ保護への動き

2 ウトロ漁業協同組合によるデコイ設置作業協力



デコイ設置作業

ウトロの海はご存知のとおりオホーツク海の南端に位置します。潮流も速く、また断崖付近では水深も深いため海上設置型のデコイの固定は技術的に難しい要素が多々あります。もちろん主要な漁獲を占めるサケ・マスへの定置網漁業の障害となることも避けなければなりません。平成23年(2011年)から始まったケイマフリデコイの設置に際し、ウトロ漁業協同組合からはデコイ設置のための技術的なアドバイスと設置作業協力、設置のための資材提供がありました。オホーツクの海を生きる生き物への優しさ、同じ海を生活の場とするウトロ漁師の心意気がケイマフリ保護活動を支えています。

2 観光船「おーろら号」による海域観察記録



硫黄山を背に進む観光船「おーろら2号」

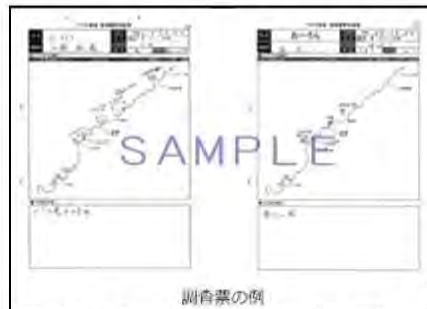
ウトロから出港している大型観光船「おーろら号」(道東観光開発株式会社)では、ケイマフリをはじめ海鳥の繁殖期間中の6月~7月には、通航中の海上に見られる海鳥や海棲哺乳類などの海生生物、沿岸に見られるヒグマなどの観察記録を平成23年(2011年)シーズンから行っています。季節ごとの海鳥の分布状況やイルカやヒグマの確認状況のデータを蓄積することで、観光サービスとしての情報提供を目指しています。

またこの取り組みは海域環境における日々の「パトロール」(巡視)的な役割も果たしていると言えます。今後、野生生物の生態解明に繋がる貴重な記録や、沿岸環境に深刻な影響を及ぼす油の流出事故、魚や海鳥の大量死などの海洋変化の早期発見に繋がる可能性があります。



海生生物の観察記録を実施

★「おーろら号」は専門家による海鳥のモニタリング調査への協力も行っています。



調査航の例

※観察記録は船の安全通航のための業務を優先した上で乗組員が実施しています。



環境省ウトロ自然保護官事務所

〒099-4354
 北海道斜里郡斜里町ウトロ西186-10
 知床世界遺産センター内
 TEL 0152-24-2297
 FAX 0152-24-3646

環境省釧路自然保護官事務所

〒085-8639
 北海道釧路市幸町10-3
 釧路地方合同庁舎4階
 TEL 0154-32-7500
 FAX 0154-32-7575

観光船事業者によるケイマフリPR活動



ウトロ港を拠点に営業を行っている大型観光船や小型（クルーザー）観光船事業者、シーカヤックガイド事業者の方々により、店舗および船内にてケイマフリのデコイを使ったPR展示を行っています。これまではケイマフリについてはあまり積極的に紹介されていませんでしたが、現在では知床の魅力の一つとしてケイマフリの積極的なPRを始めたいです。ケイマフリという海鳥が生息している事を多くの方々知ってもらえる事は保護のための第一歩で重要な要素です。また小型（クルーザー）観光船事業者数社から組織される「知床小型観光船協議会」では、海域環境保全のための募金活動や「海鳥ミミ出前講座」への開催協力などが行なわれています。



観光船は知床を訪れる方々にとって知床の素晴らしい景観や野生動物を見る手段として重要な役割を担っています。知床の海を利用している立場として「海域の持続可能な利用」をテーマに、知床の自然環境の保全・保護と良質な観光サービスの提供を目指しています。



地域の方々が守る知床の海



平成17年（2005年）に世界自然遺産地域に認定された知床半島ですが、地元の方々にとっては自分達が住み日々の暮らしを送っている生活の場です。そこに棲む希少な野生動物植物をはじめ、豊かな自然環境はこれまで守り続けてきた地域の財産であり、誇りです。

【知床の未来がこれからも豊かであること・・・】

それは世界自然遺産地域に認定される前から変わる事のない、地域の皆さんの願いです。

◀ このページの前へ

「知ってる？」 ケイマフリ

知床世界自然遺産地域 ケイマフリ保護プロジェクト

[トップページ](#) [ケイマフリはどんな鳥？](#) [ケイマフリを見る方法](#) [保護の取り組み](#) [ウトロの海を見守る「目」](#) [メッセージ](#)

メッセージ

プロジェクトおよび地域の関係者の皆様より頂いたメッセージのご紹介です。

△△ ○○ 氏 ○○○○委員

知床半島には様々な野生動物が暮らしています。・・・



・・・・・・・・・・と致します。

△△ ○○ 氏 ○○○○部長

知床半島には様々な野生動物が暮らしています。・・・



・・・・・・・・・・と致します。

△△ ○○ 氏 ○○○○課長

知床半島には様々な野生動物が暮らしています。・・・



・・・・・・・・・・と致します。

△△ ○○ 氏 ○○○○係長

知床半島には様々な野生動物が暮らしています。・・・

- 1分でわかる ケイマフリ
- バンフレット
- 知床の海鳥ブログ
- ウトロ海域部会
- ケイマフリ リンク

環境省ウトロ自然保護官事務所

〒099-4354
北海道斜里郡斜里町ウトロ西186-10
知床世界遺産センター内
TEL 0152-24-2297
FAX 0152-24-3646

環境省釧路自然保護官事務所

〒085-8639
北海道釧路市幸町10-3
釧路地方合同庁舎4階
TEL 0154-32-7500
FAX 0154-32-7575

「知ってる？」 ケイマフリ

知床世界自然遺産地域 ケイマフリ保護プロジェクト

- トップページ
- ケイマフリはどんな鳥？
- ケイマフリを見る方法
- 保護の取り組み
- ウトロの海を見守る「目」
- メッセージ

パンフレット



「ウトロ海域パンフレット」

A000.pdf ダウンロード



「海鳥代表種パンフレット（表）」

A002.pdf ダウンロード

- ケイマフリ 1分でわかる ケイマフリ
SAMPLE Cepphus circa
- ケイマフリ パンフレット
SAMPLE PANFLET
- ケイマフリ 知床の海鳥ブログ
SAMPLE BLOG
- ケイマフリ ウトロ海域部会
SAMPLE PROJECT
- ケイマフリ ケイマフリ リンク
SAMPLE KEIMAFURI LINK

環境省ウトロ自然保護官事務所

〒099-4354
北海道斜里郡斜里町ウトロ西186-10
知床世界遺産センター内
TEL 0152-24-2297
FAX 0152-24-3646

環境省釧路自然環境事務所

〒085-8639
北海道釧路市幸町10-3
釧路地方合同庁舎4階
TEL 0154-32-7500
FAX 0154-32-7575

★ このページの先頭へ

7. ミニ出前講座の開催

ウトロ地域において地元で活動している海鳥の専門家および地元識者によるミニ出前講座の開催を行った。対象者は1回目の講座では観光船事業に携わる地元の方々、2回目の開催ではウトロ地区の宿泊事業に携わる方々を主な対象者として2回の開催を実施した。ミニ出前講座の開催を通じて、観光船の現場スタッフの方々やホテル、旅館、民宿などの経営者や従業員の方々に希少な海鳥であるケイマフリや不思議な生態を持つ海鳥について知って頂き興味を持って頂いたようである。

また地域の取り組みとして各所でケイマフリに関する展示などにも積極的に協力して頂けるとの声も多く聞かれ、このような取り組みに対するアイデアなども提案された。ミニ出前講座は行政、研究者、地域の方々との意見交換の場としても大変有効なイベントであると考えられるため、今後も継続的な開催が望まれる。

表 7-1 ミニ出前講座開催状況

開催日	場所・日時	参加者状況
H23年5月30日	斜里町ウトロ（世界遺産センター）	観光船事業者など16名
H24年2月22日	斜里町漁村センター	宿泊業関係者など7名

講座の講師にはウトロ在住で本部会の専門委員でもある知床海鳥研究会 福田佳弘代表に依頼し、また第2回ミニ出前講座では知床小型観光船協議会事務局 神尾昇勝氏（ゴジラ岩観光）から、小型観光船でのケイマフリPRの実施状況および今後の協議会の取り組み方針などを説明頂いた。



知床海鳥研究会
福田 佳弘 代表



知床小型観光船協議会
神尾 昇勝 氏

7-1. 第1回 ミニ出前講座

第1回ミニ出前講座は、第1回ウトロ海域部会と同日開催で実施された。主な対象者は観光船事業者を対象とし、実際に観光船を操船する船長さんやスタッフの方々に参加頂いた。

7-2. 開催概要

会議名	第1回 ミニ出前講座
日時	平成23年5月30日 PM18:30~19:20
場所	斜里町ウトロ 知床世界遺産センター レクチャールーム
講師	知床海鳥研究会 福田 佳弘 代表
参加者	専門委員、観光船事業者など16名
議事	1. 観光サービスと海鳥保護の取り組みについて ・規制に頼らない自然環境保護の仕組み ・知床観光における観光船の重要性と役割 2. 伝えて欲しい海鳥の魅力 ～「知床の海鳥は結構スゴイ」海鳥のホットスポット知床 3. 意見交換



写真 7-1 第1回ミニ出前講座開催

7-3. 議事概要

中村氏	皆様本日はお忙しい中お集まり頂きまして誠にありがとうございます。
中村氏	1. 観光サービスと海鳥保護の取り組みについて
	はじめに ～ミニ出前講座の開催趣旨など説明
	2. 伝えて欲しい海鳥の魅力 ～「知床の海鳥は結構スゴイ」
福田氏	<p>日本の陸地面積は世界で 61 位です。しかし海洋面積ではなんと 6 位で、まさに海洋国家です。海鳥は目に触れる事の多い海洋生物です。海洋生物のほとんどが普段海の中に居ますからあまり目にすることはありません。魚などは魚釣りや漁業では生きている姿を目にすることが出来ますが、ほとんどはお店で売られている死んだ状態の姿です。海鳥は生きた姿で頻繁に目にすることが出来る海洋生物の一つです。海鳥は世界でどのくらい生息していると思いますか？人間の人口は世界で 61 億人と言われていますが、海鳥の場合は世界で約 7 億個体が生息していると言われてい</p> <p>ます。</p> <p>少し海鳥を紹介しながら進めましょう。これはカンムリウミスズメです。この辺では羅臼で稀に見ることが出来るくらいの非常に希少な鳥です。天然記念物になっており世界でも最も少ない海鳥の一種です。</p> <p>次の写真は羅臼の沖に出現したハシボソミズナギドリの子の群れです。数えきれないくらいの群れになっています。</p> <p>次の写真は、これも羅臼に現れた鳥ですけれどもアカアシミズナギドリという鳥です。これは 8 月くらいから増えて来る海鳥ですが南半球のオーストラリアやニュージーランドの南側で繁殖している海鳥です。</p> <p>海鳥は海洋汚染の良い指標生物となります。セグロカモメの例では汚染物質を通常の 250 万倍の量を体内に蓄えていたという調査結果もあります。汚染物質はプランクトンから魚、次にクジラなど哺乳類やトド・アザラシの仲間、海鳥などに食べられてどんどん汚染物質は濃縮されていきます。これを生物濃縮といいます。生態系の高い所に位置する動物には高濃度の汚染物質が蓄積されるという事が起こります。</p>
福田氏	<p>知床半島に暮らす海鳥を御紹介しましょう。知床半島は日本の中では様々な生き物が数多く生息している”生き物のホットスポット”と言えます。さらに知床では世界では希少種と言われている種類の生き物が普通に暮らしています。そのうちの一つが写真のケイマフリです。この海鳥も港を出ればごく普通に見ることが出来ます。知床半島では約 100 羽が生息しています。知床は天売島に並ぶ国内有数の繁殖地となっていて、ウトロ海域の中でもウトロ港から五湖の断崖の間が最もケイマフリが多く見られるエリアです。</p>

福田氏	<p>ケイマフリは普段水面にぷかぷか浮いている鳥ですが、翼を使って泳ぐ事が出来る鳥です。皆さんペンギンを水族館などで見たことがあると思いますが、ペンギンと同じように水中に潜って魚などを採ります。海を泳いで魚を獲ることに特化した海鳥がペンギンなのですが、ケイマフリは潜ることも出来るし空を飛ぶことも出来ます。</p> <p>ケイマフリの世界的な分布は極東地域（北海道～ロシア）のオホーツク沿岸でしか見ることが出来ません。日本国内でケイマフリが最も簡単に見ることが出来るのが知床です。例えば同じくケイマフリが生息している天売島は、フェリーで何時間も乗らないと行く事は出来ません。しかし、ここウトロでは観光船などに乗るとすぐ見ることが出来ます。</p>
福田氏	<p>次に知床で普通に見られる海鳥の一つ、オオセグロカモメです。これはどこでも見られて北海道では珍しくなく、これも極東アジアのみで繁殖している海鳥です。知床半島では約 1,600 つがいが繁殖しています。羅臼側では市街地で約 130 つがいが繁殖しています。この鳥は意外と人間生活に近い所で生活しています。</p> <p>これらのオオセグロカモメが何を食べているか？以前調べたことがあるのですが、するとほとんどがゴミ、それも水産関係の廃棄物が多かったですね。昔、そのようなゴミをその辺にどんどん捨てていた時代には爆発的に増えました。最近ではゴミ処理場などゴミを処理するようになってからは若干減ってきたと言われてます。また何年前からウトロでも羅臼と同様に建物の屋根に営巣するケースが増えてきています。</p>
福田氏	<p>次にウミネコです。皆さん良くご覧になるとと思います。ウミネコは 1997 年に初めて知床で繁殖が確認された事になっているのですが、それ以前からも繁殖はしていたと思われる。これはそれ以前の記録が残っていないという事でしょう。</p> <p>近年ウミネコの営巣箇所にヒグマが侵入し卵やヒナが食べられてしまう状況が発生しています。フレペの滝の付近では以前は近寄るとウミネコの糞の匂いがするほどだったのですが、現在ではほとんど繁殖していません。現在は五湖の断崖の上部などクマが入れない所でのみで繁殖が確認されている状況です。ウトロの三角岩のあたりでも 10 年ぐらい前にウミネコが繁殖していましたが、キツネやカラスなどの食害でヒナが育たない状況でした。</p> <p>ウミネコは歌などにもよく登場する馴染みなる海鳥ですが、この鳥も日本近海のみでしか見られない世界的には希少な鳥の一つです。</p> <p>ウミネコも何を食べているかオオセグロカモメと同様に調査したことがあります。ウミネコはオオナゴやアミエビ（オキアミの仲間）をたくさん食べていますね。オオセグロカモメとよく似た鳥ですが食べている物は結構違うものなのです。</p>
福田氏	<p>次にウミウですが、ウミウは知床半島で約 700 つがいが繁殖しています。知床は日本では 2 番目くらいの大きな繁殖地です。</p>

<p>福田氏</p>	<p>ケイマフリ、オオセグロカモメ、ウミネコ、ウミウの4種類が知床半島で繁殖している海鳥です。これらの海鳥は通常、離島で繁殖する事が多いのですが、知床のように人間が生活している所と地続きの場所でたくさんの海鳥が繁殖しているというところは、知床半島の特徴でしょう。</p> <p>その他の知床で見ることが出来る海鳥を紹介しましょう。これはウトウです。この時期良く見ることが出来る鳥ですが知床では繁殖していません。近くでは国後島、択捉島、根室半島で繁殖していますが、ウトロ付近でも餌を探っています。ウトウはヒナに餌を与えるために夕方に1回だけ巣に餌を持ち帰る習性があります。知床ではウトロや羅臼あたりでも口に魚を一杯啜っているウトウを見ることがありますから、おそらく国後島や択捉島の営巣地まで飛んで行っているのだと思います。時速70km~80kmで飛んで行くのでしょうかけれど、餌を探しにこのあたりまで飛んで来ているのでしょうか。</p> <p>観光船ですと択捉島までどのくらい時間が掛かりますか？</p>
<p>会場から</p>	<p>先端付近だったら2時間~2時間30分くらいじゃないですかね？</p>
<p>会場から</p>	<p>これは夜に飛ぶんですか？</p>
<p>福田氏</p>	<p>そうですね。夕方に飛び立って巣に入るのは、ほとんど真っ暗になる頃です。</p>
<p>会場から</p>	<p>知床岬を回り込んで飛んで行くんですか？</p> <p>おそらくそうですね。海鳥の場合ほとんど内陸部は飛ばないですね。オジロワシやハヤブサなどの外敵に狙われますからね。海上が一番安全なんですね。観光船でも夕日を見るクルージングがあると思いますので、こういう光景を見かけたら是非教えてください。</p> <p>このウトウは漢字で書くと“善知鳥”と書きます。青森の下北半島には“善知鳥神社”という神社もあり昔の物語や狂言の作品にも出てきたりします。昔は下北半島などでも繁殖していた記録があって、その頃では非常にポピュラーな鳥だったのでしょね。</p>
<p>福田氏</p>	<p>次にこの鳥はマダラウミスズメという鳥です。10年ぐらい前にはルシャのあたりで見ることがあったのですが、ここ何年かはほとんど見ることはありません。この鳥は非常に面白い生態を持っていて樹上で繁殖します。世界的にも非常に数が少なく先ほど出てきたカンムリウミスズメよりも数は少ないです。日本では小清水町の藻琴山で抱卵中の親鳥が一度確認されただけです。1970年代では小清水町の海岸で幼鳥と親鳥の7羽が標本用に捕獲されました。大きさはウトウやケイマフリよりずっと小さいサイズです。</p>

福田氏	ケイマフリもそうなのですが、知らないうちに数が少なくなってしまった、という海鳥がいます。その代表的なものがマダラウミスズメですね。同じようにアホウドリも昔はこのあたりにたくさん来ていたようですね。縄文時代の遺跡のあちこちからアホウドリの骨が出て来ています。今は鳥島で数10つがいしか生息していませんが、昔は大群となってこのあたりにも来ていたものと思われます。現在では知床岬や羅臼周辺で極たまに見られる程度ですね。
知床型の海洋保護区のような仕組みについて	
福田氏	海鳥に限らず自然保護の事をやろうとすると、アメリカや他の国から人がやって来て「私の国では・・・」というような話をされます。“ここから先へは入ってはいけない”という事で先住民族を追い出してまで実施しようとしたりもしてきました。欧米型の自然保護という感じで私は捉えているのですが、これは日本には合わないと思います。日本は伝統的に沿岸で漁業を営んで来ました。自然とともに生活してきたんですね。ですから出来ればそんな知恵を出し合いながら、「知床では観光と保護を両立していきましょう！協力をお願いします」というのが私の考え方です。
3. 質疑応答	
会場から	マダラウミスズメを冬に見たことがあります、これはどこから来るんですか？
福田	これはわかりません。ただロシアではサハリンと沿海地域で30数箇所の巣が確認されています。しかし、詳しい生態の研究もほとんどされていません。もし皆さんが見かけた時には是非、御一報頂ければと思います。
会場から	ケイマフリの主食はイカナゴでしょうか？
福田氏	親がヒナに与える餌としては9割がイカナゴですね。その他はギンポの仲間などが見られます。年によって持って来る餌の割合が異なりますので、その年はイカナゴが多い少ないというのがある程度分かる気がしています。
会場から	海を走っていてイカナゴが多い少ないというのが解る事ってありますか？
福田氏	そうですね。指標になるのが海水温ですね。イカナゴにとっては海水温が低い方が多く見られるようです。海水温が上がるとイカナゴが居なくなりカタクチイワシが見られるようになります。先ほど出てきたウトウの天売島では、以前はイカナゴをたくさん啜って飛んで来ていましたが、最近はカタクチイワシがほとんどですね。 過去に天売島で調査していた時代がありましたが、春の早い時期ではイカナゴを持って来るんですけど途中からカタクチイワシに替わってしまうのです。
会場から	ケイマフリはそれが出来ないのですか？

福田氏	それが出来ないようなんですね。私はケイマフリがカタクチイワシを持ってきたのは一度しか見たことがありません。ケイマフリの場合は嗜好性が強いのだと思います。イカナゴは非常に栄養価に優れた魚でハマチの養殖の餌に利用され、多くの海生生物の餌資源になっています。イカナゴを大事にすることで海鳥にとっては良い状況を維持できるかもしれません。
会場から	イカナゴはどこにでもいる魚という訳ではないのですか？もしウトロ付近でイカナゴが居なくなったらケイマフリも居なくなってしまうか？
福田氏	居なくなる可能性は高いですね。天売島でウミガラスが減った原因はイカナゴが減ったからと言われていました。またイカナゴが居ればいいという訳では無くてヒナが食べる時に丁度いい大きさのイカナゴが居る事が大事であるような気がします。ウトロ港の周りにケイマフリが良く見られる理由は、あの辺りにイカナゴがたくさん居るからなのです。何度か潜水して調査したことがあるのですが、人間が近づくと海底からロケットのようにイカナゴが飛び出してきました。私の感じている所では、ケイマフリはイカナゴに左右されている部分が多いのではないかと思います。
	不器用な鳥ほど数が減るんだと思います。ウトウはヒナを巣穴に置いておけるので、より遠くまで餌を探しに行けるのですが、ケイマフリはその器用さが無いのでしょうかね。
会場から	でもペンギンよりすごいんですね。空も飛べるわけですし。
福田氏	海鳥というのは妥協の産物の体をしていると思います。ミズナギドリも海に潜れますし長距離も飛ぶことが出来ます。色んなことを妥協した結果、今の形になっているのだと思います。ケイマフリの目の周りが白いこと、脚が赤い事も何らかの理由があるのだと思います。
会場から	ケイマフリは捕獲したことは無いのですか？それから足環を付けたとか・・・
福田氏	ヒナは一度だけ天売島で捕獲した事があります。足環はその時付けませんでしたが、天売島ではバンダーという足輪を付ける資格を持った人がいて、その人はやっているらしいですね。
会場から	足環を付けたケイマフリが一年後にまた確認された、というような例はないですか？
福田氏	足輪を付けた鳥の再確認率は一割にも満たないですから、なかなか難しいですね。例えばウミウでは夏に天売島で足輪を付けた鳥が、12月にこの辺で死んでいるのが確認されたことがありましたね
会場から	一度の繁殖でヒナは何羽ぐらい成長するのですか？
福田氏	卵は通常2個生むことが多いようですね。
会場から	全体で100羽いたとすると、およそ50つがいがいいて、単純に100個が生れる訳ですか？

福田氏	全てが繁殖活動をしている訳ではないですね。多くても 30 つがいの巣しか見つかりません。解らないことが多いのですが、寿命は 20 年以上と言われていますが、毎年繁殖するのか解っていませんし、巣立って成長し繁殖に参加するまでに 3~4 年かかるとも言われています。生態についてほとんど解ってないのが現状ですね。飼育して観察することもどこもやっていないですね。
会場から	そういう事はやろうと思ってないのですか？
福田氏	やりたいとは思いますが大変ですよ。捕まえるのも大変ですし、もしそれをやって、そこで繁殖しなくなってしまったら本末転倒です。そうならないように生態を観察する方法を考えています。
会場から	発信機を付けて一年間データを取るとか出来ないのかね？
福田氏	発信機も日進月歩で進んでいます。だいたい海鳥の研究者というのはペンギンから始めるんですね。その次にウミウ、その次にウトウとなるんですが、なかなかケイマフリまで実現しません。やはり捕獲するが大変ですよ。ウトウだと巣の所で網を被せればすぐ捕まえられますが、ケイマフリはなかなか捕まえる事は出来ません。
会場から	一羽を犠牲にしても、他の多くの鳥を助けるというのを一度やった方がいいのではないですか？
福田氏	必要かもしれませんね。調査機器の部分では毎年進化して来ていますので、将来的には可能だと思います。しかしその時が来るまで個体数を維持しておかなければなりませんね。
会場から	ウトロ周辺では漁業での混獲というのは無いようなのですが、全くないのか？それとも若干は見られるのか？
福田氏	ゼロでは無いと思います。私も今まで何度か見たことはあります。どういう状況でそうなったのかは結局解らずじまいでした。今年は口の所から釣り糸の様な物が出ているケイマフリを確認しました。最初釣り針が引っ掛かっているのかと思っていましたが、色々な人に聞いてみると釣り針ではなくて網じゃないか？ということが解りました。恐らく網に絡まった小魚か何かを外す時に網ごと切って捨てたものをケイマフリが食べたのではないかと考えています。ですから混獲はゼロでは無いと思います。
会場から	知床半島で約 100 羽という事ですけどもオホーツク全体の沿岸では何羽ぐらいでしょうか？
福田氏	うーん。解らないですね。国後島、択捉島では確実にもっとたくさん居ます。実際に調査を行った事がありますが、たくさん居ます。エトピリカもたくさん居ますね。最近はどうどん開発が進んでいますから心配ですね。彼らに共通するのはウトロの様なこげ茶色の断崖でなければ繁殖はしていないということです。国後島、択捉島に行った時もケイマフリが居るところは、やはりこういう色の断崖がある所でした。ですからこのような断崖の有る海岸環境を守ってあげなければならないと思います。

会場から	天売島にも福田さんのように研究されている方はいらっしゃるのですか？
福田氏	天売島に関しては羽幌町に北海道海鳥センターというのがありますから、そこで調査などをやっていますね。
会場から	そこの情報交換などもやってらっしゃいますか？
福田氏	はい。やっていますよ。
会場から	天売島のケイマフリの数はどうでしょうか？やはり減っていますか？
福田氏	数は減っていますね。私も20年くらい前に5～6年間調査していましたが最近では確実に減っていますね。海上で数える数はそう減っているように見えませんでした。繁殖している数は明らかに減っています。
会場から	天売島も観光船が走ったりして、そこでケイマフリが暮らしている状況なのでしょうか？
福田氏	観光船は1艘あるだけです。
会場から	すると餌の状況とかそういうことでしょうかね？
福田氏	最近イカナゴが獲れてないようですから、そういう事も原因かもしれないですね。
会場から	数も天売島の方が多いですか？
福田氏	そうですね。少しだけ天売島の方が多いですね。
神尾氏	天売島と知床を比較したりして、何か数が減っている原因などは解って来ているのでしょうか？
福田氏	海鳥というのは生息地については保守的な所があって、生まれた所には必ず帰って来ていると思います。ですから“地域個体群“というのが形成されているのだと思いますね。 地域ごとの生態について調査していくことが必要だと思います。
環境省	ウミネコのヒナがクマに食べられているというお話がありましたが、特定のクマがやっているのか、複数のクマによる行動習性なのか解っていますか？
福田氏	どうでしょう？これは毎日見てらっしゃる観光船の皆さんの方が解るかもしれませんね。
会場から	知床半島でもやるし、屏風岩でもやっているのである程度複数のクマがやっていると考えていいのではないのでしょうか？
福田氏	ここ10年くらいですね。以前はそんな事はありませんでしたからね。陸域の生態系の乱れが海鳥にも影響していると言えるのではないのでしょうか？
会場から	結局はそういう生態系を崩しているのは人間だと思いますか？
福田氏	人間でしょうね。海鳥の場合は人間の活動もそうですが、海洋生態系とか気候変動という大きな影響にも大きく影響されるような気がしますね。海水温による影響で自分の獲っていた魚が獲れなくなる、というような影響ですね。
環境省	クマが海鳥の巣を襲う時期はいつくらいですか？
会場から	6月から7月の間でしょうね。

福田氏	彼らはヒナが成長するのを待っているような所もありそうですね？食べ頃の時期を知っているような気がします。卵の頃はあまり来ません
環境省	エゾシカの影響で陸上のクマが食べる植物が無くなってしまって、その影響とも考えられますか？
福田氏	私はそう思いますね。確実にクマが海岸に出る頻度は上がっていますね。
福田氏	幸いケイマフリについては、これまでクマに食べられている所は見た事がないですね。海外ではケイマフリに近いウミバトというのがいるのですが、ミンクによる被害が報告されています。私も何度か知床でミンクを見た事がありますので、今後もしかすると影響が出る可能性もありますね。
会場から	今年コケン岩の所にデコイを設置していますけれど、今後はどのような計画があるのでしょうか？
福田氏	まずは今年の状況を観察してから慎重に検討したいと思います。
会場から	ケイマフリは圧倒的に海に浮かんでいる時間が長いと思いますが、どうしてなのでしょう？
福田氏	ケイマフリをはじめウミスズメの仲間は、ほとんどが海の上にありますね。どんな台風が来ても海にいます。それは海が一番安全だからなのです。ウミウは羽根を乾かすためにどうしても陸に上がるんですが、これはウミウが脚を使って潜る都合、体を濡らして沈み易くする必要があるためです。しかしずっと濡れていると寒くて死んでしまいますから、岩の上などで羽根を乾かす必要があるのです。
会場から	どのくらい潜るのでしょうか？
福田氏	よく解りませんが、ウミガラスで100mぐらいと言われていていますね。
会場から	調査はいつくらいまで実施しているのですか？
福田氏	ケイマフリ以外の鳥については10月まで「おーろら号」が運航している限り続ける予定です。
会場から	今度ぜひアジサシとかよく解らない鳥も結構見ますので色々お話聞かせてもらえますか？
福田氏	もちろんです。是非お話させて下さい。
閉会	
中村氏	皆様どうもありがとうございました。お時間のそろそろ迫って参りましたが、今後も情報交換の場として開催出来ればと思っています。本日はありがとうございました。

7-4. 第2回 ミニ出前講座

第2回ミニ出前講座はウトロ地区の宿泊事業関係者の方々を主な対象として開催された。開催にあたり知床温泉旅館協同組合（佐々木 富美男 会長）の協力を得た。また発表者として知床小型船協議会事務局（神尾 昇勝氏）の開催協力を頂いた。

7-5. 開催概要

会議名	第2回 ミニ出前講座
日時	平成24年1月19日 PM13:30~15:30
場所	斜里町ウトロ 斜里町漁村センター 会議室
講師	1. 知床海鳥研究会 福田 佳弘 代表 2. 知床小型観光船協議会 事務局 神尾 昇勝 氏
参加者	ウトロ地区の宿泊事業関係者など7名
議事	1. 観光資源としてのケイマフリをはじめとした海鳥の可能性について ・本検討会のこれまでの経緯、活動の背景 ～保護と利用の良い関係づくり。地域で守る知床の海 2. 知床の海鳥 ～ケイマフリ的话题を中心に ・知床の海鳥を御紹介。ケイマフリの生態や生息状況について解説 3. 地域参加の取り組みについて ・現在進められている取り組みの紹介 ・今年度のその他の取り組みの実施事例の紹介 4. 意見交換



写真 7-2 第2回ミニ出前講座開催

7-6. 議事概要

第2回ミニ出前講座の開催レポート中間報告として関係者各位に報告されているため、その内容を以下に転載する。

宿泊事業者向け「海鳥ミニ出前講座」の開催レポート

去る平成24年1月19日に斜里町ウトロ漁村センターにて、主にウトロ地区のホテル、旅館など宿泊事業者の方々を対象とした「海鳥ミニ出前講座」が開催されました。当日はお忙しい中、6名の参加者の方々に御来場頂きました。以下に簡単ではありますが、その模様についてレポートさせていただきます。

【プログラム】

1. **観光資源としてのケイマフリをはじめとした海鳥の可能性について**
 - ・本検討会のこれまでの経緯、活動の背景
～保護と利用の良い関係づくり。地域で守る知床の海
2. **知床の海鳥～ケイマフリの話題を中心に**
 - ・知床の海鳥を御紹介。ケイマフリの生態や生息状況について解説
講師：知床海鳥研究会 福田 佳弘 代表
3. **地域参加の取り組みについて**
 - ・現在進められている取り組みの紹介
発表者：知床小型観光船協議会 事務局 神尾 昇勝（ゴジラ岩観光）
 - ・今年度のその他の取り組みの実施事例の紹介（事務局から報告）
4. **意見交換**



「海鳥ミニ出前講座」会場の様子（斜里町ウトロ漁村センター会議室）

1. 観光資源としてのケイマフリをはじめとした海鳥の可能性について

・本検討会のこれまでの経緯、活動の背景

～保護と利用の良い関係づくり。地域で守る知床の海

環境省 ウトロ自然保護官事務所 上席自然保護官 野川 裕史 氏

世界遺産である知床半島の豊かな自然環境を、どのように保護し、また活用していくか？来訪者が知床の自然を堪能し、感動して頂き、自然環境への意識が高めていただくことが国立公園・世界遺産を管理する私共自然保護官の願いです。

知床の豊かな自然、その資質を今まで以上に高めながら、どのように活用するか？という動きが「適正利用・エコツーリズム検討会議」として、地域関係者、行政機関、学識者らによって進められています。

この流れの中から「ウトロ海域部会」が一昨年度より活動が始まり、希少種である海鳥“ケイマフリ”の保全と利用の両立をシンボルテーマとして検討を進めています。

希少な海鳥生息地を後世に引き継ぐこと、来訪者には知って見て頂いて良い体験をしてもらうこと、そして、地域経済の発展にもつながることという良い関係づくりのモデルケースになる事を目指しています。（知床五湖、カムイワッカの滝、羅臼湖などについても、同様の取り組みが進んでいます。）



野川 裕史 氏

本日の企画は・・・

「講座」ウトロ沿岸の海鳥の魅力

「報告」海鳥を守りながら活用する活動

「意見交換」世界遺産でお客様と共有するために

本日は福田さんよりケイマフリを中心とした知床の海鳥についての解説と、小型観光船協議会の神尾さんから、観光船事業者による具体的な取り組みの事例紹介。その他アンケート調査や観光船事業者による海域観察などの活動について報告をさせていただきます。

最後には、この取り組みを今後より大きなものに広げて行きたいと考えていますので、知床を訪れるお客様と、どのようにこの豊かな自然環境を共有出来るか？ということについて、宿泊業に携わる皆様と意見交換が出来ればと思っております。

2. 知床の海鳥～ケイマフリの話題を中心に

- ・ 知床の海鳥を紹介。ケイマフリの生態や生息状況について解説

知床海鳥研究会 福田 佳弘 代表

知床海鳥研究会の福田と申します。よろしくお願い致します。私は知床に来て15年になります。斜里町から依頼を受けたのが最初ですが、現在まで知床の海鳥、特にケイマフリに関する調査を続けております。今回はケイマフリの話を中心に知床の海鳥についてお話させて頂きたいと思っております。

海鳥は海洋生物です。海鳥＝海洋生物と聞いて、皆さんはあまりピンと来ないかもしれませんが、海洋生態系の中でも頂点に位置する生き物の一種で、餌となる小魚や更にそれらの餌となるプランクトンなどが豊かな場所を選んで暮らしています。海洋生態系の頂点には、もちろん他にも魚やクジラなど様々な海洋生物が知床にはたくさん居ますが、海鳥というのは生きた状態で見る事が出来る、最も身近な海洋生物ではないかと思っております。

知床では多くの種類の海鳥を見る事が出来ますが、今回は知床で「繁殖」している海鳥について、その生態と生息状況について紹介します。知床で繁殖している海鳥はオオセグロカモメ、ウミネコ、ウミウ、そして今回の主役ケイマフリです。ケイマフリの名前はアイヌ語のケマ・フレ（赤い足）が語源になっています。繁殖期には甲高い良く通る声で“フィフィフィーッと鳴き、現在環境省の絶滅危惧種の中に指定されています。ケイマフリが何故貴重かという点、極東アジア地域の一部にしか棲んでいないということ、また国内では天売島と知床半島が主な繁殖地で、以前は岩手県や青森県などで繁殖していたのですが、今はかなり数が減ってしまい、なおのこと希少性が上がっているためです。知床半島では私が調査した期間では100羽～150羽の範囲で推移しています。根室半島でも以前繁殖していましたが現在は繁殖していません。

ケイマフリは主にイカナゴ（ちりめんじゃこの大きいもの）を獲ってヒナに食べさせるのですが、イカナゴは低い海水温を好みますので、地球温暖化などの影響で海水温が上がってしまうと、ケイマフリもそれらを獲ることが出来なくなってしまいます。ウトロの港の周辺にイカナゴの生息に適した浅い砂地の海底が分布しています。

ケイマフリはウトロ周辺の海岸の断崖にのみ営巣していて、ヒナの巣立ちには8月のお盆の頃です。警戒心が強く巣から実際に出る巣立ちの瞬間を見るのは稀です。

ケイマフリは大型観光船おーろら号や小型のクルーザー観光船、シーカヤックなどに乗ると比較的簡単に見る事が出来ます。実はこれほど手軽にこの鳥を見る事が出来るのはウトロだけです。

警戒心の強い鳥ですが、脅かさない様に注意して、みんなで保護をして行けば身近に見る事が出来る希少な海鳥だと思います。昨年度からデコイを設置して、過去にケイマフリが繁殖していた断崖に繁殖地を復活させようという取り組みも始めています。みんなでケイマフリを守り、ケイマフリの生息数も増えて、さらには知床に来た方々が気軽に見る事が出来るように、皆さんと一緒にこの取り組みを今後進めて行ければと思っています。



福田 佳弘 氏

3. 地域参加の取り組みについて

- ・現在進められている取り組みの紹介。

知床小型観光船協議会 事務局 神尾 昇勝 氏（ゴジラ岩観光）

知床小型観光船協議会事務局の神尾と申します。どうぞよろしくお願ひ致します。先ほどお話に出て来ましたように、観光船の影響が少なからずあってケイマフリの繁殖が見られなくなってしまったという場所がありました。当時はケイマフリに関する情報も少なく、また実際のところ我々のケイマフリに対する関心は低かったと思います。

知床が世界遺産の認定されるころから、環境省や研究者の福田さんからケイマフリは“スーパーバード”であるということ、危機的な状況であることを熱心に御話し頂き、色々教えて貰いました。そして各観光船事業者はケイマフリの置かれている状況を認識した上で営業をしているという状況に徐々になってきています。



神尾 昇勝 氏

ケイマフリが“スーパーバード”といっても、知床に来られるお客様の多くはヒグマを見たいというお客様が圧倒的に多く、ケイマフリを見たくて観光船に乗られる方というのは残念ながら本当に少ないのが現状です。これまでに福田さんからも熱心に教えて頂きましたので、我々もケイマフリについては希少な鳥で守っていかなくてはならない事をお客様に説明するのですが、やはりお客様のケイマフリに対する関心という点では温度差を感じてしまいます。一生懸命説明しても「ふーん」という事で終わってしまいます。個人的にはケイマフリは赤い脚が非常に綺麗で可愛い鳥だと思っていますし、皆さんにもっと興味を持って頂き愛情を持って接してもらえれば、必ず良い方向に進んで行くのではないのでしょうか？

小型観光船（大型船も含めて）の事業所では、乗船する前にケイマフリを知って頂いていた方が興味を持って頂けるだろうという事で、待ち時間などに見て頂けるようケイマフリの解説ボードを展示したり、貸して頂いたケイマフリのデコイを目に付くところに設置したりして、お客様に興味を持って頂く努力をしています。また先ほどお話があったようにケイマフリは8月中旬には巣立ってしまい以降は見る事が出来なくなりますが、その場合には水上に浮いているデコイを使ってケイマフリの説明することもできます。今後もっと紹介しやすい場所にデコイの設置があると解説がしやすくなると期待しています。

4月中旬から今シーズンも船が走り始めますが、船長やスタッフも解説のスキルアップをして、よりケイマフリについてお客様に深く理解して頂けるようにしたいと思っています。そのほか昨年はケイマフリの日本手ぬぐいを販売させて頂いたのですが、可愛いので女性にも人気が高く、たいへん好評でした。

我々観光船は一番ケイマフリに近い所で営業活動をしていますから、積極的にこのような取り組みに参加していかなければならないと思っています。ここウトロにはケイマフリがいるということをもっとPRしたいと思いますので、宿泊施設の皆様にも御協力を頂き、パンフレットや展示物などでケイマフリを目にする機会を増やしていけたらと思っています。またウトロの街中の色々な場所にケイマフリの模型を置いて「よく目に付く鳥だけどこれは一体何？」というふうにお客様の方から質問されるような仕掛けも、今後考えて行けたらいいですね。

・その他の取り組み 実施事例の紹介（事務局より）

○観光船利用動向調査（アンケート調査）の実施について

ウトロ海域で営業されている大型観光船、小型観光船、シーカヤックの事業者に御協力頂き、利用者へのアンケート調査を実施しています。調査は平成 22 年シーズンの試験実施から継続されており、平成 23 年シーズンでの本格調査実施に至りました。平成 23 年シーズンでは 6 月～9 月までの 4 ヶ月間の配布期間で全配布数 4,857 通、配布に際しては各観光船（シーカヤック含む）事業者の皆様にご多くの御協力を頂きました。知床海鳥研究会 福田氏にも御協力頂きました。

昨年末までの回答数は 1,140 通、全体の回答率は約 23%、特に大型観光船、小型観光船の岬コース（ルシャ・ベアウォッチコース含む）の利用者の回答率は 38%と通常のようなアンケート調査に比べてかなり高い回収率になっており、これは知床に来られる観光客の皆様のご意識の高さが反映されているものと思われま

す。アンケート結果からは、ウトロに宿泊されている方が多い事、事前の情報収集でインターネットの利用率が非常に高い事や、乗船前の期待と乗船後の感想では、やはりヒグマへの期待と知床連山や断崖・滝等の風景に感動されている事。とりわけヒグマをご覧に成られた方の満足度はとても高い事が見えて来ます。また自由な書き込みのコメント欄にも、ほとんどの回答者が何かしらのコメントを記入していただいております。知床へ訪れる観光利用者の方々のニーズや満足度など、今後活かせるたくさんのヒントが含まれていると思われま

○大型観光船「おーろら号」による海域観察記録の実施について

平成 23 年シーズンの 6 月～7 月の期間で大型観光船「おーろら号」「おーろら 2 号」の船長はじめ乗組員の皆様に、業務に支障のない範囲で航海中に海域で見られる海鳥や他の野生動物の出現状況を「海域観察記録」として記録して頂きました。最終的に 59 便分の観察記録票が作成され、ケイマフリや他の海鳥の観察状況、イルカやトドの観察状況も記録されています。

専門家が行なう調査と比較すると、調査精度や調査頻度で及ばない所もあると思いますが、毎日の航行の中で記録されたデータとして今後も蓄積されて来ると、そのデータの価値は高まるはずで

4. 意見交換

進行：環境省ウトロ自然保護官事務所 野川 氏

野川氏	グッズについてお聞きしたいのですが、グッズはどうですか？結構売れましたか？
神尾氏	正直、そんなに売れないだろうと思っていましたが、特に私達が勧めた訳ではないのですが依頼がかなり多くて、私の所で売り切れてしまい隣の事業所に行ってみたら、そちらも売り切れていたという事もありました。私達が思っているよりお客様にはグッズを通して関心を持って頂けたようですね。
野川氏	グッズは手ぬぐいだけでしょうか？
神尾氏	そうですね。今後ストラップや他の物も出来ると楽しいなと思いますね。
福田氏	現在、商品開発中です。(笑) 要望があれば是非お願いします。
参加者から	これはホテルで販売させてもらってもいいのでしょうか？
福田氏	販売先には全然こだわっていませんので、販売して頂けるのであれば、どこでも販売して頂きたいと思います。
野川氏	最近の観光客の傾向、お客様がどんなことを期待してやって来ているか？など世界遺産に登録されてから現在まで、何か最近変化を感じる事はありますか？
参加者から	やはり自然でしょうね。アンケートからもそういう結果が見えますが、ケイマフリの話からすると自然が大き過ぎちゃって、ケイマフリの存在というのはちょっと地味な鳥ですからね。どちらかという说我々もそうですがエトピリカの方が有名ですよ。でもこれからは「知床はケイマフリで行くぞ」ということで小型観光船も保護に協力してくれている訳ですし、歩調を揃えてやったら私は良いではないかと思いますね。 私達も昔スノーモービルをやっていたので、このあたりでは全国大会、全道大会などを頻繁に開催していて、元旦の初日の出には峠までツアーで行ったりしていました。しかし、その時に博物館から「2月頃はシマフクロウの抱卵の時期だから考えてくれ」と言われまして、「よし、それじゃもう止めよう」ということで、止めたという事もありました。やっぱり地元の方は自然の保護には協力的ですから、こういうのは大いにPRしていけばいいのではないかと思いますね。
福田氏	例えば天売島のウミガラス（オロロン鳥）や、浜中町のエトピリカというのは、かなりPRしてお金もかけて保護も行われているのですが、世界的に見るとウミガラスもエトピリカも大陸からヨーロッパ、北アメリカの北部の海岸に広く生息していて結構たくさん居ます。それに比べ、ケイマフリは極東の一部でしか見る事が出来ない貴重な鳥です。どこでも見る事が出来る鳥ではなくて、オホーツク海を代表する希少な海鳥だと思います。そういう所をPRして頂ければ、知床の特徴的な生き物の一つになるだろうと思いますね。
野川氏	ダイナミックな自然がお客様の興味の中心となっている中で、ピンポイントな生き物をPRしていくのは、なかなか難しいだろうと思うのですが、ほかにはいかがでしょうか？ダイナミックな生き物以外にも、探究心が強いお客様の求めているものなど、御意見を聞く事はありますか？

参加者から	ヒグマについては物凄く関心が高いのは感じるのですが、残念ながら海鳥ではあまり感じないですね。アンケートにもあるように、観光船に乗る時には寒いとか、手袋が必要だとか、そういう情報は欲しがっている事は感じます。
福田氏	やはり事前にインターネットなどで調べて来られていると思うので、その中にケイマフリの情報を提供する形が出来れば、お客様の関心を高めるのに効果的なのだと思いますね。
参加者から	今日このお話を聞いて、ホテルの中でも観光船ではどんな物が見ることができて、どんな魅力があるのか？という話はヒグマ以外にはほとんどやっていないのが現状ですね。ですから海鳥の話とかは今シーズンはどうやっていけたらと思います。羅臼の方からはクジラやイルカの観光船が出ていて、他にどんな海鳥が見えたかという情報もホテルでは貰っているのですが、ほとんど皆さん興味は持っていないのかな？という感じですね。
野川氏	漫然とPRしてもやはり駄目なのでしょうね。
福田氏	私も海鳥の話をこういう所で良くするのですが、クマやシマフクロウの話をする時に比べて、正直集まりは悪いですね。でも、そこを諦めずにPRしていきたいと思っています。いかに関心を持ってもらうか？というのが大事で、どうやって“見たい”という気持ちにさせるか？が重要で、皆さんの様にお客様に普段接している方々と一緒にやれば理想的ですね。
野川氏	ケイマフリだけに限った事では無いですが、知床の自然を感じてもらうために、何かこういうものがあつたら、もっと良い体験を提供できるかもしれない。というのがあれば是非教えて頂きたいと思うのですが、いかがでしょうか？
参加者から	観光船の船内放送の人の力っていうのは結構大きいですよ。あの人たちは生で喋りますからね。個性を出してとても面白く紹介しています。ですからケイマフリについても「あそこにケイマフリが居ますけれども、こういう珍しい鳥で、知床に来て見る事が出来て皆さんラッキーですよ」というような感じで、まずケイマフリという鳥を覚えてもらうという所からスタートするのが良いのではないのでしょうか？
野川氏	“お得でしたね！”というところですね。
参加者から	バスに乗ってクマを見た時が最高だったりする訳ですからね。ガイドがクマを見つけて「あそこにクマが居ますよ」と見せてあげると、お客さんは宿へ帰って来てからも「クマを見た」とうことで興奮していたりしますからね。
福田氏	やはりクマは大きくてインパクトありますからね。
参加者から	知床に対する期待というのはクマとか山とか滝への期待が凄く大きいですね。今回海鳥の話というのは私も初めて聞いたのですが、観光協会のホームページとか他の知床の関係のホームページでも、色んな所でケイマフリを目にする事が出来るようにしないと皆さんに知って貰えないのではないのでしょうか？私自身も以前シーカヤックに乗る機会があって、その時ケイマフリについても説明されたのですが、「そういうのが居るんだ」というくらいしか印象に残ってないですね。名前は聞いて覚えていても、中身についてまで解っていないから、その程度の印象で終わってしまう。地元の人でもそういう感じですから、観光客の皆さんはインターネットなどで知床関係の所を開いたら、色んな所に

	<p>出てくるような形にするしかないのではないかな？と思います。ヒグマやオオワシを見れば、やはり感動しますよね。でもケイマフリをただ見て感動してくれと言っても、遠くて小さくしか見えなかったりする事もあるでしょうし。でもこれからは、ただ見るだけの観光に成らないようにしないと駄目だと思うんですよね。我々がお客様に知ってもらえるように、色々と考えて行かなければならないのではないかと思います。</p> <p>今回震災があって、修学旅行客が結構訪れましたよね。今説明を聞いて思ったのですが、こういう出前講座をそういう修学旅行の生徒さん達に説明したらとても良いのではないかと思います。彼らは勉強のために来る訳ですから、ホテルで10分でも15分でもいいですから、そういう知床の自然について説明すると、修学旅行の誘致にもなるような気がします。</p>
野川氏	知床観光の中には、修学旅行のように「学ぶ」という旅行形態もあると思います。知床には「学ぶ」というテーマで説明出来る事はたくさんあるな、というのを日頃から感じるのですが、特に“守りながら活用しましょう”というところは学習要素としては非常に面白い所だと思いますね。
参加者から	皆さん学習するために来る訳ですからね。生徒さん達の親への説明についても「だからウトロ（知床）に行くんだよ」というための材料の一つになると思います。
福田氏	斜里町博物館と協力して、そういった事も出来ると思いますね。非常に良い御意見だと思います。そういった修学旅行の中にも自然教育というプログラムを入れて頂いて、その一つにケイマフリの話もするというのは良い事ですよ。またケイマフリは注意すれば影響を与えずに見る事が出来る。シーズン中であればほぼ100%見る事が出来ますから、その点も重要です。
野川氏	確実に見られるのは5月、6月、7月、それと8月ですか？
福田氏	そうですね。8月は中旬までですね。クマも最近は確率高いですよ？
神尾氏	比較的安定していますね。
神尾氏	現状ではどうしてもヒグマがメインで、ケイマフリをいくら上手く説明しても「私はヒグマを見に来たんだ」という人が圧倒的に多いですから。それを変える手立てとしては、やはり皆さんに協力頂いて事前にヒグマ以外の小さい動物を我々がPRしてあげると、ヒグマに次ぐ良いキャラクターに成り得るのかな？と思います。
野川氏	ヒグマを見るとかなり“お得感”がありますが、今ケイマフリを見てもあまり“お得感”は無いですよ。そこでケイマフリを見た時に“お得感”を感じられる“語り”ですか、事前の周知があったりすると、「ヒグマも見たしケイマフリも見たよ」というふうになって来ると成功ですよ。
参加者から	今、小型船などで双眼鏡は、持っていますか？
神尾氏	双眼鏡はレンタルで、どこの事業所さんも持っていますよ。ヒグマも場所によっては遠い場合もあるので、そういった形でリクエストが以前からお客様からありましたので、今はほとんどの事業者さんが用意しています。
野川氏	おーろら号さんは、どうでしょう？
福田氏	貸し出ししていますよ。ただおーろら号さんからヒグマは少し遠いのですが、ケイマフリであれば見られますので、去年はポスターやデコイも展示して頂いています。さらにPRしてもらいたいですね。

野川氏	大型観光船のおーろら号のアンケートの所を見ると「ヒグマが見たかったが見られなかった」というのが結構ありますね。おーろら号はウトロ観光の主力でもあるため、主力商品の満足度の向上といった面でも「ヒグマは見られなかったけれどケイマフリは見られた」というように、少しでも満足度の上積みは出来ると思います。調査にも協力して頂いておりますし、そういった地域の活動として一緒に色々出来ればいいなと思います。
事務局	例えば何か展示するものとしたら写真はやはり必要でしょうかね？クマの写真などはこの宿泊施設でも展示してあったりしますが。
参加者から	泊まったお客さんで、いいカメラを持っていて、凄くいい写真が撮れた時には、わざわざ送ってくれて「どこかに貼っておいてください。」という人もいますよ。やはり撮った自分も知床でそういう写真が撮れたということが嬉しいのでしょうか？ そういう人も居ますからケイマフリの写真を撮らせてあげるとか。どうしても知床はオジロワシやオオワシが目玉になってしまいますけどね。
福田氏	今回皆さんにお持ち帰り頂こうと思ってポスターを用意してきました。
参加者から	これはいいですね。
野川氏	先ほどグッズの話がありましたけども、やはりPRには良いかもしれませんね。他にどんな商品を考えていますか？
福田氏	他にはエコバックとかキーホルダーを考えています。
福田氏	それと知床海鳥研究会で知床の海鳥を紹介するパンフレットを作っていますので今回皆さんにお渡ししたいと思います。もし興味があってもう少し欲しいという方は、また今年作りたいと思っています。
神尾氏	船に乗らないとヒグマはなかなか見られません。車からはあまり確率が高くない。シカとかキツネは車からでも見る事は出来ますがヒグマを見てないから船に乗って見たい、という方が来られる事があります。 知床で出会える生き物として一般的にリスト化されるなかに、ケイマフリは入っていないので、その中に入る様な知名度を付けたいと思いますね。
福田氏	知名度が上がれば見たい人も増えて、観光船でもお客さんが増える事になりますね。
神尾氏	町のPRとしても、町のいろんなところにケイマフリを露出していかないと効果が上がっていかないのではないかと思います。
福田氏	例えば天売島のある羽幌町などはオロロン鳥、オロロン鳥・・・と盛んにPRされていて、町の北側と南側の道路沿いに大きなオロロン鳥の模型が立っています。どうやら昔「ふるさと創生金」で作ったらしいのですが、それぐらいPRしています。お土産にもオロロン〇〇という名前を付けていますね。
野川氏	知床は本当にいろんな動物に会える場所なので、やはり「知床に来てこれとこれは見たよね」というような話が出来て、お客様にとっては達成感みたいなものを知床に来て感じてもらいたいと思います。その中にケイマフリも入っているといいですね。ただし、見るためのルール・マナーは必要ですが。
福田氏	“達成感”というのは大事だと思います。“お得感”というか“誰も知らないこれを見た”というようなものですね。そういう気分になってもらえたらいいですね。
野川氏	ケイマフリだけでなく他にも色々な物が見つけられると良いですね。例えば今はオオワシが見られますが、逆に夏は見られません。そういうものが季節ごとにあるとリピー

	ターの獲得にも繋がりますね。
参加者から	ケイマフリは 8 月以降巣立った後は見にくくなって、カモメ類などは流氷が入ってしまったらあまり見られなくなって、少しでも開いたらまた戻って来ますよね？その間はどこへ行っているのでしょうか？
福田氏	海鳥は海で生活していますので、基本的には旅から旅・・・という生活をしています。ケイマフリですと冬の間には主に羅臼から根室、また流氷観光船のおーろら号などからも見られたりします。カモメ類は海面が出ている所に移動しているのだと思います。ケイマフリは流氷が開くと間もなく入って来ます。そのほかには彼らが餌資源としている魚の動きですね。8 月とか水温が高くなって来る季節には居なくなってしまいます。また水温が低くなると戻ってくる種類の鳥もいますし、水温が高いから今年は飛来が少ない、というような鳥もいますので水温の影響で分布が変わって来ることがあります。
参加者から	カモメやケイマフリが陸や断などを利用しないで、海だけで生活する事は可能なのですか？
福田氏	いいえ。むしろほとんど海から上がらないです。ケイマフリもほとんど陸には上がりません。どんなに海が荒れていても林の中で休んでいるというようなことはしません。彼らにとっては人間と全く逆で、外敵が少ない海こそ最も安全な場所です。陸の近くをウロウロしているとワシなどにも襲われてしまいます。海鳥は大きく成長してしまうと、沖にいる限りは意外と外敵が少ないのです。ですから彼らが岸に近寄って繁殖するというのは、相当なリスクを背負って繁殖しているという事なんです。
参加者から	繁殖のために岸に上がって来ているのですか？
野川氏	ケイマフリの繁殖は 4 歳から 5 歳から始まるということですが、巣立ってしまったら次に自分が繁殖するまでの間は岸に上がって来ないという事ですね？
福田氏	そういうことですね。
参加者から	ウトロの港にいっぱい居るカモメなどはどうでしょうか？
福田氏	カモメの類は岸に上がって来ます。カモメは真水を飲まないと生きていけません。沖に居る海鳥は海水を飲んで生活しているのですが、カモメは真水を飲まないと生活できないのです。
参加者から	カモメは海水だけでは生活できないのですか？
野川氏	ミズナギドリなどもそうですか？
福田氏	そうですね。絶対に陸には上がりません。
野川氏	ウミウはどうですか？
福田氏	ウミウは羽根を乾かさないといけないので陸に上がります。ウミウは潜る度に羽根の間に水が入ってしまいます。より沈んで潜り易いような羽根の構造をしています。
参加者から	カモメは基本的に真水を飲める所に居ないと駄目だという事ですね。ずっと海上だけでは生活できないという事ですね。
福田氏	よく幌別川やペレケ川の所で水浴びしていますが、それは水を飲むためにもやって来ているのです。
野川氏	ウミウは羽根を乾かさないと駄目なのですか？
福田氏	駄目なんです。溺れてしまいます。体も冷えて寒くなってしまいますね。

	彼らはより潜るために羽根が濡れるというリスクを背負っています。
参加者から	ヒメウは全然出て来ませんでした、ヒメウも居ますよね？
福田氏	ヒメウも居ます。実はヒメウも絶滅危惧種です。でもここではたくさん居ますね。彼らはもっと北の方で繁殖しています。
野川氏	ヒメウはどちらかというと冬に多いような気がします。
福田氏	一年中居ます。冬もちろん居ますよ。
参加者から	今日取り上げなかったのは、ウトロで繁殖していないからですか？
福田氏	今日はウトロで繁殖しているものだけを説明させて頂きました。色々お話ししたいのですが、何十種類も居ますので説明するには少々時間が足りません。(笑) やはりホテルのお客様へのミニレクチャーというのも実施するのも良いのかな？と思いますね。海鳥の話というのは、少しずつでも継続してやり続けるというのが大事なのかなと思います。環境省さんも最初の頃“海鳥は大事だ”と話しても全然振り向いてもくれませんでした、最近は振り向いてくれるようになりましたからね。(笑) 続けていくことが大事ですね。
野川氏	それでは次回は保全活動の発表ではなくて、「海鳥の不思議」のような、そういう発表の場を設けて皆さんとお話し出来ると良いですね。
福田氏	そうですね。斜里町と羅臼町の高校生には毎年実施していますが、是非やって行きたいですね。
野川氏	「海鳥の不思議さ」というような紹介の仕方が、お客様にも情報提供し易いのかもかもしれません。そういう事にも力を入れて行ければと思います。
野川氏	それでは時間も少し過ぎてしまいましたので、本日はこれで終了したいと思います。皆様本日は誠にありがとうございました。

ミニ出前講座を終えて

ウトロ自然保護官より皆様へ

国立公園・世界遺産地域をはじめとしたこの知床半島には、多様な景観・静寂な環境・豊かな生態系・生き物のつながりがあります。これらの資産は守りながら、賢く活用して行くことが、知床への来訪者にとっても、ここにすむ私たちにとっても、そしてこの地に息づく生き物にとっても大事なことです。

ウトロの海にて“ケイマフリ”をみんなで守り、活用する活動も、上記精神のもと一昨年より実施してきました。お配りしますアンケート結果の2ページにあるように、観光船を利用した方の8割がウトロに宿泊される方です。この活動をウトロにおける地域ぐるみのもので進められるよう、宿泊業の皆様の協力をいただきたく思います。

またこのような発表と意見交換の機会も企画していきたいと考えておりますので、今後とも御理解と御協力賜れます様、よろしくお願い致します。

ウトロ自然保護官事務所 野川

8. 知床国立公園における海域適正利用の具体的対策の検討

本事業における今後の具体的対策として4つのポイントを検討した。ケイマフリの保護の取り組みの継続性については大きな課題であり、今後永続的にこのような取り組みが地域で継続されていくための仕組みづくりが必要となる。平成22年度からの3カ年計画の中では今後の取り組みの継続性を踏まえ、しっかりとした取り組み基盤（地域の方々の理解と協力体制）が作られるよう努力することが重要である。保護と利用のよい関係づくりの取り組み成功事例となるよう進めていく必要がある。

具体的対策 4つのポイント

- ① ケイマフリをはじめとする海鳥の生態調査
- ② ケイマフリの生息に関する啓蒙普及の継続
- ③ 取り組みの継続のための実施体制の確立
- ④ 海鳥営巣地保護エリアの設定や自主ルールづくり

8-1. ケイマフリをはじめとする海鳥の生態調査

ケイマフリや他の海鳥の生息状況を把握するモニタリング調査はケイマフリ保護の取り組みに対する成果（効果）を検証するためにも必要と考えられる。また今年度設置が開始されたケイマフリデコイの効果検証は、今後のデコイ設置計画検討にも必要不可欠なものである。調査内容と調査規模については必要かつ十分な調査方法で計画するものとする。実施予算の都合も考えられるので、優先順位や調査回数などは柔軟に対応出来るようにすると同時に、効果的な調査を実施するため有識者の助言などを頂き計画する必要がある。

8-2. ケイマフリの生息に関する啓蒙普及の継続

本年度の取り組みでは観光船事業者へのケイマフリデコイの貸し出しが行なわれている。観光船事業者各社では工夫を凝らしたケイマフリデコイの展示も行われ、啓蒙普及の目的の他にも、観光船事業者の海鳥への関心度の向上にも貢献があったようである。そのほか第2回のミニ出前講座ではウトロ地区の宿泊業関係者を対象に開催されたが、観光船以外の業種に対しても展示支援を行うなど、取り組みの輪を広げていく努力が重要である。ウトロ地区でのケイマフリデコイを使った展示支援は“色々な所で目にする海鳥”という状態になるのが理想的である。

効果的な啓蒙普及のために工夫を凝らした手法が望まれる。環境教育素材としての利用や、修学旅行生などへの出前講座開催、実際に繁殖地の観察を行いながら開催す

る出前講座なども話題性もあって相乗効果が期待できる。

また今年度はケイマフリ Web サイトの構築も行われているため、インターネットを利用した情報提供は積極的に行っていくべきである。

8-3. 取り組みの継続のための実施体制の確立

現在開催されている「ウトロ海域部会」は行政、有識者、地域関係者らの情報交換の場として有効に機能していると考えられる。現在は行政の事業実施の中で行われており行政主導で実施されているが、着実に地域の関係者間の距離は縮まり、協力関係が築かれつつある。行政の関与は今後も必ず必要であると考えられるが、徐々に地域主体の取り組みへシフトしていくことが望ましい形であると思われる。そのためにも保護の取り組みが自分達のメリットへ繋がる保護と利用の良い関係“Win-Win-Winの関係”を実現する必要がある。

今年度実施した「海域状況観察記録」は観光船事業者自らが実施することの意義が大きく“自然に配慮している観光船”として利用客に対してアピールポイントとなり得る。今年度観察記録を実施して頂いた「おーろら号」(道東観光開発株)においても、その事を理解した上で積極的に取り組んで頂いた。今後も可能な範囲で継続して頂きたいと思われるが、そのためには実施者が実施したことによる成果や効果を感じられるものでなくてはならない。そのため観察結果のデータベース化、観察技術の向上などで支援していくことが必要である。

またデコイを使った展示協力については、観光船利用客が少しでも期待感が高まったり、喜んでもらえれば、事業者にとっては価値のあるものである。展示しているからには利用者にはしっかりと正しい情報を解説出来なければならず、そのためには海鳥調査の結果の提供支援が必要である。

ケイマフリ繁殖地の復元のためデコイ設置および周辺への立ち入り制限についても、観光船の近づけないということのマイナスに対して、繁殖エリアとは別の場所で観光用デコイを設置してケイマフリ保護の取り組みを利用者に紹介して頂くなど、ウトロの観光船の自然保護への意識の高さをアピールするというプラスに変えることが出来る。

このように、地域の海域関係者が自然保護の「主体」となって頂くための支援が、今後の行政の役割であると考えられる。

8-4. 海鳥営巣地保護エリアの設定や自主ルールづくり

今年度トークシモイ（通称コケシ岩）の湾にケイマフリのデコイが設置された。今年度は特に設置後の接近ルールなどは検討されなかったが、今後の本格的なデコイ設置に向けて観光船事業者の付近への接近ルール（自主ルール）の構築のほか、シーカヤックも含めてケイマフリ個体への接近可能距離の定義や判断基準等の整備も必要となってくる。現在の「ウトロ海域部会」では、各分野それぞれの参加者の間では十分協議できると雰囲気があるので、次年度以降ではルール作りに向けた意見交換、素案作りの協議を開始できるものと思われる。

9. 別途業務との連携協力

今年度環境省で実施されている「平成 23 年度知床国立公園ウトロ海域における海鳥調査業務」からは、第 2 回ウトロ海域部会（H23.10.5 世界遺産センター）での調査結果中間報告を発表していただいた。

10. 今後の課題

今年度の実施事業の中から次年度実施の際への改善箇所および提案を以下に示す。

10-1. 利用者動向調査

① 配布数量の検討

今季の目標配布数量は実施状況から判断すると、事業者の負担になっていたケースが散見された。次年度以降では配布のコツなども理解されていると考えられ負担も軽減できるものと予想されるが、配布計画数量はもう少し減らしても十分なデータは得られるものと思われる。

② 配布方法の確立

大型船では船内放送によるアンケート協力依頼が非常に効果的であった。大型船の配布方法についてはある程度確立されたと考えられる。小型観光船では航路別の配布数コントロールが出来なかったが、事業者ごとの配布分担を今季の状況を踏まえた確に計画することが必要である。

また団体ツアー・個人旅行別の配布コントロールは困難であると思われる。バス会社やツアー会社の協力を得て実施する事も考えられるが、自前のアンケートを実施する都合拒否されたケースもあったとのことである。調査結果の分析についても回答票で旅行タイプも把握できるため、この点についてはあまりコントロールにこだわる必要は無いとも思われる。

③ 集計方法の検討

前期・後期別の集計比較を行ったが、あまり明瞭な差は見られなかった。分析方法については、より効果的な集計項目の組み合わせを試験し、データの効果的な活用が望まれる。

10-2. 海域状況観察記録

① 調査票の改善

A4 縦の帳票を使用したが入りの状況から地図の部分が少し小さかったようで、記入した文字が窮屈そうであったことから、状況が許せば A3 横などの大きな調査票を用意できると良い。実施者の意見も聞きながら改善することが必要。

そのほか「風向」の記入欄を追加すること、地図部分は陸地部分に等高線等を入れてより位置関係をつかみ易い地図にすることが必要と思われた。

② 蓄積データの評価とデータベース化

記録された内容について専門家のレビューを行い、実施者に解説することが必要。「実施した結果がどうだったのか？」の情報提供は継続するために不可欠である。また位置情報、観察記録をデータベース化しておくことが有効なデータ利用のために必要となるため、シンプルな形でのデータベース化を検討すべきである。

③ 実施の PR

このような観察を行っていることは、事業者にとっては大きな PR ポイントとして有効である。インターネットサイト等でも PR することが望ましい。

10-3. 広報用のホームページ作成について

今年度ではケイマフリの解説および取り組みに絞ったサイトを第一段階として作成したが、今後は旬な情報の提供によりサイトの情報鮮度を保つこと、また地域関係者の声や活動を積極的に紹介し、ホームページの中に様々な形で登場してもらう企画など、取り組みの動きが伝わるようなアイデアなども盛り込んで行かれると有効と思われる。また動画によるケイマフリの紹介も効果的である。現在は他地域で撮影されたケイマフリの動画を使用した物となっているが、ウトロ地区で撮影されたケイマフリの動画も必要である。今後コンテンツの充実とともに Web サイトが成長していくことが期待される。

10-4. ミニ出前講座の開催

今年度は2回のミニ出前講座を開催したが、現状としては海鳥に対する関心度は高いとは言えないが、講座に参加された参加者の多くは興味を持って聞いて頂いていた様子であった。ケイマフリ保護をシンボルとした地域の取り組みの第一歩として、まず地域の皆様に良く知ってもらう事が重要であり、またミニ出前講座は行政機関、研究者、地域の方々との意見交換も場としても大変有効なイベントであると考えられるため、今後も継続的な開催が望まれる。

また一般観光客を対象にしたものの企画や、地元の学校をはじめ修学旅行なども対象とした環境教育のコンテンツとしても有効なイベントであると考えられる。

《謝 辞》

本業務の実施に際し、専門委員の皆様をはじめ、地域の方々の多大なるご協力を賜り成果を得る事ができました。利用者動向調査においては、大型観光船の道東観光開発(株)様(おーろら号)、小型観光船事業者の各社の方々にはアンケート票の配布を快く引き受けて下さいました。またウトロ漁業協同組合、知床斜里観光協会、斜里知床博物館、斜里町役場の皆様には貴重な助言と御指導を賜りました。たくさんの地域の皆様のご協力に感謝し、ここに厚く御礼申し上げます。